

授業科目名: 日本史	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数: 2 単位	担当教員名:相庭 達也 担当形態:単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史		
授業のテーマ及び到達目標 1、歴史的事象について主体的に考察し、各自がしっかりと認識する。 2、現代の様々な事象を批判的に捉え、主体的に生きるための指針を自ら構築する。 3、「日本歴史」について、興味・関心を持つ。			
授業の概要 この授業は先史から現代までの日本列島における歴史事象について各自が認識する事を目標にしています。ただ、15回の授業ではとても不可能です。したがって、各時代において象徴的な事象に焦点を当て、その時代を概観することになります。そのことにより、日本の歴史について認識するとともに、過去の事象について考察する姿勢を身に付け、どのような未来を構築するのかについて意識することを「ねらい」とします。したがって、単に「記憶」を求めるのではなく、「理解」や「考察」を促す授業となります。(可能な限り「討論」を行いたいと考えています。)			
授業計画 第1回:オリエンテーション 1、授業の進め方について説明します。 2、日本史を理解する上で鍵となる「日本」と「天皇」について解説します。 第2回:先土器・縄文・弥生文化の特性について 1、3つの文化の特性を主に「道具」と「信仰」の視点で解説します。 第3回:卑弥呼と「古墳」時代について 1、邪馬台国の「実際」と「古墳」の特性について解説します。 第4回:古代の政治と社会について 1、「平城京」と「平城宮」の違いなどから奈良時代を政治について解説します。 2、平安時代の貴族の生活について解説します。 第5回:古代の文化財について 1、古代の仏像や寺院について紹介します。(文化財の鑑賞方法) 2、「密教」と「浄土教」について解説します。 第6回:中世の産業・社会について 1、中世期の産業発達の実態について解説します。 2、「惣村」の形成と「一揆」について解説します。 第7回:中世の文化財について 1、中世期の文化財と芸能について紹介します。 2、「鎌倉仏教」について解説します。 第8回:信長・秀吉・家康について 1、「戦国時代」の実際について解説します。 2、三者の政治・外交上の特性について解説します。 第9回:近世期の政治と社会について			

<p>1、幕藩体制の構造について解説します。</p> <p>2、江戸期の農村状況について解説します。</p> <p>第10回:幕末から明治政府の政治について</p> <p>1、「開国」とその影響、更に幕府滅亡までの過程について解説します。</p> <p>2、明治初期政府の政策の一部について解説します。</p> <p>第11回:日清・日露戦争と「韓国併合」について</p> <p>1、日清及び日露戦争までの過程とその実際について解説します</p> <p>2、「韓国併合」までの過程について解説します。</p> <p>第12回:明治・大正期の産業と社会について</p> <p>1、明治及び大正期における産業の発達について解説します。</p> <p>2、同時期の労働、社会社会主義運動の実態について解説します。</p> <p>第13回:昭和期の経済と社会について</p> <p>1、「金融恐慌」から「昭和恐慌」までの過程とその実際について解説します。</p> <p>第14回:昭和期の大陸侵出について</p> <p>1、「山東出兵」と「張作霖爆殺事件」並びに「満洲事変」の実際について解説します。</p> <p>第15回:アジア・太平洋戦争について</p> <p>1、「日中戦争」から「アジア・太平洋戦」までの過程とその実態について解説します。</p> <p>定期試験</p>
テキスト:特にありません。
参考書・参考資料等:随時、授業内で推薦図書を紹介します。
学生に対する評価
授業内課題 45% レポート 55%

授業科目名: 世界史	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数: 2 単位	担当教員名:三浦 順子 担当形態:単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史		
授業のテーマ及び到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・ 近現代史を大まかに理解する。 ・ 近現代世界の歴史的プロセスを相互的視野から捉え、現在の諸課題の形成過程を考察する。 ・ 現代的諸課題の形成に関わる近現代の歴史を基に議論する力を養う。 			
授業の概要 <p>本講義では近代世界の形成過程に焦点を合わせ、その内に見られる問題点を考察します 18 世紀以降の近現代史の概説を通じて、歴史事象の意味や特色について多面的・多角的に考察して説明・議論できる力を養うことを目的とします</p>			
授業計画 <p>第1回:イントロダクション:講義構成の概要・受講方法の説明 第2回:近現代史から考える現在の問題:1 「西洋史」・「世界史」の理解 第3回:近現代史から考える現在の問題:2 「近現代史」の意味・意義 第4回:近代化:1 近代化の理解 第5回:近代化:2 産業革命 第6回:近代化:3 アメリカ独立革命 第7回:近代化:4 市民革命 第8回:国際秩序の変化と大衆化:1 20 世紀転換期の国際秩序の変化概要 第9回:国際秩序の変化と大衆化:2 帝国主義と大衆化 第10回:国際秩序の変化と大衆化:3 2つの世界大戦 第11回:国際秩序の変化と大衆化:4 冷戦体制と脱植民地主義 第12回:グローバル化:1 グローバリゼーションとグローバル・ヒストリー 第13回:グローバル化:2 現象としてのグローバリゼーションとその影響 第14回:グローバル化:3 モノのグローバル・ヒストリー 第15回:グローバル化:4 グローバル・ヒストリーの政治</p> 定期試験			
テキスト:なし			
参考書・参考資料等:講義中に都度紹介する			
学生に対する評価 授業への参加態度 30% 小テスト 70% 小テスト(期末テスト含む)の合計			

授業科目名: 地理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数: 2 単位	担当教員名:押谷 一 担当形態:単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学(地誌を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>21 世紀に入って 25 年、わたしたちの生活や社会を取り巻く状況は大きく変容しています。このようななかで課題を正しく理解し、解決するために地理学の視点を持つことは重要となっています。地理学は自然現象と人間の諸活動の相互作用の研究、自然と文明・文化の結びつきを学ぶ学問で、あらゆる分野に関係します。そこでこの地理学の講義では、地理学の基礎的な知識を習得し、社会の課題に対する理解や分析できる能力を身に着けることを目的としています。</p>			
授業の概要			
<p>地理学は古代ギリシャ・ローマ時代まで遡る歴史がある重要な学問のひとつです。古代における地理学は「自然と人間との関係」や「世界状況の記述」を目的としてきましたが、近代では自然現象や人文社会現象によって特徴づけられる地表の状況である「地域」を対象とする地誌と、さまざまな現象の「空間的な分布」の法則を対象とする系統地理学に分かれてきました。そして系統地理学は自然現象を対象とする自然地理学と人文社会現象を対象とする人文地理学に大別されています。地図上にさまざまなデジタル情報を掲載する GIS(地理情報システム)をはじめ IT が普及し、さまざまな分野において必須のものとなっています。地理学は、環境・国際協力・地理情報等の理解の必要性から高校の必修科目となっているように、地理学的な視点を持つことは重要です。とくに酪農学園大学の教育・研究分野である農業、環境などは主に自然地理学や人文地理学と近接しています。こうした分野と地理学の関わりを解説していきます。</p>			
授業計画			
<p>第1回:地理学の魅力 地理学という学問の魅力、形成されてきた歴史的背景、現代社会の課題に対する適応などについて解説する。</p> <p>第2回:人文地理学とはどんな学問か? 地理学は、自然地理学と人文地理学に大別される。人文地理学は、地域における人間と(広義の)環境や自然現象との関係を明らかにすることを目的としている。こうした人文地理学について解説する。</p> <p>第3回:地図と情報地図は、有史以来、人間の活動にとって重要なツールであった。現代社会では特に、スマホを使った地図、カーナビゲーション、災害予測など、地図はわたしたちの生活にとって不可欠なものとなっている。地図の歴史や、地図ではどのような情報を与えてくれるのか、その役割を解説する。</p> <p>第4回:地理情報システム(GIS)と人文地理学地図と IT を活用して地表のさまざまな情報を掲載し、課題の分析に利用されている地理情報システム(GIS)の仕組みや適応事例などを解説する。</p> <p>第5回:人間・環境系へのアプローチ人間の諸活動と深刻な問題となっている気候変動や生態系の破壊などの環境問題とのかかわりについて地理学の視点から俯瞰する。</p> <p>第6回:熱帯雨林における地理学からのアプローチ気候変動の原因となる二酸化炭素の吸収源であり、地球生態系にとって重要な熱帯雨林の現状や課題について地理学からアプローチして整理する。</p> <p>第7回:海洋資源と地理学地球上の大部分を占める海洋の生態系や資源の課題について地理学から</p>			

アプローチする。

第8回: 自然災害と地理学近年、日本をはじめ世界各地で多発している自然災害の予測や減災に対して地理学はどのような役割を果たすことができるのか解説する。

第9回: グローバル経済のなかの地理学現代社会では経済活動が地球的な規模で広がっている。こうしたグローバルな経済における地理学のアプローチを整理する。

第10回: 都市と地理学都市とは、人々が集まり、経済や政治の中心であるが、多くの課題を抱えている。これらのことについて地理学の視点から解説する。

第11回: 都市郊外と地理学 都市の外縁部の郊外が拡大している。そこにおける諸問題について地理学の視点から解説する。

第12回: 農村と地理学農業、農村の抱える課題は多様であるが、地理学の視点でどのような問題を包含しているのかを解説し、解決策のあり方を整理する。

第13回: 北海道の地理わたしたちの住んでいる北海道は、自然環境や資源に恵まれている一方で、地理的にさまざまな課題を抱えている。こうした状況を概観する。

第14回: ジェンダーと地理学多様性が求められる現代社会におけるジェンダーとは何かということを、地理学から考察し、どのような役割を果たすことができるのか整理する。

第15回: まとめ及び試験これまでの講義のまとめと、試験を行う。

テキスト: なし

参考書・参考資料等

地理の研究 帝国書院 978-4-8071-6560-5

地理用語集 第2版 地理用語研究会編 山川出版社 978-4-634-05433-2

学生に対する評価

期末試験 80% レポート 20% 適宜、実施します。

授業科目名: 地誌	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数: 2 単位	担当教員名:押谷 一 担当形態:単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学(地誌を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標 日本および世界のなかのいくつかの地域の特性、特徴、課題について示して、各種の資料と地図を 読解し、理解する力を取得できるようにします。			
授業の概要 世界情勢はダイナミックに変化し、気候変動をはじめとする環境問題、人口爆発、食料問題、エネルギー 問題、領土問題などの課題を抱えています。地球上の状況を把握するための地理学は、環境・国際 協力・地理情報等の理解の必要性から高等学校の必修科目となっています。地理学と密接に関係す る地誌(学)は、地球上の多様な人間の生活圏における気候、地形、植生などの自然環境、ひとびとの 生活、文化、経済、社会などを理解し、わたしたちがまだ見ることのない国、地域のさまざまな課題を解 決するための基礎的な知識を得るため必須の学問です。この講義では、地域の基礎的な分析をもとに 地誌の魅力を示していきます。			
授業計画 第1回:地誌学の視点と方法地誌の目的を説明する 第2回:現代社会と地誌(1) 現状と課題地図を読むことから世界の現状や課題を明らかにする地誌の 役割について整理する。 第3回:現代社会と地誌(2) グローバル経済下の地誌人・財(モノ)・資金(カネ)・サービス・情報が国 際的な移動している。こうしたグローバル化の現状や課題を明らかにする。 第4回:北海道の地誌(1) 地理的な特性北海道の地理的な課題などを明らかにする。 第5回:北海道の地誌(2) 近現代の歴史と役割北海道の近現代史を地図から見て明らかにする。 第6回:日本の地誌日本の領域、自然、産業などの特徴を明らかにする。 第7回:東アジア(朝鮮半島と中国(二つの中国))の地誌東アジアの領域、自然、産業などの特徴を明 らかにする。 第8回:東南アジアの地誌マレーシア、フィリピン、インドネシアなど東南アジアの領域、自然、産業など の特徴を明らかにする。 第9回:南アジア(インドなど)の地誌インド、パキスタンなど南アジアの領域、自然、産業などの特徴を 明らかにする。 第10回:西アジア、中央アジアの地誌アフガニスタンなど西アジア、中央アジアの領域、自然、産業な どの特徴を明らかにする。 第11回:ヨーロッパ(ロシアも含む)の地誌ドイツ、フランスなどヨーロッパの領域、自然、産業などの特 徴を明らかにする。 第12回:アメリカ合衆国の地誌アメリカ合衆国(U.S.A.)の領域、自然、産業などの特徴を明らかにす る。 第13回:オセアニア(オーストラリア、ニュージーランド、南太平洋)の地誌オセアニアの領域、自然、産 業などの特徴を明らかにする。 第14回:アフリカの地誌アフリカの領域、自然、産業などの特徴を明らかにする。			

第15回:まとめ・試験

テキスト:なし

参考書・参考資料等

地誌学概論(第2版) 矢ヶ崎典隆ほか 朝倉書店 978-4-254-15720-4

日本の地誌 立正大学地理学教室 古今書院 978-4-7722-6102-9

学生に対する評価

期末試験 80% レポート 20% 適宜、実施します。

授業科目名: 法学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数: 2単位	担当教員名:遠井 朗子 担当形態:単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会・高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・中学校:「法律学、政治学」 ・高等学校:「法律学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」		
授業のテーマ及び到達目標 【知識】 ・公法・私法の区別を踏まえて、法が社会の中で果たす役割を理解すること。 【技能】 ・法律の条文を正確に読み取り、その解釈・適用によって、具体的な紛争や問題の解決方法を見出すこと。 ・社会内の新たな課題を解決するための立法について検討できること。 【態度】 ・遵法意識を涵養しつつ、法の支配を確立し、より自由で公正な社会の実現に積極的に貢献すること。			
授業の概要 法の基本的な考え方と使い方を学ぶための講義です。法はあらゆる社会現象を対象とし、社会秩序を維持し、正義を実現するための重要な手段です。人々の価値観が急速に変化の中で、多様な価値が並存する、自由で公正な社会をどう実現すべきか。また、革新的な技術が社会実装される中で、リスクを均衡に配分するためには、どのような立法が必要か、あるいは現行法をどのように解釈・適用すべきかという課題を、具体的課題に則して検討します。			
授業計画 第1回: イントロダクション 身近なトラブルを円満に解決するためには? 一法は何のためにあるのか。 第2回: 法とは何か 社会規範としての法。事実と規範。法の歴史。法律の構造(DV防止法、ストーカー規制法を題材として)。 第3回: ルールの解釈(1) バナナはおやつに含まれますか? (1): 事実認定と法解釈。法の解釈規則。 第4回: ルールの解釈(2) バナナはおやつに含まれますか? (2): 条文の読み方(要件と効果)、法解釈。 ※歩きスマホ禁止条例と類似例、道路交通法との比較 第5回: 現代の裁判(1) 裁判とは何か。裁判の歴史[判断権者、判断基準]。三審制。様々な裁判所とそれぞれの役割。 第6回: 現代の裁判(2) 裁判員制度の沿革、実践と課題。映像資料の視聴により、裁判員を体験してみよう! 第7回: 自動車事故と犯罪の処罰 犯罪はなぜ、処罰されるのか。自動車事故に対する法規制の厳格化(現状と課題)。自動運転で事故が発生した場合の法的責任は?			

第8回:罪刑法定主義とは何か。

罪刑法定主義の意義及びその派生原理。刑法改正と性犯罪処罰の厳格化

第9回:民事裁判はどのように行われるか(1)

不法行為法の意義及び基本的要件。現代型訴訟への対応。

第10回:民事裁判はどのように行われるか(2)

民事訴訟の要件、客観訴訟と主観訴訟。

※日本ではなぜ、気候変動訴訟が認められないのか？

※たばこ訴訟からたばこのない世界へ？(裁判における科学的知見、立法プロセス)。

第11回:約束は守らなければならないか(1)

契約とは何か、契約の成立要件について。

第12回:約束は守られなければならないか(2)

契約の有効要件について(取消、無効が認められる場合)、未成年者の取扱い

※消費者契約と消費者団体訴訟。

第13回:所有権・財産権

所有権・財産権の沿革。所有権絶対の意義。所有権が制約される場合。財産権制限立法の合憲性評価。

第14回:働きすぎ社会を変えるには？

日本の労働者は長時間労働ではない？労働時間の法規制。有給休暇をまとめてとることはできるか？過労死防止規制の実効性。

第15回:全体の振り返りと期末試験

資料を読み取って、法的論点を抽出し、設題に解答して頂きます。

テキスト:なし

参考書・参考資料等:ポケット六法(有斐閣)

学生に対する評価

期末試験 70% 筆記試験 レポート 30% 課題レポート

授業科目名: 日本国憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数: 2 単位	担当教員名:遠井 朗子 担当形態:単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会・高等学校 公民) 教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・中学校:「法律学、政治学」 ・高等学校:「法律学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」 ・日本国憲法		
授業のテーマ及び到達目標			
【知識】			
<ul style="list-style-type: none"> ・近代憲法の基本原理である立憲主義と個人の自律の関係について理解すること。 ・日本国憲法の三大原則(国民主権、平和主義、基本的人権の尊重)が、現代の社会課題にどのように関連するかという点について理解を深めること。 			
【技能・態度】			
<ul style="list-style-type: none"> ・憲法の基本的知識に基づいて、社会内で生じている様々な課題への対応方法を検討し、規範的な観点から、かつ論理的に意見を述べることに習熟すること。 ・他者の意見を聞いて、価値の多様性を尊重しつつ、憲法の原理・原則に従って、合意点を探究すること。 ・民主主義社会の担い手として、社会の課題とその背景を構造的に理解し、より公正な社会を実現するために、政治プロセスに主体的に参加すること。 			
授業の概要			
<p>国の最高法規である憲法のしくみと基本的人権について学び、より公正で、誰もが幸福を追求できる社会を実現するために、主体的に考え、行動する主権者としての基礎力とセンスを磨く機会とすることを目的としています。政治に無関心であり続けることはなぜ、問題か。日本でジェンダー平等を実現するためにはどのような制度や変革が必要か。多文化共生を促進し、社会内の格差を是正するため、国はどのような社会政策をとるべきか。これらの現代的な諸課題について、講義とクラス内での議論を通して多角的に検討し、人権と多様な価値観を前提とした社会の作り方について考えて頂きます。</p>			
授業計画			
第1回:社会とは何か			
社会とは何か。社会はどのように形成されるのか。社会契約論の現代的意義とは。			
第2回:大学・学生生活と憲法			
大学という制度の歴史的背景。日本国憲法における学問の自由と大学の自治の意義について。			
第3回:立憲主義と個人の尊重			
近代憲法の基本原理である立憲主義。個人の尊重の意義。夏目漱石の「私の個人主義」。			
第4回:権力分立制度(統治機構)			
権力分立の歴史的意義と、それが権力の濫用を防ぐ目的を理解します。国会・内閣・裁判所の役割と権限について学びます。相互の抑制と均衡(チェック&バランス)の仕組みを考察します。			
第5回:国民主権			
18歳は大人? 憲法制定権力と憲法の成り立ち。日本国憲法における国民主権の意義。			
18歳選挙権。選挙制度は公正か? くじびき民主主義とは何か。			

第6回:平和主義(1)

憲法第9条の歴史的背景と成立の経緯。9条はどのように解釈されてきたか。政府解釈と主な判例。

第7回:平和主義(2)

憲法第9条と日米安保条約の関係、沖縄と安保条約。日米安保条約の再定義、限定的な集団的自衛権と安保関連法の成立。これからの安全保障は？

第8回:基本的人権(1)

基本的人権の意義。国籍法と憲法の関係。二重国籍は認められるか？

第9回:基本的人権(2)

日本国憲法と外国人の権:入管法と外国人の人権。外国人の基本的権利。外国人労働者の権利は保障されているか？

第10回:法の下での平等(1)

平等の意義。人種差別の禁止に関する最近の判例。家族関係に関する法とジェンダー平等。

第11回:法の下での平等(2)

ジェンダー平等:家族関係に関する判例(続き)と法改正の動き。教育差別の禁止。政治部門でジェンダー平等を実現する方法。

第12回:表現の自由

表現の自由はなぜ、重要か。わいせつ規制の合理性(主要判例及びその課題)。

第13回:健康で文化的な最低限度の生活

社会福祉国家と新自由主義。憲法第25条の意義と課題。生活保護法と主要判例。25条の現代的意義。

第14回:信教の自由、政教分離

近代憲法と信教の自由。日本国憲法における信教の自由とカルトに対する法規制。政教分離の意義と主要判例。現代社会における宗教の意義？

第15回:全体の振り返りとグループ・ディスカッション。

△議論を踏まえて最終レポートを作成して頂きます。

テキスト:なし

参考書・参考資料等:ポケット六法(有斐閣)

学生に対する評価

レポート 60% 最終レポート。ルーブリックあり。

レポート 40% 毎回の課題レポート。平常点として加算します。

授業科目名: 国際法	教員の免許状取得のための 選択科目(中学校) 必修科目(高等学校)	単位数: 2単位	担当教員名:遠井 朗子 担当形態:単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会・高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項 等	教科に関する専門的事項 ・中学校:「法律学、政治学」 ・高等学校:「法律学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」		
授業のテーマ及び到達目標			
【知識】 ・国際法の成り立ち及び基本的な概念について、理解する。 ・国際法が国際社会で果たしている二つの役割を理解する。			
【技能・態度】 ・それぞれの問題領域について、国際法に従った問題解決の方法を検討することができる。 ・国際法と国内法との関係を理解し、日本の国内法を批判的に検討することができる。 ・先住民族の権利や文化多様性について理解し、多文化共生社会の担い手となることができる。 ・平和で公正な国際社会を実現するために、共通の課題を理解し、その解決に貢献することができる。			
授業の概要			
主権国家間の法として成立した国際法はおよそ 350 年の歴史と伝統をもつ大変古い法です。しかし、国際社会の変動や人の活動領域の拡大に伴って、国際法は大きく変貌しています。今日の国際社会は多様な歴史、社会・経済システムをもつ国家から構成され、国際関係における非国家主体(国際機構や NGO)が重要な役割を果たすようになりました。海洋資源の利用、地球環境保全等、規律対象も拡大しています。本講義では、国際法の基本理論の理解を踏まえつつ、関連判例や最近のトピックにも触れて、「生きた」国際法の実像をできる限り、明らかにしたいと思います。			
授業計画			
第1回:オリエンテーション 国際法とは何か:国際法の歴史、国際法の性質・役割(具体的な事例を通して)			
第2回:ミサイルと国際法:国際法の二つのアプローチ、多国間主義の意義と課題			
第3回:国際法のルーツと国際社会の変容 国際法のルーツ、共存の法から協力の法へ、第二次大戦後の国際法の構造転換、環境と貿易・CBDRの関連性等国際法の主体:国家、人民、国際機構、個人・企業・NGO			
第4回:国際法の存在形式(どのような形式の法として成立するか)(1) コルフ海峡事件、慣習国際法、法の一般原則			
第5回:国際法の存在形式(どのような形式の法として成立するか)(2) 判例(東ティモール事件、国連の平和維持活動、平和構築)、学説、相互の関係			
第6回:国際法と国内法 PLO 事件、一元論・一元論・等位理論、積極的/消極的抵触、国際法の国内的効力、自動執行性、慣習国際法の国内法上の効力、障がい者権利条約の締結と日本の国内法の調整、課題			
第7回:条約法(1) 国家はなぜ、条約に入るのか? 子の連れ去りに関するハーグ条約を題材として:署名・批准・加入条約の留保一女子差別撤廃条約の留保を巡る問題			

第8回:条約法(2)

国際河川法、ガブチコボ・ナジュマロシユ事件、条約の無効、運用停止、終了の要件

第9回:自決権

自決権の意義、法的地位、内的自決・外的自決、マイノリティの文化享有権、先住民族の権利と自己決定権

第10回:国家領域、領域取得の権原、領域紛争の解決

国家領域の構成、領域主権の性質、領域取得の権原、解決基準(実効性の原則、時際法)

第11回:文化多様性と国際法

文化多様性条約、GATT-WTOにおける文化的例外、先住民族の伝統的文化の法的保護の方法は？

第12回:国家管轄権・国際犯罪の処罰～逃げ得は可能か？

国家管轄権の配分と日本の国内法、国際犯罪の処罰、犯罪人引渡し、その他の司法共助

第13回:人権の国際的保障、難民の国際的保護

国際人権条約及び国連の人権保障 難民の国際的保護の制度(難民条約・議定書、UNHCR)、冷戦後の難民問題、日本の難民受け入れの現状と課題

第14回:海の国際法

海洋法の歴史的沿革、国連海洋法条約:航行利用制度(国際海峡、無害通航権)、資源開発の制度(大陸棚、EEZ、深海底)、海洋生物資源の保存

第15回:全体の振り返りと期末試験

テキスト:なし

参考書・参考資料等:国際法入門 山形英郎 法律文化社 978-4-589-03586-8

学生に対する評価

期末試験 70% レポート 30% 課題レポート

授業科目名: 民法・商法	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数: 2単位	担当教員名:片野 淳彦 担当形態:単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会・高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・中学校:「法律学、政治学」 ・高等学校:「法律学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」		
授業のテーマ及び到達目標 公法と私法の違いをふまえて、民法の基本的な原則と概念を理解する。法が社会生活に果たす役割を理解し、法的なものの見方・考え方を身につける。さまざまな紛争の法的解決の方針を理解・検討できるようになる。			
授業の概要 このクラスでは、民法と商法を中心として、民法とその周辺を学びます。私人間関係を規律する民法は、私たちにもっとも身近な法規範ですから、その基本原理を理解することは、法学を専攻するしないに関わりなく、社会的成熟に不可欠の「教養」といえます。平易な教科書を用いながら、日常生活世界における法の機能と役割を考察し、批判的・論理的思考力を練磨します。			
授業計画 高等学校の公民科程度の知識を前提として、民法学を主軸とした民法学の基礎を学ぶ。 第1回:導入、日常生活と契約 第2回:不動産・住居・お金の取引 第3回:日常生活とアクシデント 第4回:事故・被害と責任の問題 第5回:雇用社会のルール 第6回:企業と労働をめぐる規則 第7回:家族関係の始まりと終わり 第8回:出生・死亡の法的側面 第9回:商行為・企業と法 第10回:経営・投資をめぐる規則 第11回:紛争と法、裁判のしくみ 第12回:裁判以外の紛争解決 第13回:法源、法の解釈と適用 第14回:社会生活と法の関連 第15回:実定法学と理論法学の相剋をこえて 定期試験			
テキスト:法の世界へ(第9版)池田真朗ほか 有斐閣アルマ 978-4-641-22212-0			
参考書・参考資料等:法学六法 '24 池田真朗ほか(編) 信山社 978-4-7972-5754-0			
学生に対する評価 授業内課題 40% 教科書の読解問題、小テスト 30% 基本用語の一問一答 期末試験 30% 対面またはオンライン			

授業科目名: 経済学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数: 2単位	担当教員名:毛利 泰大 担当形態:単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会・高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項 等	教科に関する専門的事項 ・中学校:「社会学、経済学」 ・高等学校:「社会学、経済学(国際経済を含む。)」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>経済学における意思決定の考え方を理解する。 需要と供給の考え方を理解する。 市場での変化の影響をとらえることができる。 経済活動の大きさをどのように計られるか理解できる。 GDPの水準がどのようなメカニズムで決定するか、またはなぜ変化するか理解できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>社会では日々様々なことが起きている。経済学は社会で観察される様々な現象を理解するための科学である。 社会は人間から構成され、社会現象は一人ひとりの人間の行動の結果として現れる。 本講義では主に人間行動や社会現象に関する次の問題について考える 「経済学では人間はどのように意思決定をしていると考えるか?」「人はなぜ交換をするのか?」、「価格はどうに決まり、なぜ変化するのか?」、「価格政策は市場にどのような影響を与えるか?」、「GDPとは何か?」「経済成長はいかにして促進されるか?」 これらを理解するために、経済学におけるミクロ経済学とマクロ経済学のエッセンスを学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回:経済学の考え方 第2回:個人の意味決定(離散的意思決定、費用対便益分析) 第3回:個人の意味決定(連続的意思決定、限界分析) 第4回:戦略的状況における意思決定(ゲーム理論) 第5回:交易・貿易の合理性 第6回:価格決定のメカニズム 第7回:価格変化の仕組み(1)比較静学分析の基礎 第8回:価格変化の仕組み(1)実際の社会現象に対する比較静学分析の応用 第9回:弾力性と豊作貧乏 第10回:価格規制の市場への影響 第11回:課税の市場への影響 第12回:国民所得と経済循環 第13回:価格の測定 第14回:経済成長 第15回:ケーススタディ(開発経済学への招待) 定期試験</p>			
テキスト:なし			
参考書・参考資料等:講義中に適宜資料を配布する			

学生に対する評価: 期末試験 100%

授業科目名: 国際経済論	教員の免許状取得のための 選択科目(中学校) 必修科目(高等学校)	単位数: 2単位	担当教員名:小糸 健太郎 担当形態:単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会・高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項 等	教科に関する専門的事項 ・中学校:「社会学、経済学」 ・高等学校:「社会学、経済学(国際経済を含む。)」		
授業のテーマ及び到達目標 [知識]国際経済学の基本的な理論について理解できる 日本における国際収支、貿易の現状について理解できる [技能]国際経済学の基本的な理論を用いて、自分なりの考えを述べられる [態度]国際経済に関連する内容について、まわりの学生と議論することができる 自らで知識を深め、積極的に講義に参加することができる			
授業の概要 本講義では、日本の経済と他国の経済との関わり合いについてと、貿易の基本的な理論について理解を深めることを目的とします。みなさんは「外国の経済が日本にどのように影響するのか?」「なぜ貿易の自由化が推進されるのか?」など、国際経済に関係するさまざまな疑問があると思います。こうした疑問に答えるために、基本的な経済理論と統計や資料を用い、前半は国際収支、金融・経済政策をテーマに、後半は農業・食料貿易を念頭に貿易・貿易政策をテーマに、私たちの国と他国との経済はどのように関連しているのかについて説明していきます。講義を通じて、「ディプロマポリシーにある「農・食・環境」各々において、問題を解決する上で必要となる技術や実践力」を身につけるための基本的な知識を身につけます。			
授業計画 第1回:ガイダンス:国際経済における課題について講義する 第2回:国際化の中の日本経済:日本の国際収支と貿易の現状について講義する 第3回:外国為替市場と為替レート:外国為替市場について講義する 第4回:国際マクロ経済政策:開放経済の下での経済政策の影響について講義する 第5回:比較優位:国際貿易のパターンの決定とその利益について講義する 第6回:部分均衡分析:貿易によって生産者と消費者がどのような影響をうけるのかについて講義する 第7回:産業内貿易と規模の経済:規模の経済が貿易に与える影響について講義する 第8回:貿易政策の基礎:貿易政策の手段として関税・輸入割当およびそのコストについて講義する 第9回:貿易政策の応用(1):戦略的貿易政策について講義する 第10回:貿易政策の応用(2):アンチダンピング・セーフガード、動学的規模の経済について講義する 第11回:貿易政策の応用(3):保護貿易政策について講義する 第12回:国際貿易のルールと貿易交渉:GATTとWTOの歴史と制度について講義する 第13回:地域貿易協定:FTA・EPAなどの地域貿易協定について講義する 第14回:国際要素移動:国家間の労働と資本の移動について講義する 第15回:貿易と環境:貿易と環境について講義する 定期試験			

テキスト

国際経済学をつかむ(第2版) 石川城太・椋寛・菊地徹 有斐閣 978-4-641-17719-2

参考書・参考資料等

ゼミナール国際経済入門(改訂3版) 伊藤元重 日本経済新聞社 978-4-532-13288-0

基礎コース 国際経済学 澤田康幸 新世社 978-4-88384-061-8

クルーグマン国際経済学 理論と政策(上:貿易編) P.R.クルーグマン・M.オブズフェルド著 山形浩生・守岡桜訳 丸善出版 978-4-621-30057-2

国際金融論をつかむ 新版 橋本優子ほか 有斐閣 978-4-641-17728-4

学生に対する評価

授業内課題 33% 期末試験 67%

授業科目名: 社会学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数: 2 単位	担当教員名:吉野 宣彦 担当形態:単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会・高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・中学校:「社会学、経済学」 ・高等学校:「社会学、経済学(国際経済を含む。)」		
授業のテーマ及び到達目標			
[知識]①家族や地域の社会的問題を身近なジェンダー、集落、都市と農村の関係を軸に説明できる。 ②短期的な経済的な取引とならないで残る社会関係の意味を説明できる。③地域社会問題の発生経過、対策について意見を言うことができる。			
[技能]現代地域社会の実情を把握するために各種統計資料の所在と使用方法を説明できる。			
[態度]経済的取引によらない現代の社会関係を尊重し、調べる態度を養う。			
授業の概要			
[主旨]家族や地域社会は経済的な取引のみで成り立ってはいない。家族・集落・都市の各レベルにおける社会関係をもとに、それぞれがどうあるべきか、私たちはどう関わるべきかを、考える。このために諸社会関係の概念とその意義を学ぶ。「問題解決能力」の学習する基礎として社会問題や対策の現状・経過について「課題探求力」を身につける基盤教育科目となる。			
[関連科目]農村社会学、日本経済論、農政学、地域計画論、農業経営学、農業市場論、食料・農業政策学および諸技術科学が適用される場としての地域社会についての基礎を学ぶ			
[形式]講義を基本として、20 分程度のフレーズに分け、講義内容を振り替えるため e ラーニング小テストを行う。以上を通じて専門科目の「学びに向かう力」を身につける。			
※授業は時間割通りに対面で行う。			
授業計画			
授業全体は、公表された統計・法律・意識調査・文献に加え、独自の実態調査、農協等の業務データを用いて、実証的に現状を提示し、考察を促す			
第1回:社会学とは:①社会学とは、②講義の概要、③用語クイズ、④e ラーニング飛ぶノートの活用方法			
第2回:女性の位置と地位:①互酬性とは、②労働力としての女性の位置、③日本における女性問題、④地域における女性問題、⑤家事労働の性格			
第3回:「いえ」の制度と意識:①現代のいえ意識、②いえ制度の形成、③意識変化の胎動			
第4回:家族問題への対応:①家族の諸形態、②自営夫婦の意識差、③家族経営協定			
第5回:集落機能の現状と変化:①集落営農の事例、③集落の形成経過、④集落の変化と機能			
第6回:集落による自然の保全:①コモンズの悲劇、②集落の自然、③生産と生活基盤としての里山、④入り会い慣行			
第7回:集落と人々のネットワーク:①ソーシャル・キャピタル、②集落への期待、③伝統的な関係、④現代の集団とネットワーク化			
第8回:イングランド西南部の酪農経営と農村景観:①農業の概要、②農場の景観と技術、③放牧の多様性、④放牧に関するビジネスと文化			
第9回:農業と農村の多面的機能—外部経済とは:①都市住民の農業観、②多面的機能の経済的			

評価、③グリーンツーリズムの動向と普及体制
第10回:条件不利地域での過疎化と農村振興:①過疎の位置と定義、②過疎対策の概要、③人口減少の経過と背景、④条件不利地への振興策と課題
第11回:人口減少とその対策:①地域の担い手と農地の減少、②地方消滅の衝撃、④地方移住の動向、⑤田園回帰戦略
第12回:都市における住環境:①都市と農村の対立、②農地を排除する制度、③都市と農村の関係論、④農地の都市的な利用
第13回:家族農業の可能性:①大規模化・法人化の動向、②家族農業の優位性、③小規模持続的農業への転換
第14回:循環農業と地域社会:①近代農学の思想、②近代経済学の思想、③技術と社会、④学ぶべき課題
第15回:まとめと試験
テキスト:なし
参考書・参考資料等:吉野宣彦(2008)家族酪農の経営改善、日本経済評論社 4818820156
学生に対する評価:小テスト 50% 期末試験 50%

授業科目名: マーケティング論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数: 2 単位	担当教員名:増田 祥世 担当形態:単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会・高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・中学校:「社会学、経済学」 ・高等学校:「社会学、経済学(国際経済を含む。)」		
授業のテーマ及び到達目標 (1)マーケティングの基本概念について説明出来るようになる。 (2)マーケティング・フレームワークを理解する。 (3)4つのPとSTP分析について理解する。			
授業の概要 この講義ではマーケティングについて基礎から学習する。前半の講義ではマーケティングの概要を把握した後、戦略的思考をベースとしたマーケティング・フレームワークについて学習する。後半の講義ではマーケティングの中心的な概念である4つのPとSTP分析について学習し、マーケティングの基礎知識を習得する。			
授業計画 第1回:ガイダンス、マーケティングとは何か 第2回:マーケティング論の誕生と発展 第3回:マーケティングの本質とは 第4回:マーケティング・フレームワーク 第5回:消費者のニーズとベネフィット 第6回:消費者の購買行動 第7回:STP分析 第8回:中間まとめ 第9回:ブランド戦略 第10回:マーケティングの4つのP～製品戦略(製品戦略の重要性と製品の分類)～ 第11回:マーケティングの4つのP～製品戦略(製品ライフサイクル)～ 第12回:マーケティングの4つのP～流通戦略～ 第13回:マーケティングの4つのP～プロモーション戦略～ 第14回:マーケティングの4つのP～価格戦略～ 第15回:授業のまとめと期末試験			
テキスト:なし			
参考書・参考資料等:講義中に適宜紹介します			
学生に対する評価:期末試験 100%			

授業科目名: 食品産業論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数: 2単位	担当教員名:増田 祥世 担当形態:単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会・高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・中学校:「社会学、経済学」 ・高等学校:「社会学、経済学(国際経済を含む。)」		
授業のテーマ及び到達目標 (1)フードシステムの全体構造を説明出来るようになる。 (2)食品産業を構成する各主体の役割や関係性について説明出来るようになる。 (3)私たちの豊かな食生活が成り立っている仕組みや背景、課題について理解する。			
授業の概要 私たちは豊かな食生活を享受しているが、食品が製造され消費者のもとに届くまでには多様な経済主体による多くの行程がある。本講義ではそれら食品産業の各主体の役割と意義について学んでいく。食品産業は食料の生産から消費までの一連の流れであるフードシステムの枠組みの中でとらえる必要があるため、本講義ではまずフードシステムの全体像を理解した後、食品産業の位置づけや役割、その社会的責任について学習する。			
授業計画 第1回:ガイダンス、フードシステムと消費者の食行動 第2回:食品製造業の構造と役割 第3回:農産物・食品卸売業の構造と役割 第4回:食品小売業の構造と役割 第5回:食品小売業のMDとPOSシステム 第6回:外食産業の構造と役割 第7回:外食産業における経営のしくみと事例紹介 第8回:中間まとめ 第9回:中食産業(1)(中食の特徴と中食市場の構造) 第10回:中食産業(2)(中食市場の成長要因) 第11回:食の安全に関するしくみ 第12回:食品産業の社会的責任(食品偽装問題) 第13回:食品産業の社会的責任(食品ロスと環境問題) 第14回:私たちの食をめぐる諸課題 第15回:授業のまとめと期末試験 定期試験			
テキスト:なし			
参考書・参考資料等:講義中に配付します。			
学生に対する評価:期末試験 100%			

授業科目名: 食品流通論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数: 2単位	担当教員名:増田 祥世 担当形態:単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会・高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・中学校:「社会学、経済学」 ・高等学校:「社会学、経済学(国際経済を含む。)」		
授業のテーマ及び到達目標 ・食品流通に関する基本的な理論から個別具体的な食品の流通システムについて総合的に把握することができる。 ・食品流通システムに関連のある諸問題についても、その改善策や対応策について、主体的に考察することができる能力を養う。			
授業の概要 本講義は対面で実施する。日本における食品流通について包括的に理解するために、流通論の基本的な理論から説明し、その後、個別具体的な食品の流通機構や流通システムを講義する。さらに、今日、諸問題が噴出している食品の安全性についても検討を行う。			
授業計画 第1回:ガイダンス 流通とは? 現代社会における食品流通の重要性について学ぶ。 第2回:食品の流通を見る視点 今日の食料・農業と食品の流通を見る視点について学ぶ。 第3回:食品流通のしくみと価格形成 食品流通のしくみと価格形成について学ぶ。 第4回:食品の流通機構 農産物・食品の流通機構について学ぶ。 第5回:米(コメ)の流通 米(コメ)の流通について学ぶ。 第6回:卸売業の役 割卸売業の役割について学ぶ。 第7回:水産物の流通 水産物の流通について学ぶ。 第8回:食肉の流通 食肉の流通について学ぶ。 第9回:牛乳・乳製品の流通 牛乳・乳製品の流通について学ぶ。 第10回:花きの流通 花きの流通について学ぶ。 第11回:食品の安全性と消費者の信頼確保 食品の安全性と消費者の信頼確保について考える。 第12回:食品流通と食の安全1 食品流通と食の安全について考える。			

第13回: 食品流通と食の安全2

それでもあなたは食べますか！

第14回: 農産物・食品の流通と環境・資源問題

農産物・食品の流通と環境・資源問題について考える。

第15回: 授業のまとめと試験

テキスト: なし

参考書・参考資料等: 資料については適宜指示します

学生に対する評価: 期末試験 80% レポート 20%

授業科目名: 経済学基礎理論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数: 2単位	担当教員名:小糸 健太郎、毛利 泰大 担当形態:オムニバス
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会・高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項 等	教科に関する専門的事項 ・中学校:「社会学、経済学」 ・高等学校:「社会学、経済学(国際経済を含む。)」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本講義では、農業・地域・環境に関する政策を理解する上で、もしくは社会のさまざまな活動に参加する上で、基礎的な知識となりうる経済学の基本理論を理解することを目的とします。</p> <p>[知識]市場での価格形成、価格の変化のメカニズムを理解できる。 価格の資源配分機能を理解できる。</p> <p>[技能]経済理論を用いて実際の市場での現象について、自分なりの意見を述べるができる</p> <p>[態度]経済理論を用いて実際の市場での現象について、まわりの人と議論することができる 自らで知識を深め、積極的に講義に参加することができる</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本講義では、農業・地域・環境に関する政策を理解する上で、もしくは社会のさまざまな活動に参加する上で、基礎的な知識となりうる経済学の基本理論を理解することを目的とします。ミクロ経済学は資源配分のメカニズムを明らかにすることを目的にしている。資源配分とは労働、資本、土地、エネルギーなどの資源をどのような財やサービスの生産に配分するのかという問題である。現実の経済で資源配分に関わる問題は多数存在する。その問題を解き明かす視点を学ぶのがこの講義の目的となる。本講義では、ミクロ経済学に関連する応用経済学(厚生経済学など)の基礎的な理論も関連して講義をする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回:ガイダンス 経済学の基本的な概念について学ぶ(教科書第1~4章)(担当:小糸)</p> <p>第2回:消費者とインセンティブの関係について学ぶ(教科書第5章)(担当:小糸)</p> <p>第3回:消費者とインセンティブの関係について学ぶ(教科書第6章)(担当:小糸)</p> <p>第4回:完全競争と見えざる手について学ぶ(教科書第7章)(担当:小糸)</p> <p>第5回:貿易について学ぶ(教科書第8章)(担当:小糸)</p> <p>第6回:外部性と公共財について学ぶ(教科書第9章)(担当:小糸)</p> <p>第7回:政府の役割:税と規制について学ぶ(教科書第10章)(担当:小糸)</p> <p>第8回:生産要素市場について学ぶ(教科書第11章)(担当:小糸)</p> <p>第9回:独占について学ぶ(教科書第12章)(担当:毛利)</p> <p>第10回:ゲーム理論と戦略的行動について学ぶ(教科書第13章)(担当:毛利)</p> <p>第11回:寡占と独占的競争について学ぶ(教科書第14章)(担当:毛利)</p> <p>第12回:時間とリスクのトレードオフ(教科書第15章)(担当:毛利)</p> <p>第13回:情報の経済学について学ぶ(教科書第16章)(担当:毛利)</p> <p>第14回:オークションと交渉について学ぶ(教科書第17章)(担当:毛利)</p> <p>第15回:社会経済学について学ぶ(教科書第18章)(担当:毛利)</p>			

定期試験
テキスト アセモグル/レイブソン/リスト ミクロ経済学 (アセモグルほか著, 岩本康志監訳, 東洋経済新報社)
参考書・参考資料等: 授業中に適宜資料を配布する。
学生に対する評価: 試験 70%、授業内の課題 30%

授業科目名: 経済原論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数: 2単位	担当教員名:相原 晴伴 担当形態:単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会・高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・中学校:「社会学、経済学」 ・高等学校:「社会学、経済学(国際経済を含む。)」		
授業のテーマ及び到達目標 [知識]マルクス経済学、ミクロ経済学、マクロ経済学の基本的な知識を修得すること。 [技能]経済学の基本的な理論を用いて、経済現象に対する自らの考えを述べるようになること。 [態度]自らの知識を深め、積極的に講義に参加すること。			
授業の概要 マルクス経済学・ミクロ経済学・マクロ経済学の基本的な理論について解説する。それぞれの理論の概要の知識を身につけることで、より発展的な経済学の学習の準備とする。マルクス経済学では、資本家と労働者との経済的な関係について説明する。ミクロ経済学は価格による需給調整を分析するので、価格変動の要因などについて説明する。マクロ経済学では一国の経済の規模がどのように決定されるかをなどについて説明する。			
授業計画 第1回:経済理論の発展 第2回:産業資本の活動 第3回:剰余価値の生産 第4回:資本主義経済の再生産と資本蓄積 第5回:産業資本間の競争 第6回:市場機構の役割 第7回:消費者の行動 第8回:生産者の行動 第9回:価格メカニズムの役割 第10回:社会的厚生 第11回:国民所得勘定 第12回:国民所得の決定 第13回:消費・投資の理論 第14回:貨幣の理論 第15回:試験と授業のまとめ			
テキスト:なし			
参考書・参考資料等:飯田泰之『経済学講義』ちくま新書。			
学生に対する評価:期末試験 100% 3分の2以上の出席を条件とする。			

授業科目名: 経営学入門	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数: 2単位	担当教員名:吉岡 徹 担当形態:単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会・高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・中学校:「社会学、経済学」 ・高等学校:「社会学、経済学(国際経済を含む。)」		
授業のテーマ及び到達目標 [知識] ・経営学を学ぶにあたり、基本となる基礎諸理論を学び、経営学の理論体系を把握する。 ・具体的には、諸理論に出てくる語句の理解ならびに理論が構築された経緯やその特徴を理解することを旨とする。 [技能] ・講義の要点をまとめ、文献・資料を正しく読解することができる。 ・経営学検定初級を受験できるための基本技能を習得する。 [態度] ・積極的に質問する。			
授業の概要 経営学とは、ひと言で言えば企業の活動について多面的に研究する学問である。その経営学の分野を総論的に網羅しようとする本講義では、経営学が焦点を当てる企業の姿をみていきながら、経営学を構成する主な理論を取り上げ、紹介していく。具体的には企業システム論をはじめとして、経営戦略論、経営組織論、経営管理論などに関わる主要な研究内容を取りあげ、解説を行っていく。また、本講義の柱立ては、経営学検定試験(初級)の試験範囲をにらんで策定しており、検定試験対策としても活用できるよう講義をすすめる。これらにより、ディプロマポリシーにある「問題探求の基本的姿勢」「基礎的な学問を習得する能力」の修得をめざす。			
授業計画 第1回:講義の進め方に関わるガイダンスを実施。その後、企業や経営者の役割、企業内の経営形態について理解する 第2回:企業の形態について、規模・出資者・法律などの区分に基づいた各企業タイプの定義・特徴について理解する。 第3回:公企業や公私合同企業といった企業形態の特徴を学ぶとともに、株式会社における株式の分散と支配の変化、所有と経営の分離について理解する。 第4回:株式の仕組みを学ぶとともに、株式会社の中でも大規模な形態が持つ特徴を把握する。その上で、タイプ別にみた株式会社運営の仕組みを理解する。 第5回:近年設立が認められるようになった「監査等委員会設置会社」の他の形態との違いを理解する。企業を運営する経営者や株主に求められる役割であるコーポレートガバナンス・コードやスチュワードシップ・コードの内容を理解する。 第6回:終身共生や年功序列制といった日本独特の雇用慣行をはじめとして、日本国内の企業が持つ経営の特徴を理解する。 第7回:企業の状態把握にも使用される書籍である会社四季報の特徴と意義を確認して企業分析や評価に使用される会社四季報の読み方や活用の仕方について理解する。			

<p>第8回:経営戦略の体系と、理論にある各年代別の経営戦略の理論の中身、理論が生まれた背景を理解する。</p> <p>第9回:企業が行う戦略的行動のうち、全社レベルで実施する全社戦略の役割や戦略決定に係わる諸理論を理解する。</p> <p>第10回:前回に引き続き、全社戦略の中で使用される諸理論(製品-市場ミックス、M&A など)の内容を理解する。</p> <p>第11回:企業内の各事業について実行される事業戦略の目的と内容を理解する。</p> <p>第12回:経営戦略論の時代ごとの特徴を把握して、その変遷を理解する。</p> <p>第13回:販売とマーケティングの違いをはじめとして、企業戦略の実行段階ともいえるマーケティング戦略の基礎について理解する。</p> <p>第14回:STP 戦略や製品ライフサイクルといった、マーケティング戦略の諸理論の内容を理解する。</p> <p>第15回:まとめと試験</p>
<p>テキスト</p> <p>マネジメント検定試験公式テキストⅢ級「経営学の基本」一般社団法人日本経営協会(編集)中央経済社 4502435112</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>テキスト経営学[第3版]:基礎から最新の理論まで 井原久光 ミネルヴァ書房 4623051293</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>期末試験 80% 小テスト 10% 授業への参加態度 10%</p>

授業科目名: ボランティア活動・NPO・ NGO 論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数: 2 単位	担当教員名:吉村 暢彦 担当形態:単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会・高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・中学校:「社会学、経済学」 ・高等学校:「社会学、経済学(国際経済を含む。)」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>ボランティア活動・NPO・NGO 運動について理解ができる。</p> <p>それを支える人間的基盤はどこにあり、近年その運動が求められるようになった歴史的要因は何かを理解できる。</p> <p>草の根レベル、民衆レベル、市民レベル、国際レベルでの働きに目を注ぎ、その課題を実践的に担いうる人間的資質とセンスと手法を学ぶことができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>NPO・NGO の発生の歴史的起源とその精神的理念、ボランティア運動との諸関係を基軸に据え、ボランティア運動や NPO・NGO が日本の市民社会の中で正当な認識と位置づけを獲得することを目標に、コミュニティレベルでの自治の主体形成といわゆる発展途上国問題を特に視野に入れて考察していく。また NPO 法の特質と問題点を実践的な視点から考察する。その際、ボランティア運動や NPO・NGO の活動の現状と課題を、実際にその現場に身を置き、身体と心を伴った学び(身体的認識知)と参加型学習をとおして、近代市民社会の構成員たる自らの問題として考究する。</p> <p>本科目により、知識の活用能力、批判的・論理的思考力、課題探求力を身につける。</p>			
<p>授業計画 ※順序を入れ替える場合があります</p> <p>第1回: はじめに</p> <p>第2回: ボランティアの社会的意義</p> <p>第3回: 自己実現とボランティア</p> <p>第4回: ボランティアと民主主義</p> <p>第5回: ボランティア活動からみるコミュニケーション</p> <p>第6回: 社会課題に向き合ってきた人々</p> <p>第7回: 実践例からボランティアを学ぶ 1(国際協力におけるボランティア)</p> <p>第8回: 実践例からボランティアを学ぶ 2(NPO/NGO 支援から見るボランティアの定義)</p> <p>第9回: 実践例からボランティアを学ぶ 3(青年層のボランティア活動)</p> <p>第10回: NPO・NGO とは何か? 私の市民活動</p> <p>第11回: 市民活動の支援</p> <p>第12回: SDGs と人権</p> <p>第13回: 物質経済</p> <p>第14回: レイズム(人種差別)</p> <p>第15回: 脱植民地主義/先住民族の権利</p> <p>定期試験</p>			
テキスト:なし			
参考書・参考資料等:講義時に適宜配付します			

学生に対する評価:レポート 100%

授業科目名: 日本経済論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数: 2 単位	担当教員名:糸山 健介 担当形態:単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会・高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・中学校:「社会学、経済学」 ・高等学校:「社会学、経済学(国際経済を含む。)」		
授業のテーマ及び到達目標 [知識]現在の日本経済が置かれている状況を理解し、説明できるようになる。 [技能]世界のなかでの日本の位置付けについても、同様に理解し、説明可能となる。 [態度]その過程で論理的思考能力を培い、応用的に自らによって発展的に物事を考えられるようになる。			
授業の概要 近年、日本は歴史的円安に見舞われ、急激な物価高によって消費者生活が脅かされている。日本はエネルギー資源に乏しい国家で、輸入に大きく依存しているため、円安は物価高を誘引する。しかし、なぜ歴史的円安が起きたのかを理解するには、これまで日本経済が辿ってきた歴史や政治のあり方、また世界経済との関係など、広範の事象を把握することが求められている。本講義では基礎的な経済知識から始め、日本経済の成り立ちや世界経済との関係を理解できるように解説し、激動の社会への対処法を考えられるとともに、農業への影響についても考察できる能力を養う。			
授業計画 第1回:ガイダンス講義の進め方等とともに、近年の日本経済の概要についても説明する。 第2回:GDP からみた日本経済経済の状況を示す GDP とは何か、また世界のなかでの日本の位置付けについても解説する。 第3回:産業構造の変化と背景日本の経済成長を説明するとともに、牽引してきた製造業について解説する。 第4回:技術革新と新鋭企業日本の技術力・競争力水準を説明するとともに、世界的な新鋭企業の特徴についても解説する。 第5回:就業構造の変化と賃金動向日本の就業構造の特徴および賃金動向について解説する。 第6回:所得格差の発生要因所得格差の発生論理を説明するとともに、解消方策についても解説する。 第7回:消費者物価と外国為替消費者物価の動向と背景について解説し、外国為替も関係していることを説明する。 第8回:資金循環と金融政策資金循環構造の変化と、それをコントロールする金融政策について解説する。 第9回:財政状況と改善方向日本の財政状況について説明するとともに、改善の方策についても解説する。 第10回:人口高齢化が及ぼす影響年齢構成の推移、高齢化がもたらす影響について解説する。 第11回:超高齢社会と社会保障① 医療・介護日本の医療制度・介護制度の概要ならびに問題点を解説する。 第12回:超高齢社会と社会保障② 公的年金日本の公的年金制度の枠組みと実情について解説する。			

第13回: 人口減少と経済発展人口減少下における経済発展の方策について解説する。
第14回: 地域政策の方向性今後の地域政策のあり方、策定方法について解説する。
第15回: 日本経済の発展と展望これまでの講義を総括し、日本経済の発展について展望する。
定期試験

テキスト: なし

参考書・参考資料等: 講義中に適宜資料を配布する

学生に対する評価

レポート 15% 講義時間外でのレポート作成。小テスト 60% 14回まで毎回実施。

期末試験 25%

授業科目名: 行財政学概論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数: 2 単位	担当教員名:小糸 健太郎 担当形態:単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会・高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・中学校:「社会学、経済学」 ・高等学校:「社会学、経済学(国際経済を含む。)」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>[知識]行政学・財政学についての基本的な理論および背景、実態を理解できる。 現代日本の行政・財政の特質について理解できる。</p> <p>[技能]主権者、納税者としての自覚と権利、責任についての理解をし、自らの意見を述べるができる。</p> <p>[態度]資料等で学んだ知識を用いて、議論に参加することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>基本的に代議制を採用している現代国家において、政府(地方自治体を含む)の行政活動・財政活動は、市民生活にとって極めて重要な役割をもっています。行政学・財政学の理論について概括したうえで、戦後から現在に至るまでの日本の中央・地方の行政・財政の役割・特質・課題について講義します。なお、理解を深めるために、さまざまな講義方法に工夫をします。財政学の範囲では、eラーニングの課題等を用います。行政学の範囲では、授業計画に従って教科書の精読を行います。課題解決のプロセスに取り組むことで、主体的学習の習慣や実証的・客観的な思考手順を獲得し、課題解決力の向上をめざします。本講義の学びを通じて、社会・経済への理解を深め、ディプロマポリシーにある「農・食・環境」各々において、問題を解決する上で必要となる技術や実践力を備えるための基本的な知識を身につけます。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回:講義全体のガイダンス</p> <p>第2回:まちづくりの担い手:NPO、地縁型組織、地域経済団体</p> <p>第3回:地域社会の変化:ソーシャル・ビジネス、多文化共生、人口減少</p> <p>第4回:地方行政の課題:情報化、経済再生、格差社会</p> <p>第5回:行政のしくみとカタチ:政策形成、リーダーシップ、議会</p> <p>第6回:行政のしくみとカタチ:市民参加、選挙制度、自治体財政</p> <p>第7回:行政の持続可能性:地方財政、地方分権改革、大都市制度</p> <p>第8回:行政のあるべき姿:自治体間の連携</p> <p>第9回:政府の経済活動:政府はどのような「経済活動」をしているのか?</p> <p>第10回:政府介入の意義と問題:なぜ「政府が介入」すべきか?</p> <p>第11回:財政の仕組み:どのような「財政」状況なのか?</p> <p>第12回:租税の現状と理論(1) 所得税:累進課税制度は、好ましいのか?</p> <p>第13回:租税の現状と理論(2) 消費税・法人:消費税制度は、好ましいのか?</p> <p>第14回:公債の負担:公債は、どのように、誰に、負担となるのか?</p> <p>第15回:地方財政の制度:地方の財政の制度は、どのようになっているのか?</p> <p>定期試験</p> <p>テキスト</p>			

いまから始める地方自治(改訂版) 上田道明(編) 法律文化社 978-4-589-04263-7

参考書・参考資料等

新版 行政ってなんだろう 新藤宗幸 岩波書店 9784005005864

政治・行政の考え方 松下圭一 岩波書店 9784004305521

岩波講座自治体の構想 1 課題 松下・西尾・新藤(編) 岩波書店 9784000110914

岩波講座自治体の構想 2 制度 松下・西尾・新藤(編) 岩波書店 9784000110921

岩波講座自治体の構想 3 政策 松下・西尾・新藤(編) 岩波書店 9784000110938

岩波講座自治体の構想 4 機構 松下・西尾・新藤(編) 岩波書店 9784000110945

岩波講座自治体の構想 5 自治 松下・西尾・新藤(編) 岩波書店 9784000110952

図説 日本の財政 廣光俊昭 財経詳報社

学生に対する評価

授業内課題 40% 期末試験 60%

授業科目名: 社会調査法	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数: 2単位	担当教員名:糸山 健介 担当形態:単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会・高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・中学校:「社会学、経済学」 ・高等学校:「社会学、経済学(国際経済を含む。)」		
授業のテーマ及び到達目標 ・社会調査の基本的な知識と調査リテラシーを身につける。 ・シンプルなアンケート調査に必要な実践的スキルを身につける。			
授業の概要 世論調査から視聴率調査まで、社会調査はメディアを経由して、われわれの生活に大きく影響するようになっている。だが一方で、信頼性に疑問が残る調査が少なくないことや、調査結果の間違った読み方が横行していることを指摘する声もある。この講義では、社会調査の方法を理解することによってメディアリテラシーを向上させるとともに、アンケート調査の基本を身につける。また、講義と課題を通じて、課題探求力と問題解決力の涵養をめざしたい。			
授業計画 第1回:社会調査とは(ガイダンス) 第2回:質的調査と量的調査 第3回:調査の進め方 第4回:種々の調査方法とその特徴 第5回:サンプリングの考え方,回収率を上げるには 第6回:社会調査に必要な基礎統計学 第7回:アンケートにおける属性項目の設定 第8回:アンケート票の質問文と形式 第9回:アンケート票の質問内容と構成 第10回:回収から分析まで 第11回:アンケートの計画と集計の実習(基本的な集計) 第12回:アンケート票の作成 第13回:Google フォームによるアンケート票作成の方法(ただし、紙のアンケートに切り替える可能性あり) 第14回:実査と最終レポートのまとめ方について 第15回:アンケート集計の実習(独立性の検定など) 定期試験			
テキスト			
参考書・参考資料等:盛山 和夫「社会調査法入門」有斐閣ブックス			
学生に対する評価 授業内課題 70% 小レポート レポート 30% 期末レポート			

授業科目名: 簿記・会計学基礎	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数: 2単位	担当教員名:吉岡 徹 担当形態:単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会・高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・中学校:「社会学、経済学」 ・高等学校:「社会学、経済学(国際経済を含む。)」		
授業のテーマ及び到達目標 【知識】物品販売業において簿記の流れを理解することができる 【技能】企業において一般的に発生する取引を仕訳で表現することができる 月末または年末において試算表を作成することができる 専門的な知識と高い実践力を身につけることができる 【態度】精算表への記入ができ、貸借対照表及び損益計算書を作成することができる			
授業の概要 経営管理と一言で表現しても数多くの手法があり、収益がいくらあり、費用がいくらかかり、投資がいくらできるのか、その際の資金調達はどうするのか等、経営の現状を金銭(財務・経営管理)という面から管理しなければ経営とは言えません。商売をする人は簿記や会計から逃れることはできませんし、ビジネス・パーソンであれば、勤務する会社の経営状態がどうなっているのか理解できなければなりません。この授業では、簿記の初歩的な知識・習得を目指し、簿記の仕組みについて理解を深め、簿記知識の実践能力を高めます。授業は講義形式で進め、簿記の基本である「仕訳」を問題等を活用し反復練習(課題)を行いながら自主的な方式で進めていきます。			
授業計画 第1回:ガイダンス 簿記とは何かについて、歴史や現代社会と関連づけて解説します 第2回:簿記の目的・種類・要素など仕組み 第3回:仕訳と帳簿 第4回:決算の進め方 第5回:現金と預金の取引 第6回:仕入と売上の取引(3分法) 第7回:売掛金と買掛金 第8回:有形固定資産と貸倒等 第9回:手形と有価証券 第10回:その他の債権・債務 第11回:資本金と税金 第12回:収益・費用の繰延べと見越し 第13回:決算(総括) 第14回:損益計算書と貸借対照表(財務諸表) 第15回:まとめと復習練習 定期試験			
テキスト:検定簿記講義/3級商業簿記(2024年度版) 渡部裕互他 出版社(株)中央経済社			
参考書・参考資料等:なし			

学生に対する評価

期末試験 70% 授業内課題 30% 復習問題及びリアクションペーパー

授業科目名: 哲学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数: 2 単位	担当教員名:上野 岳史 担当形態:単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会・高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・中学校:「哲学、倫理学、宗教学」 ・高等学校:「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		
授業のテーマ及び到達目標 [知識]論理的思考の基礎を理解できる。 哲学の大まかな流れを説明できる。 [技能]日常的な議論や文章の論理構造を分析することができる。 [態度]論理的整合性を重視し、一貫した主張を行うことができる。 他者の意見を尊重し、論理的に議論を進めることができる。			
授業の概要 哲学全体の概観と論理的思考の基礎を習得するため論理分析哲学(論理学)を学ぶ。			
授業計画 第1回:講義内容全体の紹介 第2回:命題論理(1):論理記号(1)論理和・論理積・否定 第3回:命題論理(2):論理記号(2)含意 第4回:命題論理(3):論理記号(3)日常言語との意味の違い 第5回:命題論理(4):論理式、複合命題 第6回:命題論理(5):真理値表(1)論理記号の真理値 第7回:命題論理(6):真理値表(2)論理式の真理値 第8回:命題論理(7):真理値表(3)トートロジー 第9回:命題論理(8):様相論理(1)様相論理の論理記号 第10回:命題論理(9):様相論理(2)可能世界意味論 第11回:述語論理(1):存在記号 第12回:述語論理(1):全称記号 第13回:哲学概論(1)古代から中世・近世の哲学 第14回:哲学概論(2)近世から近現代の哲学 第15回:まとめと試験			
テキスト:論理学 大西琢郎 昭和堂			
参考書・参考資料等:なし			
学生に対する評価 授業内課題 30% 期末試験 70%			

授業科目名: キリスト教と諸宗教	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数: 2 単位	担当教員名:小林 昭博 担当形態:単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会・高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・中学校:「哲学、倫理学、宗教学」 ・高等学校:「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p><授業のねらい>本講義の意義は、世界の諸宗教の歴史、教理、習俗などの「個別の知識・技能」を身につけ、宗教の意義や問題を知解して論じる「思考力・判断力・表現力等」を形成し、宗教を通じてグローバルな世界を生きる「学びに向かう力、人間性等」を修養することにあります。</p> <p><到達目標>この科目は酪農学園大学の DP と CP に対応している。・世界の諸宗教に関する基本的な知識を修得することができる。・世界の諸宗教の教典・教理・儀礼・習俗を理解することを通して、宗教リテラシーを身につけることができる。・宗教と社会および宗教と政治が密接に関係するグローバル世界を踏まえた国際的視点を形成することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本講義は「宗教を通して世界を見る:宗教学・宗教社会学入門」を主題としています。宗教音痴と言われ、無宗教を当然視する傾向が強い日本とは異なり、世界の大部分の国や地域では、自分の宗教を持つことは当然と考えられており、宗教が生活の中に溶け込んでいますので、世界の諸宗教を知ることには世界の多様な人々を理解する上で不可欠なことです。個別宗教の歴史、文化、教理等を論じ、さらには宗教間対話を試みることによって、宗教リテラシーを修得します。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回:オリエンテーション:宗教学、宗教社会学、無宗教意識、宗教に対する偏見と忌避、宗教音痴の問題、世界の宗教分布、日本の宗教の割合。</p> <p>第2回:一神教(1)ユダヤ教:聖書を生み出した宗教、ユダヤ教の歴史、シオニズム運動とイスラエル国家建設、ユダヤ教の教義、ユダヤ教の祝祭日と儀式、ユダヤ教の文化。</p> <p>第3回:一神教(2)キリスト教:ユダヤ教からの分離独立、新興宗教から世界宗教へ、キリスト教の教義、キリスト教の祝祭日と儀式、キリスト教の文化。</p> <p>第4回:一神教(3)イスラーム(1):ユダヤ・キリスト教からイスラームへ、ムハンマドとイスラームの誕生、イスラームの歴史、クルアーン(コーラン)。</p> <p>第5回:一神教(4)イスラーム(2):イスラームの教義、イスラームの祝祭日と儀式、イスラームの文化、イスラームの宗派と対話。</p> <p>第6回:日本の宗教(1)仏教:ブッダの誕生、ブッダの活動、仏教の歴史、仏教の教義、仏教の経典、日本における仏教の歴史と現在。</p> <p>第7回:日本の宗教(2)神道:原始神道、原始宗教とイネの農耕儀礼の融合、古代神道、ヤマト王権と神道、仏教と神道、民衆宗教として神社神道、国家神道の誕生。</p> <p>第8回:日本の宗教(3)サブカルチャーと宗教:『聖☆おにいさん』と日本の宗教観。</p> <p>第9回:日本の宗教(4)カルト宗教:カルト宗教、キリスト教カルト、大学とカルト宗教、洗脳とマインドコントロール、カルト宗教からの脱出。</p> <p>第10回:宗教間対話(1)パレスティナ問題:ユダヤ教・キリスト教・イスラーム、同じ神、同じ聖書、アブラハムの宗教、十字軍、宗教と政治、イスラエル建国とキリスト教、パレスティナ問題とエルサレ</p>			

ム。
第11回:宗教間対話(2)宗教と科学:ユダヤ・キリスト教の終末計算、オウム真理教と科学主義、宗教と科学の関係、宗教と科学との共存。
第12回:宗教間対話(3)天皇制とキリスト教(1):国家神道の問題、天皇制と神道、天皇制とキリスト教、第二次世界大戦下の日本のキリスト教。
第13回:宗教間対話(4)天皇制とキリスト教(2):キリスト教と天皇制、天皇の代替わりの問題、天皇制と人類の自己家畜化。
第14回:宗教間対話(5)仏教とキリスト教:民俗宗教とキリスト教の対話、仏教とキリスト教の対話、宗教的排他主義と宗教的多元主義、社会的課題と宗教間対話。
第15回:復習と試験:授業の総まとめ、試験。
テキスト:レジュメ(プリント)を配布します。
参考書・参考資料等:レジュメ(プリント)に必要な参考文献をあげます。
学生に対する評価
期末試験 80% 授業への参加態度 20%

授業科目名: キリスト教と生命倫理	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数: 2 単位	担当教員名:高橋 優子 担当形態:単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会・高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・中学校:「哲学、倫理学、宗教学」 ・高等学校:「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		
授業のテーマ及び到達目標 現代社会において避けては通れない生命倫理的判断に際して、体系的に考え自分なりの答えに至る方法や例を理解できる。			
授業の概要 ユダヤ・キリスト教の影響を受けた生命倫理の考え方や、日本を含むユダヤ・キリスト教文化圏以外の生命倫理の考え方を比較し、その異同を整理することによって、生命倫理の諸問題について理解を深める。本科目は本学のカリキュラム上酪農学園教育の一環であるが、とくに「生命」に重点をおくものである。当然のことながら、「生命」には動物の生命も含まれる。批判的・論理的思考力・問題解決能力および表現能力を身につけることを目的とする。			
授業計画 第1回:ガイダンス 第2回:生命倫理と生死観:よき生とは何か? 「健康」と「病気」という概念の機能と問題性 第3回:尊厳死・安楽死をめぐる諸問題:動物と人 第4回:脳死と臓器移植(1)文化による相違 第5回:脳死と臓器移植をめぐる諸問題(2)素材としてのヒト? 第6回:生殖医療と人口妊娠中絶をめぐる諸問題 第7回:ヒトの病理解剖・法医学と動物の病理解剖・法獣医学 第8回:まとめ 第9回:遺伝子検査・遺伝子治療の諸問題 第10回:ゲノム編集の諸問題(1)動物の場合 第11回:ゲノム編集の諸問題(2)ヒトの場合 第12回:動物実験と人体実験:歴史と法律 第13回:自殺・他殺・死刑による殺人・戦争における殺人をめぐる諸問題 第14回:LGBTQ+:セクシャリティに属する「正常」と「異常」という概念の機能と問題性 第15回:まとめと期末試験			
テキスト:配布レジュメ			
参考書・参考資料等:配布資料			
学生に対する評価 授業内課題 60% 期末試験 40%			

授業科目名: 社会科・公民科教育法 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数: 2 単位	担当教員名:村上 博章 担当形態:単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会・高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項 等	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>さまざまな授業実践を学ぶことにより、中学・高校の社会科・公民科(新学習指導要領では公共、倫理、政治経済)の教育内容を理解し、自分が中学・高校時代に学んだ知識を応用し、関連づけることができるようにする。生徒に社会科・公民科の授業内容に興味を持たせるための、教材作りの工夫、パワーポイントなどを活用した授業展開の手法を学び、授業実践能力の基礎を身につける。また、人物調べ学習や株式の模擬売買のグループ学習に生徒の立場で参加することを通して、アクティブラーニングの授業についての知識を得ることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>この講義は、高校の「現代社会」・「公共」・「政治経済」の沖縄戦から始める憲法学習、原発とエネルギー問題の学習、被爆体験を学ぶグループ学習、広島・沖縄見学旅行の事前学習、株式の模擬売買の授業実践、「倫理」の古代ギリシャやキリスト教などの授業実践の紹介を通して、生徒の立場で知識を活用する能力を身につけることを目的としています。学力の三要素である「知識・理解」にかかわって、中学・高校の社会科・公民科の教育内容を学び、さらに戦後の社会科教育の歩みと学習指導要領の変遷の学習を通して、社会科教師として身に付けておく必要がある力について共に考える。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回:オリエンテーション 自己紹介、講義内容と進め方、評価の方法について説明する</p> <p>第2回:授業の紹介 憲法① 沖縄戦の北海道出身の兵士の戦没者名簿を題材に、遺族への聞き取りから学ぶ。戦争当時の学校生活の様子を学び戦争を自分事にする。</p> <p>第3回:授業の紹介 憲法② 大日本帝国憲法(明治憲法)の特徴と日本国憲法の誕生</p> <p>第4回:授業の紹介 憲法③ 日本国憲法の制定過程を、民間の憲法研究会案とGHQのマッカーサー草案との関係、ベアテ氏が作成した男女平等条項から学ぶ。</p> <p>第5回:授業の紹介 原発とエネルギー問題 福島原発事故と住民の帰還の現状、特に浪江町の視察報告から学ぶ。放射能による農産物の被害の問題を考える。</p> <p>第6回:授業の紹介 「被爆体験」を学ぶ授業 広島の被爆者を招き体験から学ぶ、その前後に原爆についてグループ学習をする。日本被団協のノーベル平和賞授賞式の講演から学ぶ。</p> <p>第7回:社会科教育の歴史を学ぶ 「人物学習」の課題の提示 戦後の社会科の歩みから社会科教育の目標を学ぶ</p> <p>第8回:ICT 活用と教材のあり方 教材・授業実施における ICT の活用について学ぶ</p>			

<p>第9回:授業の紹介 広島見学旅行の事前学習 なぜ広島に原爆が投下されたのか、原爆の威力等について見学旅行に行く前に学ぶ</p> <p>第10回:授業の紹介 倫理①古代ギリシャ、「人物学習」の課題の回収 哲学の始まりといわれる古代ギリシャの哲学者の考えを学ぶ</p> <p>第11回:授業の紹介 倫理②キリスト教 世界宗教といわれるキリスト教とユダヤ教の関係を学ぶ</p> <p>第12回:授業の紹介 倫理③ 社会契約説 市民革命の理論的基礎といわれる社会契約説について学ぶ</p> <p>第13回:授業の紹介 沖縄見学旅行の事前学習 沖縄が戦場になった理由、北海道出身の兵士が多く戦死した経緯、地元の住民の参加が多い等、沖縄戦について旅行に行く前に学ぶ</p> <p>第14回:授業の紹介 株を買ってみよう、授業紹介のまとめ 株式の模擬売買をグループ学習で行うことを通して株式のしくみを学ぶ。今までの授業紹介から社会科の教師にとって必要な技能について考える</p> <p>第15回:社会科・公民科教育法Ⅰの講義のまとめと試験 授業実践の紹介から学んだことを具体的に書く、社会科教師として大切にしたいことをまとめて理解する</p>
<p>テキスト:なし</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>中学校学習指導要領解説 社会編(平成 29 年 3 月告示 文部科学省)</p> <p>高等学校学習指導要領 公民編(平成 30 年 3 月告示 文部科学省)</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>授業内課題 30% 授業の感想レポート レポート 30% 人物調べ学習 期末試験 40%</p>

授業科目名: 社会科・公民科教育法 II	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数: 2 単位	担当教員名: 村上 博章 担当形態:単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会・高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>社会科・公民科教育法 I で身につけた社会科・公民科教育についての基礎的な知識・理論をもとにしながら、より具体的な教材研究の方法やパワーポイントなどの ICT 技術の活用やグループ討論など授業の手法を研究することで、教育実習に参加する際に教育現場で必要とされる子ども達の学習意欲を向上させる授業展開ができる力の基礎を身につけることを目指します。</p>			
授業の概要			
<p>この講義は、社会科・公民科教育法 I の講義内容をふまえて、社会科・公民科の授業を展開する上で必要とされる実践的・臨床的な手法を学ぶことを目的としています。社会科・公民科教育についての専門的な知識や技能を基にした授業計画案づくりについて学び、社会科の授業の中で用いるグループ学習などアクティブ・ラーニングの手法について実践的に学び身に付ける。さらに、受講者全員の模擬授業にもとづいて協議し、社会科・公民科の授業を行う上で必要な知識や技能の基礎的な力量を養う。</p>			
授業計画			
<p>第1回:オリエンテーション 前期のまとめと後期の講義の進め方の説明模擬授業の実施方法の説明(希望単元の確認、毎回全員が感想と意見を提出する)、学習指導案づくりのポイントの説明(ICT の活用)</p> <p>第2回:学習指導要領について①歴史の変遷及び目標、内容について</p> <p>第3回:学習指導要領について②内容の取扱いと学修評価の考え方</p> <p>第4回:模擬授業(1)の実施模擬授業(1)を実施して研究協議を行う、感想と意見を書いて提出 (社会科(公民的分野))</p> <p>第5回:模擬授業(2)の実施模擬授業(2)を実施して研究協議を行う、感想と意見を書いて提出 (政治分野)</p> <p>第6回:模擬授業(3)の実施模擬授業(3)を実施して研究協議を行う、感想と意見を書いて提出 (経済分野)</p> <p>第7回:模擬授業(4)の実施模擬授業(4)を実施して研究協議を行う、感想と意見を書いて提出 (国際社会分野)</p> <p>第8回:前半の模擬授業についての研究協議前半の(1)から(4)の模擬授業についての反省と効果的な指導方法の検討</p> <p>第9回:模擬授業(5)の実施模擬授業(5)を実施して研究協議を行う、感想と意見を書いて提出 (公共分野)</p> <p>第10回:模擬授業(6)の実施模擬授業(6)を実施して研究協議を行う、感想と意見を書いて提出 (倫理分野)</p> <p>第11回:模擬授業(7)の実施模擬授業(7)を実施して研究協議を行う、感想と意見を書いて提出 (現代社会分野)</p>			

<p>第12回:授業の紹介 公共① 中国思想諸子百家の儒家を中心に学ぶ</p> <p>第13回:授業の紹介 公共② カント・功利主義近代思想のカントと功利主義について学ぶ</p> <p>第14回:模擬授業全体の反省と研究協議模擬授業(5)から(7)を含め全体の反省から、社会科の授業にとって必要な知識と技能について共に考える</p> <p>第15回:社会科・公民科教育法Ⅱの講義のまとめと試験、自分の模擬授業の反省と学んだことを具体的に書く、社会科の授業にとって大切なことをまとめる</p> <p>定期試験</p>
<p>テキスト</p> <p>中学校学習指導要領解説 社会編(平成 29 年 3 月告示 文部科学省)</p> <p>高等学校新公共 谷田部玲生他 第一学習社 978-4-8040-2086-0</p> <p>高等学校学習指導要領解説 公民編(平成 30 年 3 月告示 文部科学省)</p>
<p>参考書・参考資料等:なし</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>レポート 30% 他の学生の模擬授業の感想 プレゼンテーション 30% 模擬授業 期末試験 40%</p>

授業科目名: 社会科教育法 I (地理 歴史)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数: 2 単位	担当教員名:鈴木 良伸 担当形態:単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会)		
施行規則に定める 科目区分又は事項 等	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標 [知識]基本的な地理・歴史に関する知識を体系的に理解できる。 [技能]コミュニケーションスキル、情報リテラシーを身に付ける。論理的に分析し表現することができる。 問題を発見し、必要な情報を収集・分析し、それを整理し解決に向かうことができる。自己管理能力、チ ームワーク、リーダーシップ、生涯学習力を修得する。 [態度]問題に対し積極的に討議し、話し合いがスムーズに進むよう他者に配慮し協調できる。			
授業の概要 我が国の世界における位置を正しく理解でき、学びに向かう力と自ら行動していく姿勢を持つ、人間性 豊かな若者が育つような授業を目指したい。授業では、中学校社会科・高校地理歴史科の教員に必 要な基本的知識を学ぶだけではなく、授業内容や方法について授業実践例を学ぶ。授業形式は、講 義だけではなく、討論や演習形態、野外授業(巡検)も取り入れる。授業を通して、課題を見極め解決 に向け幅広く、柔軟かつ総合的な判断力を持ち、社会に貢献できる担い手を育てたい。			
授業計画 第1回:「社会科教育法 I (地理歴史)」ガイダンス 第2回:中学校社会学習指導要領の歴史的変遷と目標について 第3回:中学校社会・地理的分野の目標、内容及び内容の取扱いについて 第4回:中学校社会・歴史的分野の目標と内容及び内容の取扱いについて 第5回:教材の情報収集・授業への活かし方～実物教材・映像資料～ 第6回:教材の ICT をどう進めるか～統計データ・GIS の活用(情報通信技術の活用)～ 第7回:地域学習の進め方①～酪農学園大キャンパスを歩く(学内巡検)～ 第8回:地域学習の進め方②～「軍都・月寒を歩く」(事前学習)～ 第9回:地域学習の進め方③～「軍都・月寒を歩く」(地域巡検)～ 第10回:SDGs を考える～ボードゲームでの実践～ 第11回:国際交流と国際協力の実践 第12回:主体的・対話的深い学びの実践～ALP を使ってみよう～ 第13回:防災教育について～東日本大震災から～ 第14回:防災への取り組み～逃げ地図づくり～ 第15回:振り返り(グループ) 定期試験			
テキスト 中学社会地理 地域に学ぶ 教育出版 新しい社会 歴史 東京書籍 中学校社会科地図 帝国書院			

参考書・参考資料等

中学校学習指導要領解説 社会編(平成 29 年 3 月告示 文部科学省)

学生に対する評価

レポート 80% 授業への参加態度 20% 授業での気づき・感想をその場で書いて提出

授業科目名： 社会科教育法Ⅱ(地理 歴史)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：鈴木 良伸 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会)		
施行規則に定める 科目区分又は事項 等	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標			
[知識]基本的な知識を体系的に理解する。			
[技能]コミュニケーションスキル、情報リテラシーを身に付ける。論理的に分析し表現することができる。問題を発見し必要な情報を収集分析整理し解決に向かうことができる。自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、生涯学習力を修得する。			
[態度]問題に対し積極的に討議し、話し合いがスムーズに進むよう他者に配慮し協調できる。			
授業の概要			
我が国の世界における位置を正しく理解でき、学びに向かう力と自ら行動していく姿勢を持つ、人間性豊かな若者が育つような授業を目指したい。授業では、中学校社会科・高校地理歴史科の教員に必要な基本的知識を学ぶだけではなく、授業内容や方法について授業実践例を学ぶ。授業形式は、講義だけではなく、討論や演習形態も取り入れ、後半は実際に模擬授業を実施し、よりよい授業の検討を行う。授業を通して、主体的に世界の変化に対応し、課題を見極め解決に向け幅広く、柔軟かつ総合的な判断力を持ち、社会に貢献できる担い手を育てたい。			
授業計画			
第1回：社会科教師として考えること①教科内容の取扱い			
第2回：社会科教師として考えること②授業の組み立て方			
第3回：授業での資料の活用と提示の仕方について(情報通信技術の活用)			
第4回：授業での問いの作り方について			
第5回：学習指導案の作成・授業の作り方①学習指導案の書式や書き方について具体的に学ぶ			
第6回：学習指導案の作成・授業の作り方②学習指導案を作成する単元の授業設計をレポートする			
第7回：模擬授業の実施と振り返り歴史編①古代			
第8回：模擬授業の実施と振り返り歴史編②中世			
第9回：模擬授業の実施と振り返り歴史編③近世			
第10回：模擬授業の実施と振り返り歴史編④近代			
第11回：模擬授業の実施と振り返り地理編①世界の様々な地域			
第12回：模擬授業の実施と振り返り地理編②日本の地域的特色			
第13回：模擬授業の実施と振り返り地理編③日本の様々な地域			
第14回：模擬授業の実施と振り返り地理編④地域のあり方			
第15回：模擬授業の実施と振り返り、まとめ			
定期試験			
テキスト			
中学社会地理 地域に学ぶ 教育出版			
新し社会 歴史 東京書籍			

中学校社会科地図 帝国書院

参考書・参考資料等

中学校学習指導要領解説 社会編(平成 29 年 3 月告示 文部科学省)

学生に対する評価

実習 60% 模擬授業 レポート 40% 学習指導案・提出課題

授業科目名： 健土健民・農食環境学 入門実習	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 毛利 泰大、薦田 優香 西寒水 将、伊吾田 宏正、 岩崎 智仁 担当形態： クラス分け・オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 農業)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 農業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標 [知識] 1) 本学の建学の精神である「健土健民」の意味することを体感する。 2) 私達の食料が動植物の生命に由来して生産されていることを体験的に理解する。 3) 生命や自然に対峙する現場の作業や方法に人間が作り上げてきた歴史と文化を読み取る。 [技能] 1) 各実習現場での様々な課題に対して発想を豊かにして柔軟に対応する力を強める。 [態度] 1) 同じ班の学生と共同で作業する過程を通して仲間との協調性を身につける。			
授業の概要 本学フィールド教育研究センターおよび関連施設での基礎的な農作業や、本学の各学類から提供される特徴的な実習を体験的に学ぶ。これらの実習における原体験を、その後に学ぶ学理とつなげ、科学的思考力あるいは柔軟な思考力を養成していくことをめざす。また、初歩的な技術の実際を理解し、畜産・農業の基礎を学ぶ。			
授業計画 実習時間：第1回～第4回：各4時間、第5回：5時間、第6回～第9回：各6時間、合計45時間 第1回：実習ガイダンス（担当：西寒水将） 第2回：専門と健土健民入門（動物実験教育訓練含む）（担当：西寒水将） (1)自全ての学類の動画を視聴して、レポートボックスより感想（レポート）を提出 (2)動物実験教育訓練の動画を視聴し、小テストを受験 第3回：環境共生学実習（担当：伊吾田宏正） 自然環境保全に関する実習を受ける。 内容としては、学内の圃場・森林・表流水での調査などを行う。 第4回：食と健康学実習（担当：岩崎智仁） (1)手作りバター実習：乳原料が加工工程によってダイナミックに変化するメカニズムを知る (2)肉団子実習：肉製品への加塩の目的を知る 第5回：農環境情報学実習（担当：毛利泰大） (1)地域経済分析システムを用いた地域農業の実態把握 (2)その他 第6回から第9回は最大4班に分かれて、実習の順番を入れ替えて実施する。 第6回：酪農・畜産①（担当：西寒水将） (1)酪農・畜産全般に関する基礎講座1			

(2)牛体測定

(3)その他

第7回：酪農・畜産②（担当：西寒水将）

(1)酪農・畜産全般に関する基礎講座2

(2)育成牛飼養管理作業

(3)搾乳に関する基礎講座

(4)模擬乳頭での搾乳練習

(5)ミルクングパーラでの実際の搾乳作業

(6)その他

第8回：作物①（担当：薦田優香）

実習の意義を確認する。また、栽培する3作物（スイートコーン、エダマメ、ジャガイモ）の特性を知り、連作障害と輪作の重要性について考える。さらに、土壌や肥料、農具、資材などの名称とその特性を理解する。

実習では圃場準備や施肥、植付け、マルチやべたかけの設置を体験する。

第9回：作物②（担当：薦田優香）

持続可能な農業（化学肥料と化学農薬の使用低減の実践）について考える。作物の遺伝的背景や形態・生理生態を知るとともに、土壌や病原菌、害虫、雑草、野生動物、気象、栄養などを正しく理解する。圃場見学やWeb情報にも触れ、上級年次における学びとの関連を考える。実習では生育調査や形態観察、収穫を行う。土壌断面観察や実験を通して土についての理解を深める。

テキスト

機を知るは農の始めにして終りなり - 健土健民入門実習 作物編 小宮 道士・岡本 吉弘・亀岡 笑・小八重善裕・澤本 卓治・三枝 俊哉・園田 高広・森 志郎・薦田 優香・中平 賢吾・山口 剛典・川岸 孝博・川端 幸枝

酪農学園大学社会連携センター刊行

ISBN: 978-4-902786-31-6

参考書・参考資料等

酪農ジャーナル電子版（酪農PLUS）および実習内において適宜準備する。

学生に対する評価

実習（50%）、レポート（50%）

授業科目名： 畜産学総論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 天野 朋子、菊 佳男、山田 未知、西寒水 将、土井 和也
			担当形態：オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 農業)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 農業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1) 畜産のはじまりおよび近代畜産の発展の歴史を説明できる。</p> <p>2) 牛、豚、鶏、緬羊・山羊、その他の家畜の品種を説明できる。</p> <p>3) 家畜の飼料、病気、畜舎施設、家畜管理を説明できる。</p> <p>4) わが国の畜産の現状、海外との比較、畜産物の生産と消費について説明でき、将来の畜産について考えを述べるができる。</p>			
授業の概要			
<p>1) 畜産に関連する専門科目を学ぶための基礎知識として、畜産のはじまり、近代畜産の発展を理解した上で、主要家畜である牛、豚、馬、緬羊・山羊、鶏の品種、その起源や特性を知る。</p> <p>2) これらの主要家畜以外にも世界各地で飼養されている家畜についても知る。</p> <p>3) 畜産を行う上で重要な、飼料、病気、畜舎施設、管理の基本について知る。</p> <p>4) わが国の畜産の現状と世界との比較、畜産物の生産と消費について学び、将来の畜産を考える。</p> <p>5) 社会において畜産が果たす役割、意義および使命を理解し、社会に貢献できる専門家に必要な知識を身につける。</p> <p>本科目をとおして知識の活用能力、理論的な思考力、探求力の修得と向上を目指す。</p>			
授業計画 ● 本講義は農群と獣医看護合同で実施する。● 本講義は対面で実施する。			
第1回：農耕文化における畜産と近代畜産の発展			
国内外の農耕文化および近代の畜産発展について説明する。(山田)			
第2回：品種(1)：肉牛 国内外の肉牛の品種について説明する。(土井)			
第3回：品種(2)：乳牛 乳牛の品種ごとの外貌および乳成分の特徴について説明する。(西寒水)			
第4回：品種(3)：馬 国内外の馬の品種について説明する。(天野)			
第5回：品種(4)：緬羊・山羊 めん羊および山羊の品種について説明する。(山田)			
第6回：品種(5)：鶏 鶏の品種について説明する。(天野)			
第7回：品種(6)：豚 豚の品種について説明する。(山田)			
第8回：家畜の管理 家畜の管理、特にアニマルウェルフェアの観点からの飼養管理について焦点を当てて説明する。(山田)			
第9回：家畜の飼料 飼料の分類や飼料に求められる条件について説明する。(土井)			
第10回：わが国の飼料生産の特徴 日本における飼料生産について説明する。(土井)			
第11回：家畜の発生と繁殖生理I 家畜の発生と繁殖生理について説明する。(天野)			
第12回：家畜の発生と繁殖生理II(天野) 家畜の発生と繁殖生理について説明する。(天野)			
第13回：家畜の病気 家畜の疾病について説明する。(菊)			
第14回：わが国の畜産経営の現状と世界との比較 日本の畜産経営の現状を海外と比較し、今後の展望について説明する。(西寒水)			

第15回：将来の畜産 将来の畜産について特に新技術について説明する。(山田)
定期試験

テキスト
なし

参考書・参考資料等
畜産学概論(小林泰男編、朝倉書店)

学生に対する評価
期末試験(80%)、レポート(20%)

授業科目名： 土壌学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 澤本 卓治 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 農業)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 農業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1、(知識) 土壌がどのようにしてつくられているかを理解し、説明できるようになること</p> <p>2、(知識) 土壌の物理的、化学的、生物的な諸性質を理解し、説明できるようになること</p> <p>3、(知識) 土壌が持つ多くの機能について理解し、説明できるようになること</p> <p>4、(知識) 持続的食料生産と環境保全にとって土壌が重要な役割を持っていることを理解し、説明できるようになること</p>			
授業の概要			
<p>1、(授業の趣旨) 農学分野においても、環境学分野においても、土壌を学ぶことは重要である。なぜならば、土壌がどのようにつくられ、土壌がどのような機能や持っているかは、食料生産と環境に直接的にも間接的にも深く関係しているからである。</p> <p>2、(科目位置づけや他の授業との関係) 土壌の生成や機能を学ぶことは、食料生産と環境分野の多くの授業・実験・実習科目と関連がある。</p> <p>3、(身に付けることを目標とする能力) 「個別の知識・技能」：学生自身の興味関心のある農学分野あるいは環境学分野において、土壌学がどのような位置づけにあるか考え、それを説明できるようになる。</p>			
授業計画			
<p>第1回：ガイダンス、序論(1) 地球の生命を支える土壌、主な機能と役割 地球の中での土壌の位置、生命を支える土壌など</p> <p>第2回：序論(2) 土壌が支える生命と地球環境、社会的共通資本としての土壌など</p> <p>第3回：土壌とは(1) 土壌はどのように生成するのか</p> <p>第4回：土壌とは(2) 土層の発達と土壌の分類</p> <p>第5回：土壌有機物：有機物が土壌をつくる、有機物の重要な機能</p> <p>第6回：土壌生物とその働き：土は生き物か？土壌と有機物をつなぐ土壌生物など</p> <p>第7回：土壌の骨格とそれを決めるもの：土壌三相、容積重、土性、粘土鉱物など</p> <p>第8回：土壌の水と空気(1) 土壌の保水と排水のしくみ、土壌の構造と孔隙など</p> <p>第9回：土壌の水と空気(2) 水分張力、土壌の空気など</p> <p>第10回：土壌の温度とその影響：地温の重要性、地温の変動をきめる因子など</p> <p>第11回：土壌が養分を保持する機能(1) その発見の歴史</p> <p>第12回：土壌が養分を保持する機能(2) メカニズムと作物生産にとっての重要性</p> <p>第13回：土壌が養分を保持する機能(3) 定量的な表し方</p> <p>第14回：土壌の酸性化と作物生育(1) 土壌のpHと酸性化の原因</p> <p>第15回：土壌の酸性化と作物生育(2) 土壌の酸性と作物生育の関係、授業のまとめ</p> <p>定期試験</p>			
テキスト			
なし			
参考書・参考資料等			
新版 土壌学の基礎 生成・機能・肥沃度・環境(松中照夫著、農山漁村文化協会)			

土壌学の基礎 生成・機能・肥沃度・環境 (松中照夫著、農山漁村文化協会)

学生に対する評価

期末試験 (100%)

授業科目名： 作物生産学Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 義平 大樹
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 農業)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 農業の関係科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>○作物栽培学実習等で得られた作物観察および栽培管理の実感と知識を結びつける</p> <p>○北海道農業を背景とした畑作物の栽培管理と、その基礎となる考え方を習得する。</p> <p>○農業改良普及員の資格試験(作物分野)に合格するための基礎的な知識を身につける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>北海道の主要な畑作物(ムギ類、トウモロコシ、マメ類、バレイショ、テンサイ)の生理・生態的特性と、それに関連した栽培管理を学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ムギの種類と生育特性、コムギ粒の構造</p> <p>第2回：コムギの種類と用途、生育過程、栽培管理</p> <p>第3回：コムギの栽培管理</p> <p>第4回：マメ類の種類と生育特性、形態</p> <p>第5回：ダイズの生育過程、栽培管理</p> <p>第6回：ダイズの栽培管理</p> <p>第7回：テンサイ：テンサイ属の種類、生育過程、栽培管理</p> <p>第8回：テンサイの栽培管理</p> <p>第9回：バレイショの起源、種類、生育過程</p> <p>第10回：バレイショの栽培管理</p> <p>第11回：バレイショの収穫・貯蔵</p> <p>第12回：トウモロコシの起源、種類・生育過程</p> <p>第13回：トウモロコシの主要な栽培管理</p> <p>第14回：用途別トウモロコシの栽培管理</p> <p>第15回：授業のまとめ、試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>毎回のレジュメ(パワーポイント資料を配布)</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>作物学の基礎1 食用作物(農学基礎シリーズ)(後藤雄佐・新田洋司・中村聡 共著、農山漁村文化協会)</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>レポート(30%)、e-learningによる小テスト(30%)、期末筆記テスト(40%)</p>			

授業科目名： 園芸生産学Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 園田 高広
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 農業)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 農業の関係科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>農産物のグローバル化が加速する中、野菜は国産品の需要が高く、農家所得の向上に寄与する作物分野である。また、環境保全型農業の実践や野菜の持つ機能性について消費者の感心が高まっていることから、授業では、園芸品目の植物生理・生態に基づく栽培技術に加えて、病害虫の防除技術および栄養と多機能性、さらには行政施策についても説明する。このことにより、より現場に即した野菜の栽培に関する知識を修得することができる。</p> <p>これらのことにより、専門的知識と技術を習得するとともに、総合的思考力および判断力を習得することで、社会に貢献できる能力を養う。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>[知識・理解] 基本的な園芸学用語を理解し、野菜の生理・生態、病害虫防除法、栄養価および多機能性について説明できる。</p> <p>[技能] 得られた知識を園芸学実習などのフィールドワークで活かすことができる。</p> <p>[態度] 野菜の生理・生態、病害虫防除法、栄養価および多機能性について、議論できる。</p> <p>これらにより、野菜の生産や販売等を実践・指導できる人材の育成を目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 野菜園芸について</p> <p>第2回 栽培技術の基本</p> <p>第3回 野菜の育種</p> <p>第4回 果菜類の生理生態的特長と栽培管理（1）ウリ科野菜</p> <p>第5回 果菜類の生理生態的特長と栽培管理（2）ナス科野菜</p> <p>第6回 果菜類の生理生態的特長と栽培管理（3）イチゴ</p> <p>第7回 茎葉菜類の生理生態的特長と栽培管理</p> <p>第8回 塊根類、担根類、球茎類の生理生態的特長と栽培管理</p> <p>第9回 直根類の生理生態的特長と栽培管理</p> <p>第10回 鱗茎類などの生理生態的特長と栽培管理</p> <p>第11回 環境保全型野菜栽培技術</p> <p>第12回 施設環境と施設栽培</p> <p>第13回 野菜のポストハーベスト</p> <p>第14回 その他野菜の生理生態的特長と栽培管理/原発事故と向き合う福島の農業</p> <p>第15回 野菜園芸学のまとめ</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>必要に応じて、資料を適宜配布するとともに、e-learning上に資料を掲載する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>野菜園芸学（金浜耕基編、文永堂出版）</p> <p>野菜園芸の基礎（篠原温編著、農山漁村文化協会）</p>			

学生に対する評価

定期試験（80%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（20%）

授業科目名： 乳肉科学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 長谷川 靖洋、平山 洋佑 担当形態：オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 農業)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 農業の関係科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>[知識] 筋肉から食肉になるまでの大まかな流れおよび理化学的变化について理解出来る。 乳成分ごとの化学的および生化学的な特性について理解出来る。 乳の機能性や栄養性について理解出来る。</p> <p>[技能] 食肉加工品の製造方法の概略を説明することが出来る。 乳製品の製造工程について概要を説明することが出来る。</p> <p>[態度] 自ら知識を深め、積極的に講義に参加することが出来る。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>【乳科学分野】乳は哺乳動物の子が最初に出会う食べ物であるとともに、人類が利用した最古の食材の一つである。つまり、乳には生物学的意義と食品学的意義の二つの特徴を有する。本講義では、乳の特性や乳製品の製造工程などを理解するために、乳中のタンパク質、脂質、炭水化物そしてミネラル類の特徴について概説する。加えて、栄養成分以外の乳成分、乳の物理化学的諸性質ならびに栄養性、生体調節性など乳の機能に関する内容も解説する。</p> <p>【食肉科学分野】本講義では必要なタンパク質摂取源である食肉について専門的な知識を広く学ぶ。食肉は動物の筋肉であり、さまざまな生化学的および組織学的な変化を得て筋肉から食肉に変化する。これらの変化をえた食肉は安全安心な食品として広く流通されており、加工することで保存性も高く、また、嗜好性が高い食品の一つでもある。本科目では食肉の生産、加工、構造および安全性と食肉について広く学びます。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業の進め方、乳成分組成の全体的特徴、乳脂質の特徴（平山）</p> <p>第2回：乳タンパク質の特徴① カゼインとカゼインミセル（平山）</p> <p>第3回：乳タンパク質の特徴② ホエイタンパク質、糖質の特徴（平山）</p> <p>第4回：乳のミネラル・ビタミン・風味成分の特徴、乳の物理化学的性質（平山）</p> <p>第5回：正常乳と異常乳、乳と微生物（平山）</p> <p>第6回：乳成分の変化、乳の栄養性（平山）</p> <p>第7回：乳成分由来の機能性物質、初乳の特性と利用および牛乳アレルギー（平山）</p> <p>第8回：食肉の生産について（長谷川）</p> <p>第9回：食肉の種類と構造について（長谷川）</p> <p>第10回：筋肉から食肉への変化について（長谷川）</p> <p>第11回：食肉の栄養について（長谷川）</p> <p>第12回：食肉の異常肉について（長谷川）</p> <p>第13回：食肉の保存と加工について（長谷川）</p> <p>第14回：食肉に関連する法規と安全管理について（長谷川）</p> <p>第15回：培養肉、代替肉について（長谷川）</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>教科書は設定しません。授業内容に関する資料を毎回配布します。</p>			

参考書・参考資料等
シリーズ食品の科学 乳の科学（上野川修一編、朝倉書店）
肉の機能と科学（松石昌典・西邑隆徳・山本克博著、朝倉書店）
学生に対する評価
定期試験（100%）

授業科目名： 農業経営学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 吉岡 徹 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 農業)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 農業の関係科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>[知識] ・ 農業を取り巻くキーワードを、実例を交えながら理解し、テーマに係わる現状を把握する。 ・ 諸テーマに係わる現状の把握、テーマに係わる諸理論の理解と課題の把握する。</p> <p>[技能] ・ 講義の要点をまとめ、文献・資料を正しく読解することができる。 ・ 自ら学ぶための自分の学習方法を確立することができる。</p> <p>[態度] ・ 積極的に質問する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本講義は、農業経営学概論で学んだ農業経営分析のための指標を組み合わせながら、農業経営の発展のために着目すべき点についてをはじめとした経営の発展のための取り組みを、メディアや文献からの具体的な事例分析をおりませながら考える。これらにより、ディプロマポリシーにある「問題探求の基本的姿勢」「基礎的な学問を習得する能力」の修得をめざす。なお、本講義は農業経営調査、食品製造業、食品流通業などへの調査研究実績を持つ教員が担当する。</p>			
<p>授業計画 講義は農業経営学に関わって選定したテーマに基づいて1～2回の講義を繰り返す、オムニバスの進行でとり進める。</p> <p>第1回：講義内容に関するガイダンスと併せて、コロナの農業への影響や、農産物輸出の拡大など経営をとりまく環境の変化について確認する</p> <p>第2回：前回に引き続き、肥料や飼料などの資材市場の現状と経営側の対応といった環境変化とそれに伴う生産現場の対応を概観する。</p> <p>第3回：スマート農業が注目される背景と主要なスマート農業の普及状況ならびに期待される効果について整理する。</p> <p>第4回：農業経営を改善するための基本となる経営者能力について、求められる能力や経営改善の基本手順などを確認する。</p> <p>第5回：農産物を販売するターゲットである、消費者の変化や最近の特徴について理解する。</p> <p>第6回：消費者の変化の中でも嗜好の変化について概観し、食品に対する消費者のニーズの変化について理解する。</p> <p>第7回：多くの農業者が取り組む生産物のブランド化について、ブランドの概念の理解や農業におけるブランド化の特徴を理解する。</p> <p>第8回：農業におけるブランド化に取り組むための基本的な手順について学ぶ。</p> <p>第9回：消費者の中でブランドがどういう流れで構築していくのか、消費者の購買心理の流れを理解する。</p> <p>第10回：コメや青果物、牛肉といったこれまでブランド化の取り組みが行われた品目について具体的な事例を織り交ぜながら取り組みの特徴を確認し、開発のポイントを学ぶ。</p> <p>第11回：農業におけるブランドマーケティング手法について、製品戦略やプロモーション戦略といった主要な戦略ごとの特徴と理論を理解する。</p> <p>第12回：11回目に続き農業におけるブランドマーケティング手法について、価格戦略や流通戦略に関して農業分野での特徴と主な理論を理解する。</p> <p>第13回：農業経営の継承農業後継者問題の整理をはじめとして、農業経営の継承に係わる問題点や</p>			

継承円滑化の取り組みについて、研究整理や事例分析を元に理解する 第14回：農業経営の多角化・6次産業化について農業経営の多角化や6次産業化の特徴や期待される効果や現状、取り組み事例について理解する 第15回：まとめと試験 定期試験
テキスト なし
参考書・参考資料等 農業のマーケティング教科書（岩崎 邦彦著、日本経済新聞出版社） デジタル時代の農業経営学（南石 晃明著、農林統計出版）
学生に対する評価 期末試験（80%）、小テスト（10%）、授業への参加態度（10%）

授業科目名： 学外農場実習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 4単位	担当教員名： 猫本 健司
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 農業)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 農業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 農家での生活から農家の経営実態の認識とコミュニケーション力を身につける。 ・ 酪農・農業の楽しさ、問題点を認識する。 ・ 食料生産技術の理論と実際を理解する。 			
授業の概要			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 本実習は別称「農家委託実習」とも呼ばれ、学外の農場で20日間の実習を行う、実践的な学習である。 ・ 本農場実習は、専門基礎科目として単なる体験授業ではなく、北海道内の農家（食料生産農家）での宿泊実習により、農家を教師として農家・農村の生活や生産現場の実態を学び、農業（酪農）の認識を深め、専門教科目への知識の活用能力を形成する。また、生産現場における技術を学ぶことによって、食料生産の理論と実際を理解する。 			
授業計画			
1. 実習内容			
<ol style="list-style-type: none"> 1) 北海道内の農家に宿泊し、実習を行う（実習の直接指導は農家が行う）。 2) 実習は、農家の生活パターンにそって行う。 3) 所定の実習報告書を作成する。 4) 教員が巡回し、実習時の問題点の聞き取りや指導を行う。 			
2. 農家の選定			
<ol style="list-style-type: none"> 1) 実習農家は実習担当者と協議して選定する。 2) 実習農家は北海道内の食料生産農家（酪農・畜産・畑作農家）とする。軽種馬農家は認めない。 3) 実家、親戚、試験場などでの実習は認めない。 			
3. 期間			
<ol style="list-style-type: none"> 1) 夏期休業期間内の20日間を原則とする。 			
4. その他			
<ol style="list-style-type: none"> 1) 実習までの手続き等の流れ <ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンス1：実習の概要、注意事項、農家選定等の説明（4月上旬） ② 農家行き先希望調査書の提出、実習農家を随時決定（5月上旬～6月中旬予定） ③ 受入農家への連絡：受入農家が決定次第、直ちに学生本人が農家への確認と依頼の連絡をとる ④ ガイダンス2：関係書類（実習報告書など）の配布と実習の注意事項の説明（7月上～中旬） ⑤ ガイダンス3：実習中の農家でのマナーについて（7月下旬） ⑥ 受入農家への再確認：学生本人が早めに期日、交通手段等を確認しておく ⑦ 実習開始 ⑧ 実習終了後、実習報告書の提出（9月30日厳守）と農家への礼状などを速やかに発送する。 			
テキスト			
なし			
参考書・参考資料等			
新しい酪農技術の基礎と実際：基礎編、実技編（酪農ヘルパー全国協会）			

北海道農業入門、畜産編、畑作編、稲作編、花き編（北海道農政部編、北海道農業改良普及協会）

学生に対する評価

授業内課題（10%）ガイダンス時のレポート

実習（45%）農家からの実習証明書

レポート（45%）実習報告書

授業科目名： 草地・飼料作物学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 義平 大樹、土井 和也 担当形態：オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 農業)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 農業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標 ・寒地における1年生飼料作物および永年牧草の生育特性と栽培管理について基本を理解する。 ・寒地型草地における維持管理および造成・更新方法の基本を理解する。・草地が持つ多面的機能を理解する。・粗飼料調製の基本を理解する。			
授業の概要 寒地の主要な飼料作物の来歴、生育特性、栽培管理法の基本を解説する。また、草地がもつ多面的機能を解説しつつ、草食家畜の重要な飼料基盤である寒地型草地の維持管理および造成・更新技術の基本を解説し、持続的で環境保全的な草地管理を紹介する。さらに、そのように栽培、収穫された粗飼料の調製技術について解説する。			
授業計画 ● 対面式で講義をおこなう。● 講義は教科書と持ち込み資料のいずれかまたは両方を使用して実施する。 第1回：【飼料作物】(担当 義平) サイレージ用トウモロコシの生育特性・利用性 第2回：【飼料作物】(担当 義平) サイレージ用トウモロコシの栽培 第3回：【飼料作物】(担当 義平) オオムギ、エンバク、ライムギ、ライコムギの生育特性・利用性と栽培 第4回：【飼料作物】(担当 義平) 飼料イネ、ソルガムの生育特性・利用性と栽培 第5回：【草地】(担当 土井) 草地農業と草地の歴史 第6回：【草地】(担当 土井) 牧草の種類と特性①：イネ科牧草 第7回：【草地】(担当 土井) 牧草の種類と特性②：マメ科牧草 第8回：【草地】(担当 土井) 草種構成と牧草収量 第9回：【草地】(担当 土井) 採草地の利用と管理 第10回：【草地】(担当 土井) 放牧草地の利用と管理 第11回：【草地】(担当 土井) 草地における施肥の基本 第12回：【草地】(担当 土井) 草地の維持管理、造成・更新方法 第13回：【草地】(担当 土井) 草地と環境保全 第14回：【飼料調製】(担当 土井) 牧草の飼料調製 第15回：【飼料調製】(担当 土井) 飼料用トウモロコシの飼料調製			
テキスト 草地学の基礎-維持管理の理論と実際(松中照夫・三枝俊哉著、農山漁村文化協会)			
参考書・参考資料等 飼料作物栽培・調製ガイドブック(三枝俊哉・義平大樹監修、デーリィマン社) 最新農業技術 畜産 Vol.9 特集 飼料作物便覧(農山漁村文化協会)			
学生に対する評価 期末試験(100%)			

授業科目名： 動物の行動と管理	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 猫本 健司
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 農業)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 農業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標 ・動物（家畜）管理の技術だけではなく、家畜行動、家畜福祉、環境および生産者の生活も含めた総合的なシステムとして関連付け、評価することができる。 ・動物（家畜）が必要としていることを理解し、動物の行動を理解し、施設や飼育管理改善のために工夫することができる。			
授業の概要 動物の行動を学ぶことで動物の欲求や状態を理解し、「動物・人間・施設・環境」の関係について理解を深める。動物管理の基本となる要素は「動物」とそれを管理する「人間」である。また、動物を管理するためには、その「場」としての「施設」も3つ目の要素として考えなくてはならない。さらに現在から将来にも目を向けるならば、これら総てを含む「環境」という4つ目の要素を考慮する必要があるが生じてくる。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：動物行動学への動物心理学の貢献（動物の感覚や記憶など） 第3回：動物行動学への動物心理学の貢献（ストレスや動機づけなど） 第4回：牛の採食行動の特徴 第5回：牛の休息行動の特徴および牛の維持行動 第6回：社会をつくる動物達の行動 第7回：飼料生産からみた家畜管理 第8回：搾乳方式からみた家畜管理 第9回：環境負荷の原因とその対策 第10回：循環農業と畜産環境との関係 第11回：温熱環境と動物の反応およびその対策 第12回：畜産からの環境負荷ガスの発生と温暖化 第13回：子牛の哺育における環境と対策 第14回：動物管理の近代化と将来展望 第15回：まとめと期末試験			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 動物の飼育管理（鎌田壽彦・佐藤幹・祐森誠司・安江健編、文永堂出版）			
学生に対する評価 授業のレポート（50%）、期末試験（50%）			

授業科目名： 肉用家畜学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山田 未知、西寒水 将
			担当形態：オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 農業)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 農業の関係科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>1)食肉生産のための肉牛、豚、鶏、羊、馬の品種やそのライフサイクルが説明できる。</p> <p>2)各畜種において、効率的な子畜生産のための種畜選抜の視点を理解し、その種畜の繁殖管理技術を実践できる。</p> <p>3)各畜種において求められる肉質（枝肉格付け）に反映した飼養管理技術について理解する。</p> <p>4)競走馬については、その作出方法やトレーニング方法について理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>肉用家畜である肉牛、豚、めん羊、鶏、農用馬および競走馬それぞれの畜種におけるライフサイクルと産業の現状、品種、飼養管理の基礎知識について家畜ごと分けて授業を展開する。特に肉用家畜においては子畜生産が重要な位置を占めるため、用いる種畜、種鶏の選定とその選抜方法や繁殖管理、生産子畜の育成方法については重点的に説明する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：肉牛の改良と生産管理(交配計画、種雄牛選定、系統、繁殖牛の選抜)（西寒水）</p> <p>第2回：肉牛の飼養管理(舎飼い管理、放牧管理、分娩管理)（西寒水）</p> <p>第3回：肉牛の哺育・育成管理(自然哺乳、人工哺乳、育成牛の管理)（西寒水）</p> <p>第4回：肉牛繁殖牛の繁殖管理(発情観察、人工授精、受精卵移植の利用)（西寒水）</p> <p>第5回：肉牛の飼養管理(繁殖牛のステージ別の飼養管理)（西寒水）</p> <p>第6回：肥育牛の飼養管理(肥育ステージ別の飼養管理、ビタミンAコントロール)（西寒水）</p> <p>第7回：肉牛の枝肉評価(歩留まり、肉質等級、瑕疵(かし))（西寒水）</p> <p>第8回：めん羊の飼養管理（山田）</p> <p>第9回：採卵鶏のライフサイクルと飼養管理（山田）</p> <p>第10回：肉用鶏のライフサイクルと飼養管理（山田）</p> <p>第11回：ブタのライフサイクルと種豚生産（山田）</p> <p>第12回：ブタの繁殖・分娩管理（山田）</p> <p>第13回：肥育豚の飼養管理と枝肉格付け（山田）</p> <p>第14回：国産農用馬の生産と利用（山田）</p> <p>第15回：競走馬の生産と利用（山田）</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>各講義で教員が資料を配布</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>肉用牛の科学（入江正和・木村信熙監修、養賢堂）、ヤギの科学（中西良孝編、朝倉書店）</p> <p>ニワトリの科学（古瀬充宏編、朝倉書店）、ブタの科学（鈴木啓一編、朝倉書店）</p> <p>ウマの科学（近藤誠司編、朝倉書店）</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>期末試験（100%）</p>			

授業科目名： 乳用家畜学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 土井 和也
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 農業)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 農業の関係科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>授業のテーマ：乳生産に密接に関係する日乳生理と搾乳技術および給与飼料に関することを学習する。</p> <p>到達目標：泌乳のメカニズムと搾乳方法を理解する。乳牛用飼料の生産・調製法を理解する。乳牛の放牧を利用した生産技術の意義、生産性およびその重要性を認識する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>乳生産に密接に関係する日乳生理と搾乳技術および給与飼料に関することを生産現場に即して解説する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：酪農の歴史</p> <p>第3回：乳成分の合成について</p> <p>第4回：飼料設計の基本①（粗飼料の給与）</p> <p>第5回：飼料設計の基本②（タンパク質飼料の給与）</p> <p>第6回：飼料設計の基本③（油脂の給与）</p> <p>第7回：サイレージ調製の基本</p> <p>第8回：飼料作物ごとのサイレージ調製の特徴</p> <p>第9回：サイレージの評価法および給与方法</p> <p>第10回：乳牛の飼養形態と放牧の位置付け</p> <p>第11回：放牧地での乳牛の行動</p> <p>第12回：放牧条件と牧草生産および利用量</p> <p>第13回：放牧飼養と家畜生産（1頭当たり乳生産）</p> <p>第14回：放牧飼養と土地生産性（1ha当たり乳生産）</p> <p>第15回：循環型酪農における放牧の生産性と経済性</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>各回教員が資料を配布する</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>ここははずせない乳牛栄養学シリーズ（デーリィ・ジャパン社）、乳牛栄養学の基礎と応用（デーリィ・ジャパン社）</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>期末試験（100%）</p>			

授業科目名： 作物生産学Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 林 怜史
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 農業)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 農業の関係科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>稲作全般、水稻の生育過程について解説する。水稻の栽培技術とそれらを支える理論を理解することで、分類する、比較する、関係づける、特定する、予測するといった能力を高めることが期待される。先進的な栽培技術を取り入れた営農事例や知見を理解することで、応用する、適用する、評価する、工夫する能力を高めることが期待される。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>栽培技術や環境要因などが水稻の生育、収量、品質に及ぼす影響について学習する。作物栽培の目的は高い収量性であり、収量の成立過程を生育過程や収量構成要素から学習する。近年のコメには高品質、良食味も求められており、栽培技術や品種がコメの品質、食味に及ぼす影響についても解説する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス、水稻栽培に関する単位系 第2回：コメの品質と食味 第3回：コメの栄養、粳の構造 第4回：イネの生育ステージ 第5回：種子の予措 第6回：育苗管理 第7回：本田の準備と移植 第8回：分けつ期 第9回：雑草管理、水管理、追肥 第10回：相転換、幼穂の発達、冷害危険期、開花・受粉 第11回：重複受精・登熟、シンク・ソースの関係、収穫適期 第12回：収量構成要素、北海道のイネの特徴、他作物との収量性の比較、様々な栽培法 第13回：飼料用米とその多収要因について 第14回：世界のイネ栽培 第15回：授業のまとめ、試験</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>なし</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>作物栽培学の基礎 I 食用作物 (後藤雄佐・新田洋司・中村聡共著、農山漁村文化協会) 新版 解剖図説 イネの生長 (星川清親・新田洋司著、農山漁村文化協会)</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>小テスト (20%)、期末テスト (80%)</p>			

授業科目名： 資源リサイクルと環境保全	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 石川 志保
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 農業)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 農業の関係科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標 持続可能な農業・環境保全のための資源リサイクルの基礎を学び、実践的な視点を養う。</p> <p>到達目標: 資源リサイクルと環境保全の基本的な概念を理解する。 農業や生活における資源循環の仕組みを説明できる。 環境問題とその解決策について、基礎的な考え方を身につける。</p>			
<p>授業の概要 本講義では、農業における有機資源の再利用、廃棄物管理、生物資源の循環利用さらには地球環境問題に関連する基礎知識を解説する。環境負荷の低減やカーボンニュートラルの概念、持続可能な社会に向けた取り組みについても触れ、基礎知識の習得を目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：講義内容全般についてのガイダンス 第2回：日本の廃棄物管理の現状 第3回：資源循環の基礎 第4回：有機資源リサイクルの基礎 第5回：バイオマスの熱利用 第6回：バイオマスの発電 第7回：バイオマス燃料化とその応用 第8回：食品廃棄物のリサイクルと資源化 第9回：バイオ炭の基礎 第10回：地球温暖化・気候変動の影響 第11回：カーボンニュートラルの概念と農業 第12回：生物多様性と環境保全 第13回：農村地域の資源リサイクルモデル 第14回：環境保全に関する国際的な取り組み 第15回：まとめ</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト 各回の講義において、随時紹介する</p>			
<p>参考書・参考資料等 なし</p>			
<p>学生に対する評価 授業ごとのレポート（30%）、定期試験（70%）</p>			

授業科目名： 再生可能エネルギー入門	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 石川 志保
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 農業)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 農業の関係科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>農業分野における再生可能エネルギーの活用と持続可能な社会の実現</p> <p>到達目標:</p> <p>再生可能エネルギーの基本的な種類と特性を理解する。 農業現場で活用される再生可能エネルギーの技術を学び、実践的な知識を身につける。 エネルギーの持続可能な利用に関する社会的・経済的・環境的な課題を考察できるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本講義では、再生可能エネルギーの基礎から農業分野への応用までを体系的に学ぶ。北海道には、風力、太陽光、水力、地熱、バイオマスエネルギーといった再生可能エネルギー資源が豊富にあり、それらを利用する発電事業も盛んに行われている。これらの主要なエネルギー源について、それぞれの原理・技術・事例を紹介する。また、農業現場での導入事例をもとに、エネルギーの地産地消やカーボンニュートラルの実現に向けた取り組みについて、実践的な知識を深める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：講義内容全般についてのガイダンス 第2回：エネルギーの種類、農業におけるエネルギー利用の現状 第3回：太陽光発電の原理と農業利用（ソーラーシェアリング等） 第4回：農業施設への導入事例と課題 第5回：風力発電 第6回：バイオマスの種類と利用技術（メタン発酵、固形燃料） 第7回：畜産業や農業残渣のエネルギー活用 第8回：地熱発電 第9回：小水力発電 第10回：国内および世界の再生可能エネルギー動向 第11回：農業の脱炭素化：カーボンニュートラルの考え方と農業の役割 第12回：再生可能エネルギー政策と補助制度 第13回：エネルギーの貯蔵と利用技術：蓄電池、熱利用、エネルギーマネジメント 第14回：再生可能エネルギーと水素利用 第15回：まとめ</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>各回の講義において、随時紹介する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>なし</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業ごとのレポート（30%）、定期試験（70%）</p>			

授業科目名： 農業機械・施設学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 石川 志保
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 農業)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 農業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標 農業機械・施設の基礎と応用を学び、農業の生産性向上と持続可能な農業の実現に貢献する。			
到達目標: 農業機械および施設の基本構造・原理を理解する。 機械や施設の適切な管理・運用方法を学び、安全に扱う知識を習得する。 農業現場での省力化・効率化、環境負荷低減につながる技術を考察できる。			
授業の概要 農業機械と施設に関する基礎知識を学び、農業の生産性向上や環境配慮型農業の実現に向けた技術を理解する。本講義では家畜飼養管理施設を主な対象とするが、一部畑作や園芸施設も対象にする。さらに近年農業分野でも導入が進められているICTやロボット、AI等の先端技術を活用したスマート農業について基礎知識の取得から、実践事例についても学ぶ。			
授業計画 第1回：講義内容全般についてのガイダンス 第2回：畜産機械・施設の基礎 第3回：畜産施設の環境管理技術 第4回：飼料調整施設の歴史と種類 第5回：哺育、育成牛舎の種類、特徴および留意点 第6回：搾乳方式からみた牛舎機械・施設 第7回：堆肥化施設とふん尿処理機械・施設 第8回：液肥化施設とふん尿処理機械・施設 第9回：排水処理施設の管理施設と環境基準 第10回：畜産分野のスマート農業技術 第11回：畜産施設と再生可能エネルギーの関わり 第12回：畑作・園芸施設の基礎 第13回：スマート農業と施設園芸 第14回：畜産環境問題（特に地球温暖化） 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト 各回の講義において、随時紹介する。			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 授業ごとのレポート（30%）、定期試験（70%）			

授業科目名： 農畜産物市場論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 相原 晴伴
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 農業)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 農業の関係科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>[知識] 消費者として、農畜産物購入のための、正しい知識を得ること。生産者・販売業者として、農畜産物の有利販売を行うための知識を得ること。</p> <p>[技能] 農畜産物市場の動向について、議論できるようになること。</p> <p>[態度] 自らの知識を深め、積極的に講義に参加すること。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>農畜産物市場に関する知識は、生産者にとっては有利販売の戦略の立案のために、流通業者にとっては仕入・販売の改善のために重要である。この講義では、農畜産物市場の仕組みを解説するとともに、近年の動向について説明する。まず、農畜産物・食料の消費・流通・生産の状況について説明する。次に、農畜産物の品目別（米、小麦・大豆、青果物、牛乳・乳製品、食肉・肉製品など）の市場の特徴を説明する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：農産物市場論の基礎理論</p> <p>第2回：農畜産物・食料の消費</p> <p>第3回：農畜産物・食料の流通・貿易</p> <p>第4回：農畜産物の生産・出荷</p> <p>第5回：米市場（1） 市場政策</p> <p>第6回：米市場（2） 価格形成</p> <p>第7回：小麦・大豆市場（1） 生産動向</p> <p>第8回：小麦・大豆市場（2） 流通機構</p> <p>第9回：青果物市場（1） 流通機構</p> <p>第10回：青果物市場（2） 市場対応</p> <p>第11回：牛乳乳製品市場（1） 共同販売</p> <p>第12回：牛乳乳製品市場（2） 需給調整</p> <p>第13回：食肉肉製品市場（1） 食の安全安心</p> <p>第14回：食肉肉製品市場（2） インテグレーション</p> <p>第15回：試験と授業のまとめ</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>なし</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>農産物・食品の市場と流通（日本農業市場学会編、筑波書房）</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>期末試験（100%） 3分の2以上の出席を条件とする。</p>			

授業科目名： 農業協同組合論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 糸山 健介 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 農業)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 農業の関係科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>[知識] 農業協同組合の組織構成や実施事業について説明できるとともに、世界の中での特徴を習得する。</p> <p>[技能] 農協と関係する団体についても理解を深め、地域農業における各組織の位置付け・評価ができるようになる。</p> <p>[態度] 農協に関する理解を深め、積極的に質問や議論ができるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>日本の農業、農村および食料をめぐる環境において、農業協同組合は非常に大きな影響力を有している。それは農畜産物の販売事業に留まらず、生産・生活資材の購買事業、信用・共済の金融事業、技術指導等の営農指導など多岐にわたる事業に取り組んでいるためである。しかし、その事業方式は一般の会社とは異なり、協同組合特有の経営方式で運営されている。本講義では、そうした農業協同組合（JA）の組織構造や事業展開を解説するとともに、関係団体等についても説明し、農業協同組合だけでなく農業に関係する組織全般の知識を身に付け、今後の農業発展に求められる組織的対応の思考力を養う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：農業協同組合の発足日本において農協が設立された背景および事業方式について解説する。</p> <p>第2回：農協の組織構造農協特有の組合員組織や連合会などについて解説する。</p> <p>第3回：農協の運営方式農協における意思決定構造や組合員の権利と義務について解説する。</p> <p>第4回：農協の事業（Ⅰ）指導事業農協の指導事業の役割と内容について解説する。</p> <p>第5回：農協の事業（Ⅱ）信用事業骨格をなす組合金融と制度金融とともに、信用事業の問題点についても解説する。</p> <p>第6回：農協の事業（Ⅲ）共済事業共済事業の事業方式ならびに商品の概要を解説する。</p> <p>第7回：農協の事業（Ⅳ）販売事業農協の販売事業の特徴および現状について解説する。</p> <p>第8回：農協の事業（Ⅴ）購買事業農協の購買事業の役割および運営原則について解説する。</p> <p>第9回：農協の事業（Ⅵ）厚生、利用、加工事業農協の病院事業である厚生事業、販売事業を支える利用・加工事業について解説する。</p> <p>第10回：農協の教育・広報活動事業ではないものの、農協の根幹ともいべき教育・広報活動について解説する。</p> <p>第11回：JAの取組みとその意義【外部講師：JA職員】JAの取組みについて、実際に携わっているJA職員の方に解説してもらう。</p> <p>第12回：農協の関係団体（Ⅰ）農業改良普及センター、農業委員会農協と関係する農業改良普及センターと農業委員会の活動内容について解説する。</p> <p>第13回：農協の関係団体（Ⅱ）土地改良区、農業共済組合農協と関係する土地改良区と農業共済組合の活動内容について解説する。</p> <p>第14回：制度としての農協の終焉－農協改革－国家主導の農協改革によって農協が果たす役割が変容していることを解説する。</p> <p>第15回：総括－日本社会における農協の存在意義と経済機能－これまで解説した講義を総括して、農協の存在意義について解説する。</p>			

テキスト なし
参考書・参考資料等 JA読本（全国農業協同組合中央会著、家の光協会） 農協法の基礎（全国協同出版編、全国協同出版） 農業協同組合論入門（新井義雄著、全国協同出版）
学生に対する評価 小テスト（60%） 14回まで毎回実施。 レポート（40%） 期末試験ではなくレポートの提出を求める

授業科目名： アグリビジネス論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 相原 晴伴
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 農業)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 農業の関係科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>〔知識〕生産者、農協、経済連などの販売活動が、アグリビジネスの面からどのような意義をもっているのかを理解すること。</p> <p>〔技能〕条件に応じたマーケティング戦略を立案できること。</p> <p>〔態度〕自らで知識を深め、積極的に講義に参加すること。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>この講義では、アグリビジネスの多様な内容について説明する。まず、食品産業の活動について、農業との関連に重点をおいて説明する。つぎに、農畜産物の品目別の市場において、各業者が行っているビジネス活動や生産者の販売戦略を解説する。また、マーケティング戦略の基礎について説明する。そして、農業生産財を取り扱う業者のビジネス活動を解説する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：アグリビジネス論の領域</p> <p>第2回：外食・中食産業</p> <p>第3回：食品流通業</p> <p>第4回：食品製造業</p> <p>第5回：米関連のアグリビジネス</p> <p>第6回：小麦・大豆関連のアグリビジネス</p> <p>第7回：青果物関連のアグリビジネス</p> <p>第8回：牛乳・乳製品関連のアグリビジネス</p> <p>第9回：食肉・肉製品関連のアグリビジネス</p> <p>第10回：製品戦略・価格戦略</p> <p>第11回：販売チャンネル戦略・プロモーション戦略</p> <p>第12回：マーケティングの諸概念</p> <p>第13回：マーケティングの実際</p> <p>第14回：肥料・農薬産業</p> <p>第15回：試験と授業のまとめ</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>なし</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>食料・農産物の市場と流通（木立真直・坂爪浩史編、筑波書房）</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>期末試験（100%） 3分の2以上の出席を条件とする。</p>			

授業科目名： 酪農・畜産経営論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 日向 貴久
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 農業)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 農業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標 経営における基本的な経済データの見方を理解できる酪農・畜産経営での経済データを用いた基礎的な生産管理の方法を理解できる経営を巡る外部環境を理解した上で、ビジネスモデルを作成し適用することができる			
授業の概要 わが国の酪農・畜産の外的環境を見ると、輸入飼料の価格、国内の生乳販売制度、国際的な乳製品や畜産物の貿易体制が目まぐるしく変化をしています。生産者にはより複雑な経営に係る判断が求められています。本講義では、酪農・畜産における経営管理の方法を学ぶとともに、経営を取り巻く外部環境の変化に対応した経営戦略について説明します。その上で、経営者を特別講師に招き実践報告等を交えて理解を深め、経営管理能力を養うことを目的とします。			
授業計画 第1回：「経営」を考える（ガイダンス） 第2回：酪農・畜産における農家経済 第3回：所得の構成要素 ～酪農・畜産経営内の作業分化 第4回：酪農経営の収益構造と組織 ～効率で稼ぐか、規模で稼ぐか？ 第5回：会計学の基礎 第6回：イエの視点から酪農経営を見る ～財務諸表の読み方 第7回：モノの視点から酪農経営を見る ～生産費と原価 第8回：原価情報を用いた経営管理① ～生産管理への活用 第9回：原価情報を用いた経営管理② ～投資に係る意思決定 第10回：原価情報を用いた生産管理③ ～地域における生産管理の実例 第11回：生乳流通と販売の仕組み ～加工原料乳と乳価形成 第12回：酪農・畜産を取り巻く国際情勢 ～主に経済連携協定に注目して 第13回：経営戦略とビジネスモデル 第14回：酪農の多様な価値（特別講義） ～道内酪農経営者が見る生産と流通の在り方 第15回：わが国における酪農・畜産経営の展望 & テスト 定期試験			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 農林水産省HP「酪農・畜産をめぐる情勢」 中央酪農会議HP「日本の酪農」			
学生に対する評価 小テスト（40％） 講義の際に適宜実施 期末試験（60％） 選択式&記述式に拠る出題			

授業科目名： 農村社会学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 正木 卓 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 農業)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 農業の関係科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>[知識]①家族農業の問題と可能性を、女性農業者の地位や活動を例に説明できる。 ②農業集落における活動から集落の存在意味を説明できる。 ③農業と農村の存在意義を農産物生産以外の多面的な機能発揮の取り組みから説明できる。 ④農業と農村の問題を担い手の確保、政策、経営改善、都市との交流を例に説明できる。 ⑤農業と農村の問題と魅力を説明できるようになる。</p> <p>[技能]農村の実情を把握するために各種統計資料の所在と使用方法を説明できる。 [態度]経済的取引のみではない社会関係を尊重し、調べる態度を養う。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>[主旨]農村社会は経済的な取引のみで成り立ってはいない。農業経営の大部分をになう家族、共有財産や共同活動を伴う集落、都市から期待され影響を受ける農村など、様々な社会が関係する。この諸関係は、農業や農村の理想的な展開を阻害したり促進したりし、時代に応じてその影響は異なる。将来の農業や農村、都市との関わり方を考察するために、これらの取引ではない諸関係の概念とその意義を学ぶ。「問題解決能力」を学習する前段階で、農村の問題や対策の現状について「課題探求力」を身につける専門基礎科目となる。</p> <p>[関連科目]農業経営学、農業市場学、農政学、地域計画論および諸技術科学が探究される場としての農村についての基礎を学ぶ</p> <p>[形式]講義を基本として、20分程度のフレーズに分け、講義内容を振り替えるためeラーニング小テストを行う。</p> <p>以上を通じて専門科目の「学びに向かう力」を身につける。</p> <p>※授業スケジュールは時間割通りに対面で行う予定です。</p>			
<p>授業計画 授業全体は、公表された統計・法律・意識調査・文献に加え、独自の実態調査、農協等の業務データを用いて、実態に即して現状を把握し提示し、考察を促す</p> <p>第1回：農村社会学とは：①農村社会学とは、②講義の概要、③用語クイズ、④eラーニング飛ぶノートの活用方法</p> <p>第2回：女性農業者の位置と地位：①互酬性とは、②農業労働力としての女性の位置、③日本における女性問題、④農村における女性問題、⑤家事労働の性格</p> <p>第3回：「いえ」の制度と意識：①現代のいえ意識、②いえ制度の形成、③意識変化の胎動</p> <p>第4回：家族問題への対応：①家族の諸形態、②農業者夫婦の意識差、③家族経営協定</p> <p>第5回：農業集落機能の現状と変化：①農業集落と集落営農、②集落営農の事例、③農業集落の形成経過、④集落の変化と機能</p> <p>第6回：農業集落による自然の保全：①コモンズの悲劇、②農業集落の自然、③生産と生活基盤としての里山、④入り会い慣行</p> <p>第7回：集落と農業者のネットワーク：①ソーシャル・キャピタル、②農業集落への期待、③伝統的な関係、④集団とネットワーク化</p> <p>第8回：イングランド西南部の酪農経営と農村景観：①農業の概要、②農場の景観と技術、③放牧の多様性、④放牧に関するビジネスと文化</p> <p>第9回：農業と農村の多面的機能とグリーンツーリズムー外部経済とは：①都市住民の農業観、②多</p>			

<p>面的機能の経済的評価、③グリーンツーリズムの動向と普及体制</p> <p>第10回：条件不利地域での過疎化と農村振興：①過疎の位置と定義、②過疎対策の概要、③人口減少の経過と背景、④条件不利地への振興策と課題</p> <p>第11回：担い手の空洞化と農地の荒廃：人口減少とその対策：①担い手と農地の減少、②新規参入への期待、③地方消滅の衝撃、④田園回帰戦略、⑤T型集落点検</p> <p>第12回：農村に若者を呼ぶシンポジウム（この企画がなくなる場合、農業の新しい取り組みとして農業の6次産業化について講義を行う。実施する予定である。実施回が講師の予定により前後する場合があります。）</p> <p>第13回：都市における農業のあり方：社会共通資本としての都市：①都市と農村の対立、②農地を排除する制度、③都市と農村の関係論、④農地の都市的な利用</p> <p>第14回：生産と生活のバランス：①世界的視野でみる、②家族農業の優位性、③小規模持続的農業、④学ぶべき課題</p> <p>第15回：まとめと試験</p> <p>定期試験</p>
<p>テキスト</p> <p>なし</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>食の危機と農の再生（祖田修著、三和書籍）</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>小テスト（50%）、期末試験（50%）</p>

授業科目名： 農業政策学Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 井上 誠司
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 農業)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 農業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ「藩政期から第二次大戦直後までの農業政策の展開過程」 到達目標①各期および各地域における農業政策の成果を評価できる。 ②各期および各地域における農業政策の課題を指摘できる。 ③先駆的な取り組みを導入した地域の農業政策の利点を模倣できる。 ④各地域に適した農業政策のあり方を究明できる。			
授業の概要 農業政策とは農業の指針を示したものである。その内容は、時代、さらには、国、都道府県、市町村など、対象とする地域によって異なる。本講義では、主に藩政期から第二次大戦直後までの時期に焦点を当て、わが国の農業政策の動向を把握し、各期の政策の課題について考察する。そして、市町村など、より身近な地域を対象とした政策の意義について理解し、各地域に適した農業政策のあり方を探求する。			
授業計画 第1回：農業政策の概念 第2回：農業政策の領域（農業政策が及ぶ範囲） 第3回：農業政策の時代区分 第4回：身近な地域である市町村における農業政策の重要性 第5回：封建時代における地主的土地所有の発生 第6回：明治期における地主的土地所有の定着 第7回：小作農による地主への対抗 第8回：戦中の農業政策と食料不足への対応策 第9回：農業政策の実践例を学ぶ①（外部講師の属する地域と農業に関する解説） 第10回：農業政策の実践例を学ぶ②（外部講師による農業政策策定・実践に関する講演） 第11回：戦後復興期の民主化政策 第12回：農地改革の成立過程 第13回：農地法の制定過程 第14回：農地改革の課題 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 講義にて随時紹介する			
学生に対する評価 期末試験（80%）、授業内課題（20%）			

授業科目名： 農業市場論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 相原 晴伴
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 農業)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 農業の関係科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>[知識] 資本主義経済と農業との関連について、市場を通じた結びつきについて理解すること。</p> <p>[技能] 農業を取り巻く市場の動向について、議論できるようになること。</p> <p>[態度] 自らの知識を深め、積極的に講義に参加すること。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>資本主義経済が発展する中で、経済全体と農業を結ぶ市場である農業市場を通して、農業がどのように変化してきたかを解説する。まず、現在の経済体制である資本主義経済の歴史と理論を概説する。つぎに、現代資本主義の農業問題を先進国と発展途上国とに分けて説明する。そして日本における資本主義経済と農業との関係の歴史的な展開を整理する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：資本主義経済と農業</p> <p>第2回：商品・貨幣・資本</p> <p>第3回：資本主義経済における生産と再生産</p> <p>第4回：産業資本間の競争① 利潤率の均等化</p> <p>第5回：産業資本間の競争② 地代論</p> <p>第6回：市場機構の役割</p> <p>第7回：資本主義経済の再編</p> <p>第8回：現代資本主義と農業問題① 先進国</p> <p>第9回：現代資本主義と農業問題② 発展途上国</p> <p>第10回：戦前期日本の経済と農業</p> <p>第11回：戦後日本農業の展開と農業市場① 農地改革と高度経済成長</p> <p>第12回：戦後日本農業の展開と農業市場② 低成長期以降</p> <p>第13回：農業構造の改革</p> <p>第14回：農業国際化への対応</p> <p>第15回：試験と授業のまとめ</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>なし</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>日本の農業150年（暉峻衆三編、有斐閣）</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>期末試験（100％） 3分の2以上の出席を条件とする。</p>			

授業科目名： 農業政策学Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 井上 誠司
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 農業)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 農業の関係科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ「高度経済成長期以降から現代に至るまでの農業政策の展開過程」</p> <p>到達目標①基礎的食料農産物を自給することの意義について指摘できる。</p> <p>②各期および各地域における農業政策の成果を評価できる。</p> <p>③各期および各地域における農業政策の課題を指摘できる。</p> <p>④先駆的な取り組みを導入した地域の農業政策の利点を模倣できる。</p> <p>⑤各地域に適した農業政策のあり方を究明できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>農業政策とは農業の指針を示したもので、その内容は、時代、対象とする地域によって異なる。本講義では、主に高度経済成長期から現代に至るまでの時期に焦点を当て、わが国の農業政策の動向を把握し、各期の政策の課題について考察する。そして、市町村など、より身近な地域を対象とした政策の意義について理解し、各地域に適した農業政策のあり方を探求する。また、わが国の食料自給率が低迷する現状を踏まえ、基礎的食料農産物を自給することの意義について認識する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：農業政策の意義</p> <p>第2回：農業政策の領域（農業政策が及ぶ範囲）と時代区分</p> <p>第3回：高度経済成長期における工業化の進展と農業の課題</p> <p>第4回：農業基本法の成立過程</p> <p>第5回：農業基本法農政の目的</p> <p>第6回：農業基本法農政の課題と結末</p> <p>第7回：米の生産過剰の顕在化と総合農政の成立</p> <p>第8回：総合農政の特徴と課題</p> <p>第9回：二つの危機の発生と高度経済成長の終了</p> <p>第10回：地域農政の登場とその特徴</p> <p>第11回：新自由主義の台頭と諸政策の転換</p> <p>第12回：経済構造調整下の農業政策</p> <p>第13回：グローバル化の進行と農産物貿易の自由化</p> <p>第14回：身近な地域における農業政策の重要性</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>なし</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>講義にて随時紹介する</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>期末試験（80％）、授業内課題（20％）</p>			

授業科目名： 地域計画論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 正木 卓 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 農業)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 農業の関係科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>[知識]地域計画の策定や推進に関係する現状の問題と望ましい方法を説明できるようになる。 [技能]地域計画を策定し実施するための調査・分析手法を説明し、合意形成の手法を実施できるようになる。 [態度]地域をより豊かにするための計画の策定と実施に参加し、実情を調べ、丁寧に説明し、多様な住民に配慮する姿勢を学ぶ。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>[主旨]卒業後、農協や自治体等で地域計画の策定、推進、見直しなどを担当する学生が多数在学していることを考慮している。担当者として最低限の知識を学習する。まず基礎として歴史、理論、事例、財政、法律について示す。つぎに計画策定に向けた調査方法、統計資料の使用方法、調査結果の提示方法について示す。さらに計画の実施及び見直しに必要なワークショップの手法を学び、実施して「コミュニケーション能力」を涵養した上で、計画管理の全体を示す。主に農村地域において地域計画の立案・実施に関する「問題解決力」を学習する。 [カリキュラム]農村社会学、農業経営学、農業市場学、農政学、諸技術科学で学ぶ事象が実際に展開する農村地域をいかに管理し、いかに参加するかを学ぶ応用学となる。 [形式]講義を基本とするが、飛ぶノートのワークシートに20分程度の間隔でノートを取る。毎回eラーニングでの小テストに解答する。地域計画書の内容を調査する実習と、身近なテーマでワークショップを行い、グループワークを行う。 以上を通じて「個別の知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を養う。 ※授業スケジュールは時間割通りに対面で行う予定です。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：地域計画論とは：①学ぶ必要性、②学ぶ内容、③成績評価の方法 第2回：地域計画の前史：①日本最古の農村計画、②二宮尊徳の仕法、③仕法の科学性 第3回：新酪事業に見る大規模農村開発の効果：①事業概要、②計画時の問題、③実施時の問題、④事業後の問題、⑤主体的な村づくり、⑥国家主導的農村計画の問題 第4回：計画の技法：①PERTとは、②ネットワークの描き方、③スケジュールの管理手法、④計画の改善 第5回：公共事業と農村財政：①地方自治体の負債、②地方自治体の財源問題、③公共事業による負債累積、④新しい自主財源の確保 第6回：地域計画の法体系：①計画の重層性、②計画間の関係、③自律的計画のために 第7回：住民参加と環境アセスメント：①合意形成の困難性、②住民参加の法的根拠、③アセスメント制度の可能性と課題 第8回：農村調査の方法：①調査票作成の技法、②調査の実施方法、③調査票の全体構成 第9回：地域農業の現状分析：①現象から要因へ、②分析の進め方、③作業の手順 第10回：地域農業計画のフレームワーク：①計画の策定状況、②計画のフレームワーク、③地域農業の運営問題 第11回：地域計画書の内容と課題：①地域農業計画書の読み方、②全道の地域計画書の調査・分析 ③使える計画書の作成</p>			

<p>第12回：地域計画課題の明確化：①課題の決定、②問題解決の手法、③TN法による課題の評価、④実践例、⑤評価結果の読み方</p> <p>第13回：意見発表と評価（グループワーク、ワークショップ）：①ワークショップの実施、②テーマは地域を活性化するために何をすべきかなど</p> <p>第14回：計画の評価と管理：①計画の行政評価の現状、②計画管理とは、③管理主体の条件</p> <p>第15回：まとめ及び試験</p> <p>定期試験</p>
<p>テキスト</p> <p>なし</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>家族酪農の経営改善（吉野宣彦著、日本経済評論社）</p> <p>地域農業振興計画の実践と課題（吉野宣彦他、北海道地域農業研究所）</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>小テスト（48％）、授業内課題（4％）、期末試験（48％）</p>

授業科目名： 営農システム論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 日向 貴久、吉岡 徹
			担当形態：オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 農業)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 農業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標 農業における協業の効果を理解できる。特に酪農における営農システムの現状と課題を理解できる。営農システム構築に向けた合意形成の方法を理解できる。			
授業の概要 わが国の農業生産は家族労働が多く、特に労働面と資本面において制約があることから、生産量の拡大には限界が生じます。農業経営を維持するためには、個別でできることと集団であることを明確に区分する必要があります。本講義では、生産性や収益性を向上させている営農システムを対象に、その効果と、酪農等で展開するシステムの現状と課題について理解を深めます。加えて、合意形成に関する演習を実施し、営農システムを構築する際に重要となる地域の合意形成と、問題解決能力について学ぶことを目的とします。			
授業計画 第1回：「システム」を考える（日向） 第2回：生産システムと分業（日向） 第3回：生産管理とTPS（日向） 第4回：生産管理とQC（Quality Control）（日向） 第5回：飼料作の共同とコントラクター（日向） 第6回：道内コントラクターの現状と課題（日向） 第7回：TMRセンターの展開と組織構造（日向） 第8回：道内TMRセンターの現状（日向） 第9回：TMRセンターの効果と課題（日向） 第10回：集落と農業（吉岡） 第11回：集落組織の現状と課題（吉岡） 第12回：集落営農組織の展開方向（6次化など）（吉岡） 第13回：営農システム構築に向けた合意形成（日向） 第14回：合意形成を支援する手法と活用方法（日向） 第15回：効率的な営農システムの構築に向けて&テスト（日向） 定期試験			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 事例で学ぶ酪農支援組織とその利用（荒木和秋監修、デーリィマン社）			
学生に対する評価 小テスト（40％） 授業後の小テスト 期末試験（60％）			

授業科目名： アグリデザイン実習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 相原 晴伴、正木 卓 担当形態：クラス分け・複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 農業)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 農業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標 [知識] 食の6次産業に関する分野の知識を修得すること。 [技能] 食の6次産業化のコーディネートができるようになること。 [態度] 自らで知識を深め、積極的に講義に参加すること。			
授業の概要 食プロクラスでは、全国的に食の6次産業化や農食ビジネスが活性化する中で、食料の生産・加工・販売の全体の流れについて学習し、関係する主体をコーディネートする手法や事業計画の立案の方法を習得する。			
授業計画 第1回：ガイダンス（相原・正木） 第2回：6次産業化関連法規・制度（正木） 第3回：経営分析の応用（正木） 第4回：農林水産業と中小企業向けの金融支援制度（正木） 第5回：商品開発（相原・正木） 第6回：6次産業化の事例分析（相原・正木） 第7回：コーディネート手法（1）対話の心得（相原・正木） 第8回：コーディネート手法（2）ファシリテーターの役割（相原・正木） 第9回：マーケティング実習（1）食品の仕入（相原） 第10回：マーケティング実習（2）食品販売（相原） 第11回：事業計画の立案（1）事業計画の必要性（相原・正木） 第12回：事業計画の立案（2）事業計画の作成手順（相原・正木） 第13回：事業計画の立案（3）事業計画の内容作成（相原・正木） 第14回：事業計画の立案（4）事業計画の検証（相原・正木） 第15回：報告書の作成（相原・正木）			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 食の6次産業化プロデューサー 基幹教則本（櫻井清一・小沢互・南賢二監修、食農共創プロデューサーズ）			
学生に対する評価 授業内課題（50%）、授業への参加態度（50%）			

授業科目名： アグリデザイン実習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 糸山 健介、井上 誠司 担当形態：クラス分け・複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 農業)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 農業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標 [知識]農協の組織構造(組合員組織)を理解して説明できるようになる。 [知識]農協の実像および施設整備について理解して説明できるようになる。 [知識]農協が担う農産物の流通構造を理解して説明できるようになる。 [技能]実習を通して、実際に農協が行っている取組みを実施できるようになる。 [態度]他の学生や周囲の人達と協調してコミュニケーションができるようになる。			
授業の概要 農協クラスでは、食料農業農村に関する調査実習として、農協における実践的実習を行い、食料生産に関する見識の活用能力の向上を図る。			
授業計画 第1回：ガイダンス(糸山・井上) 第2回：調査・実習の計画立案(糸山・井上) 第3回：農協職員による農協全体の説明(糸山・井上) 第4回：農協役職員との意見交換(糸山・井上) 第5回：圃場の見学(糸山・井上) 第6回：主要施設の見学(糸山・井上) 第7回：主要施設での作業実習(1)米の集出荷施設(糸山・井上) 第8回：主要施設での作業実習(2)畑作物の集出荷施設(糸山・井上) 第9回：主要施設での作業実習(3)野菜の集出荷施設(糸山・井上) 第10回：主要施設での作業実習(4)肥料の仕入・販売実習(糸山・井上) 第11回：主要施設での作業実習(5)農薬の仕入・販売実習(糸山・井上) 第12回：主要施設での作業実習(6)種子の仕入・販売実習(糸山・井上) 第13回：報告書の作成(1)草案の作成(糸山・井上) 第14回：報告書の作成(2)報告書の完成(糸山・井上) 第15回：発表(糸山・井上)			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 内地からみた北海道の農業と農協(坂下明彦著、筑波書房)			
学生に対する評価 レポート(100%)			

授業科目名： アグリデザイン実習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 吉岡 徹、日向 貴久、小糸 健太郎
			担当形態：クラス分け・複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 農業)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 農業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>[知識] 有機農業栽培技術、有機食品加工および有機食品流通について、用語の意味、概念、現状の動向を確実に理解し、説明できる。</p> <p>[技能] 農産物などの生産・販売事業の企画・運営・評価を体験的に学ぶ。事業の企画・運営・評価を体験的に学ぶ。</p> <p>[態度] 農作業体験を積極的に行い、実習先農業者との交流を行うこと。</p>			
授業の概要			
有機農業クラスでは、有機栽培や減農薬栽培など環境保全型農業が広がりを見せていることを踏まえ、それらを実践する農業経営への実習を通して環境保全型栽培技術、環境保全型農産物の流通、環境保全型農業の理念などを学習する。			
授業計画			
<p>第1回：ガイダンス（吉岡・日向・小糸）</p> <p>第2回：調査・実習の計画立案（吉岡・日向・小糸）</p> <p>第3回：環境保全型栽培農家での生き物調査（1）農家の概要調査（吉岡・日向・小糸）</p> <p>第4回：環境保全型栽培農家での生き物調査（2）農家の技術調査（吉岡・日向・小糸）</p> <p>第5回：環境保全型栽培農家での生き物調査（3）水田での生き物調査（吉岡・日向・小糸）</p> <p>第6回：環境保全型栽培農家での生き物調査（4）畑での生き物調査（吉岡・日向・小糸）</p> <p>第7回：環境保全型農業経営実習（1）水稻栽培農家の調査（吉岡・日向・小糸）</p> <p>第8回：環境保全型農業経営実習（2）水稻栽培の実習（吉岡・日向・小糸）</p> <p>第9回：環境保全型農業経営実習（3）畑作物栽培農家の調査（吉岡・日向・小糸）</p> <p>第10回：環境保全型農業経営実習（4）畑作物栽培の実習（吉岡・日向・小糸）</p> <p>第11回：環境保全型農業経営実習（5）野菜栽培農家の調査（吉岡・日向・小糸）</p> <p>第12回：環境保全型農業経営実習（6）野菜栽培の実習（吉岡・日向・小糸）</p> <p>第13回：報告書の作成（1）草案の作成（吉岡・日向・小糸）</p> <p>第14回：報告書の作成（2）報告書の完成（吉岡・日向・小糸）</p> <p>第15回：発表</p>			
テキスト			
<p>有機農業みんなの疑問（館野廣幸著、筑波書房）</p> <p>有機農業政策と農の再生（中島紀一著、コモンズ）</p> <p>有機農業の技術と考え方（中島紀一・金子美登・西村和雄編著、コモンズ）</p>			
参考書・参考資料等			
なし			
学生に対する評価			
実習（50%）、レポート（30%）、授業への参加態度（20%）			

授業科目名： 職業指導Ⅰ（農業）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 飛谷 淳一
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 農業)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 職業指導		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>農業高校等の生徒に対し、進路に関する個人資料、職業・学校情報、啓発的経験および相談を通じて、生徒みずからが将来の進路の選択、計画をし、就職または進学の進路実現できるように指導できること。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>学校教育における進路指導は個々の生徒の職業的発達を促進する教育活動であり、社会の変化、生徒の進路多様化にともない一層重要である。本講義は、進路指導の今日的意義、指導の方法、職業適性の理解など広く基礎的な事項とともに、農業教育の立場から職業観の形成、職業生活設計等について考求し、農業科担当教員としての資質能力を養う。講義としてグループディスカッション、グループ・個人発表、模擬授業、地域との連携等を行いサービスラーニングの手法を身につける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション 自己紹介、他人紹介</p> <p>第2回：職業指導の成立 大人と子供 日本人の職業、職業指導の必要性、職業教育と職業指導</p> <p>第3回：学校教育と職業指導 職業と教育（職業指導の視点）、学校教育への導入、 進路指導の意義 個人面接、集団討論の手法 ブラック企業 就労環境</p> <p>第4回：職業指導の理論と歴史 コミュニケーション能力の手法 労働者の権利</p> <p>第5回：職業的選抜と能力主義 産業の発達、雇用システムの変化 グループディスカッション、職業指導演習</p> <p>第6回：学歴社会の職業的社会変化 職業観形成の要因、個性的発達の助長 PIAAC ブレーンストーミング法、職業指導演習</p> <p>第7回：職業指導の方法・技術 自己実現 プロジェクト学習法1 意義と目的、その活用法、職業指導演習</p> <p>第8回：職業指導の方法・技術 プロジェクト学習法2 学習法の実際 発表、職業指導演習</p> <p>第9回：学校における職業指導の実際 職業と職業観・勤労観の意義と目的、職業と仕事、職業観、勤労観</p> <p>第10回：主な外国の職業教育の現状</p>			

これからの職業指導 第11回：職業観・勤労観の実際 インターンシップやデュアルシステム 第12回：職業観・勤労観の実際 ボランティア学習、職業指導演習 第13回：外部講師講話 労働者のワークルール 第14回：外部講師講話 教育現場における職業観・勤労観指導の実践 第15回：現代社会と進路指導の課題（総括）
テキスト なし
参考書・参考資料等 中学校・高等学校キャリア教育の手引き（文部科学省）
学生に対する評価 授業内課題（30%）、レポート（50%）、授業への参加態度（20%）

授業科目名： 職業指導Ⅱ（農業）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 飛谷 淳一 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 農業)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 職業指導		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>農業高校等の生徒に対し、進路に関する個人資料、職業・学校情報、啓発的経験および相談を通じて、生徒みずからが将来の進路の選択、計画をし、就職または進学の進路実現できるように指導できること。さらにその後の生活によりよく適応し、進歩する能力を伸長するように、教師が教育の一環として、組織的・継続的に援助できるようになること。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>学校教育における進路指導は個々の生徒の職業的発達を促進する教育活動であり、社会の変化、生徒の進路多様化にともない一層重要である。本講義は、進路指導の今日的意義、指導の方法、職業適性の理解など広く基礎的な事項とともに、農業教育の立場から職業観の形成、職業生活設計等について考究し、農業科担当教員としての資質能力を養う。講義としてグループディスカッション、グループ・個人発表、模擬授業、地域との連携等を行いサービスラーニングの手法を身に付ける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション 自己紹介、教育現場における指導力を高めるために必要なこと</p> <p>第2回：職業指導の成立 職業指導の必要性、職業教育と職業指導</p> <p>第3回：学校教育と職業指導 学校教育への導入、進路指導の意義、個人面接、集団討論の手法</p> <p>第4回：職業指導の理論と実践① 職業への適応、就職後の不適応の問題、コミュニケーション能力の手法</p> <p>第5回：職業指導の理論と実践② 産業の発達、雇用システムの変化</p> <p>第6回：職業指導の理論と実践③ 職業観形成の要因、個性的発達の助長、ブレインストーミング法</p> <p>第7回：プロジェクト学習法（発展）① 意義と目的、その活用法</p> <p>第8回：プロジェクト学習法（発展）② 学習法の実際、発表</p> <p>第9回：職業と職業観・勤労観の意義と目的 職業と仕事、職業観、勤労観</p> <p>第10回：職業観・勤労観の実際 インターンシップ及びアカデミックインターンシップ</p> <p>第11回：職業観・勤労観の実際 デュアルシステム</p> <p>第12回：職業観・勤労観の実際 ボランティア学習及び体験的な学習</p> <p>第13回：外部講師</p>			

労働者のワークルール（事例紹介や相談窓口） 第14回：外部講師 教育現場における職業観・勤労観指導の実践 第15回：現代社会と進路指導の課題（総括）
テキスト なし
参考書・参考資料等 中学校・高等学校キャリア教育の手引き（文部科学省）
学生に対する評価 授業内課題（30%）、レポート（50%）、授業への参加態度（20%）

授業科目名： 農業科教育法 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 飛谷 淳一
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 農業)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1. 教科「農業」の教育目標を明確に自覚でき、背景となる栽培・飼育や加工・調製、販売等の学問領域を理解し、具体的な指導を想定した授業（実習含む）設計ができるような農業科教育の指導者となる。</p> <p>2. 農業教育で人を育てることができる実践力を習得し、生徒や保護者ならびに地域と真摯に対面でき、指導的立場となれるような人材となる。</p>			
授業の概要			
農業教育の重要性や課題を的確に把握するため、農業科の特色ならびに指導方法や授業計画の立て方等を学習する。あわせて、教職に関する科目と連動させ、農業高校の実態や高校生の現状を把握し、教育現場の課題や問題点を解決するための実践的な指導力を身につけることを目的とし、講義とあわせて実習・演習形式の授業を実施する。			
授業計画			
第1回：授業全体の概要説明：農業科教育について①「その概要と変遷」			
第2回：農業科教育について②「必要性と今日的課題」			
第3回：教科「農業」の原則履修科目とその目標：「高等学校学習指導要領解説 農業編」より（科目「農業と環境」，「課題研究」について）			
第4回：教科「農業」の科目の構成とその目標：「高等学校学習指導要領解説 農業編」より（農業学習の特質とプロジェクト学習，学校農業クラブ活動について）			
第5回：学習指導案の構成について①（学習（指導）目標、学習（指導）計画、単元観（教材観）、生徒観、指導観（授業観））			
第6回：学習指導案の構成について②（授業の組立：「導入」「展開」「まとめ」教師の指導，生徒の活動，指導上の留意点，評価の観点について）			
第7回：学習指導案の構成について③（発問と指名，板書，プリント作成）			
第8回：プロジェクト学習について（プロジェクト学習の意義，実践及び考え方）			
第9回：プロジェクト学習の方法（目的を定める（課題の設定），計画を立てる（計画の立案），実施する（実施・実践），評価する（反省・評価））			
第10回：プロジェクト学習の実践（フードシステム系学科）			
第11回：プロジェクト学習の実践（環境系学科）			
第12回：科学的視点を育むプロジェクト学習の実践①（ICTを活用した調査・研究・実験）			
第13回：科学的視点を育むプロジェクト学習の実践②（地域連携を活用した調査・研究・実験）			
第14回：科目へのプロジェクト学習の導入①（PDCAサイクルとプロジェクト学習）			
第15回：科目へのプロジェクト学習の導入②（トマト栽培を題材としたプロジェクト学習）			
定期試験			
テキスト			
高等学校学習指導要領解説 農業編（平成30年3月告示 文部科学省）			
参考書・参考資料等			
なし			

学生に対する評価

レポート（50%）、プレゼンテーション（20%）、授業への参加態度（30%）

授業科目名： 農業科教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 廣瀬 之彦
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 農業)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 農業に関する基礎的・基本的な教授法を身につけることにより、教育実習実施時に自信を持って授業を展開することができ、学習することの楽しさを 生徒に伝えることができるようになる。 2 主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業展開ができるようになる。 3 将来、農業科教員として採用され、教育現場および地域で活躍できる教員となれるような資質・能力を身に付ける。 4 積極的に授業に取り組み、他者の模擬授業方法を取り入れながら自己の考えを確立し、授業を行えるようになる。 			
<p>授業の概要</p> <p>農業科教員としての資質や品格を高め、生徒や保護者ならびに地域の方々から信頼される人材となるため、講義、実習・演習ならびに教科の指導力向上を目的として、履修者一人一人による模擬授業を実施します。農業科教育法Iでは、実習をとおした作物・野菜・花卉栽培の知識・技術の習得、農業科教育法IIでは、Iで習得した知識・技術を活用し、授業の組み立てと展開について、模擬授業をとおし教科指導力を身に付けます。そして、授業は学習指導だけではなく生徒指導や道徳教育等学校教育全般を担う場であり、学校教育の中核をなす重要な場であることを理解し、責任を持って授業を行う態度を養います。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：講義全体のガイダンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業科教育の教育課程の編成について ・教科「農業と環境」について ・授業の進め方について <p>第2回：指導案作成について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒板、ICTの活用について <p>第3回：教科指導と模擬授業1（作物分野）</p> <p>第4回：教科指導と模擬授業2（野菜分野）</p> <p>第5回：指導案作成について、黒板、ICTの活用</p> <p>第6回：教科指導と模擬授業3（果樹分野）</p> <p>第7回：教科指導と模擬授業4（植物バイオテクノロジー分野）</p> <p>第8回：教科指導と模擬授業5（畜産（牛）分野）</p> <p>第9回：教科指導と模擬授業6（畜産（豚・鶏）分野）</p> <p>第10回：教科指導と模擬授業7（食品製造分野）</p> <p>第11回：教科指導と模擬授業8（食品流通分野）</p> <p>第12回：教科指導と模擬授業9（農業経営分野）</p> <p>第13回：教科指導と模擬授業10（農業と情報分野）</p> <p>第14回：教科指導と模擬授業11（農業と環境分野）</p> <p>第15回：まとめ（履修者数によっては模擬授業を実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業の反省、今後に向けて ・授業の在り方について 			

テキスト

農業と環境（古在豊樹他17名、農山漁村文化協会）

農業と環境（塩谷哲夫他14名、実教出版）

参考書・参考資料等

高等学校学習指導要領解説 農業編（平成30年3月告示 文部科学省）

学生に対する評価

実習（50%）

授業内課題（40%）

授業への参加態度（10%） PC, スマートフォン等の使用等授業規律、他者の模擬授業に生徒役として積極的に参加等（注意事項参照）

授業科目名: 体育実技 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数: 1 単位	担当教員名:山口 太一、林 二 士、竹内 雅明、横山 克人 担当形態:複数
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実技を通して体力の維持向上ならびに健康の保持増進を図り、なおかつ、それらを実現するための方法を習得できる。 ・チームあるいはコンビのコミュニケーションを通じて集団行動の役割および責任分担、連帯感やマナーを理解できる。 ・スポーツやレクリエーションの楽しさや大切さを学び、自発的に運動を実践できるようになる。 ・選択した実技種目における基本および応用技術を高め、自分の習得した技術を実感しながら練習や試合を実践できる。 ・選択した実技種目におけるルールを十分に理解し、試合の運営ならびに審判をすることができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>健康でより良い生活を営むためには、運動、栄養、休養のバランスを保つ必要がある。なかでも運動の果たす役割は大きく、心身の健康を保持増進させるためには適切な運動を習慣的に実践することが望ましい。また、運動のうち、特にスポーツ活動についてはチームプレーやコンビプレー、チームメートと相手の関係など、自分と他人とのかかわりあいのなかで社会性や道徳性を身に付けることが可能となる。そこで本授業では、代表的な実技種目を用いて運動の重要性と個々人に必要とされる適切な運動の方法について学び、それらを実践すること、そして、スポーツ活動により社会性や道徳性を養うことを目的としている。これらは健康で豊かな学生生活を送るうえで重要であり、ひいてはより良い人生を送る術となると考えられる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>実技種目:ソフトボール、硬式テニス、バドミントン、バレーボール、卓球、トレーニングの中から 5 種目を設定し、うち 1 種目を 15 週行う。</p> <p>第1回:ガイダンス 履修方法の説明、出席簿の作成、体育関連施設の紹介、種目の選択、担当教員の紹介。※更衣は不要</p> <p>第2回:種目別基礎トレーニング 1 種目に合ったウォームアップおよびクールダウンの方法を実践し、習得する。※2 回目以降は更衣が必要。</p> <p>第3回: 種目別基礎トレーニング 2 種目に合った簡易トレーニング法を実践し、習得する。</p> <p>第4回: 種目別基本技術 1 種目別の基本技術の習得を目指す。(基礎練習)</p> <p>第5回: 種目別基本技術 2 種目別の基本技術の習得を目指す。(基礎練習とミニゲーム)</p> <p>第6回: 種目別基本技術 3 種目別の基本技術を習得する。</p> <p>第7回:種目別応用技術 1 種目別の応用技術の習得を目指す。(実践練習)</p> <p>第8回: 種目別応用技術 2 種目別の応用技術の習得を目指す。(実践練習とミニゲーム)</p> <p>第9回:種目別応用技術 3 種目別の応用技術を習得する。</p> <p>第10回: 種目別コンビあるいはチームプレー1 種目別のコンビあるいはチームプレーの習得を目指す。(基本練習)</p> <p>第11回: 種目別コンビあるいはチームプレー2 種目別のコンビあるいはチームプレーの習得を目指す</p>			

(実践練習)。

第12回: 種目別コンビあるいはチームプレー3 種目別のコンビあるいはチームプレーを習得する。

第13回: 試合 1 種目のルールを理解し、試合の運営法および審判法の習得を目指す。

第14回: 試合 2 種目のルールを理解し、試合の運営法および審判法の実践。

第15回: 試合 3 および総括 これまでに習得したことを実践に活かす。

テキスト: なし

参考書・参考資料等: 授業中に適宜配付する

学生に対する評価: 授業内課題 96% レポート 4%

授業科目名: 体育実技Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数: 1単位	担当教員名:山口 太一、越山 賢一、林 二士、横山 克人 担当形態:複数
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実技を通して体力の維持向上ならびに健康の保持増進を図り、なおかつ、それらを実現するための方法を習得できる。 ・チームあるいはコンビのコミュニケーションを通じて集団行動の役割および責任分担、連帯感やマナーを理解できる。 ・スポーツやレクリエーションの楽しさや大切さを学び、自発的に運動を実践できるようになる。 ・選択した実技種目における基本および応用技術を高め、自分の習得した技術を実感しながら練習や試合を実践できる。 ・選択した実技種目におけるルールを十分に理解し、試合の運営ならびに審判をすることができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>健康でより良い生活を営むためには、運動、栄養、休養のバランスを保つ必要がある。なかでも運動の果たす役割は大きく、心身の健康を保持増進させるためには適切な運動を習慣的に実践することが望ましい。また、運動のうち、特にスポーツ活動についてはチームプレーやコンビプレー、チームメートと相手の関係など、自分と他人とのかかわりあいのなかで社会性や道徳性を身につけることが可能となる。そこで本授業では、代表的な実技種目をを用いて運動の重要性と個々人に必要とされる適切な運動の方法について学び、それらを実践すること、そして、スポーツ活動により社会性や道徳性を養うことを目的としている。これらは健康で豊かな学生生活を送るうえで重要であり、ひいてはより良い人生を送る術となると考えられる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>実技種目:バドミントン、バスケットボール、フットサル、卓球、軽スポーツ(ソフトバレーボール、スポンジテニス、バドミントンのオムニバス)、トレーニングのうち1種目を15週行う。</p> <p>第1回:ガイダンス 種目の選択、担当教員の紹介、種目別注意事項の説明。※更衣は不要</p> <p>第2回:種目別基礎トレーニング1 種目に合ったウォームアップ方法の習得を目指す</p> <p>第3回:種目別基礎トレーニング2 種目に合ったクールダウンの方法の習得を目指す</p> <p>第4回:種目別基礎トレーニング3 種目に合った簡易トレーニング法の習得を目指す</p> <p>第5回:種目別基本技術1 種目別の基本技術の習得を目指す</p> <p>第6回:種目別基本技術2 種目別の基本技術を習得する</p> <p>第7回:種目別応用技術1 種目別の応用技術の習得を目指す</p> <p>第8回:種目別応用技術2 種目別の応用技術を習得する</p> <p>第9回:種目別コンビあるいはチームプレー1 種目別のコンビあるいはチームプレーの習得を目指す (基本動作)</p> <p>第10回:種目別コンビあるいはチームプレー2 種目別のコンビあるいはチームプレーの習得を目指す (戦術理解、実践練習)</p> <p>第11回:種目別コンビあるいはチームプレー3 種目別のコンビあるいはチームプレーを習得する</p> <p>第12回:試合1 種目のルールを理解し、試合の運営法および審判法の習得を目指す(基本理解)</p>			

第13回:試合 2 種目のルールを理解し、試合の運営法および審判法の習得を目指す(実践練習)

第14回:試合 3 種目のルールを理解し、試合の運営法および審判法の習得する

第15回:試合 4 および総括 これまでに習得したことを実践に活かす

テキスト:なし

参考書・参考資料等:授業内で適宜配付します

学生に対する評価:授業内課題 96% レポート 4%

授業科目名: 運動の科学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数: 2 単位	担当教員名:山口 太一 担当形態:単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・体育		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・健康に生きるために重要な働きをする身体の諸機能について理解できる。 ・加齢や運動不足にともなう身体諸機能の低下や諸機能の低下によって発症する各種生活習慣病について理解できる。 ・継続的な運動の実践により実現する身体諸機能の維持や向上の効果、各種生活習慣病の予防改善効果について理解できる。 ・現時点での各個人の身体諸機能の状態について把握し、今後の変化について予想できる。 ・身体諸機能を維持向上させるための運動方法を習得し、自ら実践できるようになる。 			
授業の概要			
<p>健康でより良い生活を営むためには身体の様々な機能を良好な状態に保つ必要がある。しかしながら、これらの諸機能は運動不足や加齢など様々な要因によって低下を来すとされ、現代の生活習慣病の発症や進展に深く関わっている。一方、運動を習慣的に継続することは身体の諸機能を向上あるいは維持させ、健康の保持増進および生活習慣病の予防改善に繋がる。そこで本授業では、1)健康でより良い生活を営むうえで重要な役割を果たす身体の諸機能について学ぶこと、そして、運動不足や加齢にともなう生じる身体諸機能の低下と低下によって引き起こされる疾病、特に生活習慣病について理解を深めることを目的とする。また、2)現時点での各個人の身体諸機能の状態を把握するとともに、今後の変化について予想すること、3)身体諸機能を高めるための運動の方法について学び、試行することで、今後自らが健康に生きるために継続しなければならない運動の方法について習得することを目的とする。</p>			
授業計画			
第1回:ガイダンス 今後の授業内容を説明する			
第2回:体組成について 肥満とやせの現状、メカニズム、関連疾患、肥満とやせを解消するための運動方法を学ぶ			
第3回:体組成の測定 身長、体重、体格指数、体脂肪率、周囲径等を測定し、測定結果について自己評価を行い、レポートを提出する。			
第4回:体組成を良好に保つための運動の実践 肥満の予防改善を目的とした運動を実践し、レポートを提出する。			
第5回:持久力について 持久力の決定要因、持久力が高いことの意義、持久力を高めるための運動方法について学ぶ。			
第6回:持久力の測定 持久力を測定し、測定結果について自己評価を行い、レポートを提出する。			
第7回:持久力を高めるための運動の実践 持久力の向上を目的とした運動を実践し、レポートを提出する。			
第8回:筋機能について① 筋力、筋パワー、柔軟性等が高いことの意義、筋機能を高めるための運動方法について学ぶ(スクワット、スプリットスクワット、ヒップリフトなど)。			
第9回:筋機能の測定 筋量、筋力、筋パワー、柔軟性等を測定し、測定結果について自己評価を行			

い、レポートを提出する。

第10回:筋機能を高めるための運動の実践 筋量、筋力、筋パワー、柔軟性の向上を目的とした運動を実践し、レポートを提出する。

第11回:骨について 骨の強さ(骨密度)が高いことの意義、骨密度を高めるための運動の方法について学ぶ。

第12回:骨密度の測定 骨密度を測定し、測定結果について自己評価を行い、レポートを提出する。

第13回:骨を強くするための運動の実践 骨密度を高めるための運動を実践し、レポートを提出する。

第14回:筋機能について② 筋力、筋パワー、柔軟性等が高いことの意義、筋機能を高めるための運動方法について学ぶ(ショルダープレス、クランチ、タバタプロトコルほか)。

第15回:まとめ これまでの授業内容の復習を行う。

定期試験

テキスト:なし

参考書・参考資料等:授業中に適宜配付

学生に対する評価:レポート 50% 期末試験 50%

授業科目名: 英語 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数: 2 単位	担当教員名:金井(菅原)彩 香 担当形態:単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>[知識・理解]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な英文法を理解し、適切に運用することができる。 ・基本的な英語の語彙の意味を把握し、適切に活用することができる。 <p>[技能]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・比較的短い身近なテーマの英文の要点を把握することができる。 ・ゆっくりはっきりと話される日常生活に必要な重要な英語の情報を聞きとることができる。 <p>[態度]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異なる文化にたいして理解と配慮をもつことができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>基本的な英語運用能力を養うための演習を行い、語彙、文法、聴解、読解力の基盤を身につけることを目指す。まず、基本的な文法事項や語彙を確認し、それを実際に使用して表現する練習を重ねることで、運用力を向上させる。また、文化、科学、社会問題など、多岐にわたるテーマを扱った英文や音声・映像教材を活用し、聴解力や読解力の向上を図る。これにより、英語を使って情報を収集するスキルを身につけることを目標とする。授業は、練習問題への取り組みを中心に構成され、解答や解説を通じて学習内容を深めていく。さらに、幅広い題材を通じて英語への理解を深めるだけでなく、具体的な課題に取り組むことで応用力を高める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第 1 回:イントロダクション</p> <p>第 2 回:Unit 1 Who am I?: simple present be; articles an and a; questions with be</p> <p>第 3 回:Unit 2 People in My life: object pronouns; simple present; demonstratives</p> <p>第 4 回:Unit 3 Free Time: simple present questions and answers; adverbs of frequency; expressions of frequency</p> <p>第 5 回:Unit 4 Homes: present continuous; there is/ there are</p> <p>第 6 回:Unit 5 Then and Now: simple past be; there was/ there were</p> <p>第 7 回:Unit 6 People and Places: likes, dislikes, and preferences; can and can't for possibility</p> <p>第 8 回:前半のまとめ、中間試験</p> <p>第 9 回:Unit 7 Things: possession; countable and uncountable nouns</p> <p>第 10 回:Unit 8 Stories: simple past; simple past negative and questions</p> <p>第 11 回:Unit 9 Getting Around: comparative adjectives; polite offers and requests with can</p> <p>第 12 回:Unit 10 Skills and Experiences: present perfect; present perfect or simple past?</p> <p>第 13 回:Unit 11 Extremes: superlative adjectives; have to/ don't have to</p> <p>第 14 回:Unit 12 The Future: going to; will for predictions</p> <p>第 15 回:まとめ、定期試験</p>			
テキスト:Voices: Develop Your Voice in English Level 2, Student Book with Spark Access + e-Book			

Chia Suan Chong 他 National Geographic Learning
参考書・参考資料等:なし
学生に対する評価 期末試験 40% 中間試験 30% 授業への参加態度 30%(毎回の授業で提出する小レポートにより確認する)

授業科目名: 英語Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数: 2単位	担当教員名:吉中 厚裕 担当形態:単独
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 (Goal) 英語が好きになる。 (Targets) 英語のリズムと音声に慣れる。英語の語彙が増強される。簡単な英文が理解できる。 英語で短い文章を書くことができる。			
授業の概要 基本的な英文法や英単語を学習する。簡単な英文を繰り返し音読・暗唱する。 ディスカッションやグループワークを含み、英語力に加え、批判的・論理的思考力、課題探求力、コミュニケーション能力を高めることを目指す			
授業計画 第1回ガイダンス 第2回:なぜ英語? 第3回:英語の仕組み (1)単語の種類 第4回:英語の仕組み (2)文のコアとなるもの 第5回:英語の仕組み (3)英語での思考プロセス 第6回:英語の仕組み (4)英語の時間軸 第7回:英語の仕組み (5)文の構造 第8回:英語の仕組み (6)YesとNo 第9回:英語の仕組み (7)Be 動詞 第10回:英語の仕組み (8)一般動詞 第11回:英語で暮らそう (1)趣味 第12回:英語で暮らそう (2)料理 第13回:英語で暮らそう (3)音楽 第14回:英語で暮らそう (4)パブ 第15回:英語で暮らそう (5)仕事 定期試験			
テキスト:Everyday English Grammar 水嶋 孝司、Roger Pattimore 南雲堂			
参考書・参考資料等:なし			
学生に対する評価 小テスト 50% 授業内課題 50%			

授業科目名: 情報処理基礎演習	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数: 1 単位	担当教員名:糸山 健介、小 杉 直美 担当形態:複数
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作 ・情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標			
[知識]Windows の基本操作を習得する。			
[技能]ワープロソフトの基本操作を習得し、さまざまな形式の文書を作成できるようになる。 表計算ソフトの基本操作を習得し、基本的なデータ処理を行えるようになる。 プレゼンテーションソフトの基本操作を習得し、簡単な発表用資料を作成できるようになる。			
[態度]情報処理に関する理解を深め、積極的に質問や議論ができるようになる。			
授業の概要			
コンピュータの利用技術は、実社会はもちろん大学においても必須のものとなっている。この演習では、パソコンを実際に操作し、Windows (基本ソフト) の基本操作ならびに、代表的なアプリケーションソフトであるワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの基本を学習する。 毎回、演習の結果を授業の最後に提出する。 この演習で学ぶ PC の活用方法は、大学での勉学において基礎となるものである。上級学年では、さらに高度な応用が求められる。この科目は、知識の活用能力、表現能力、コミュニケーション能力を身に付けることに寄与している。授業全体を通して情報利活用能力を養成する。			
授業計画			
第 1 回: ガイダンス 授業のねらいと進め方、授業計画、成績評価、履修に関する注意 など Windows の基礎知識 起動・終了、ウィンドウの操作、フォルダ・ファイルの操作、日本語入力 著作権など、情報モラルについての注意点			
第 2 回: ワープロソフト入門(1) 文書の作成			
第 3 回: ワープロソフト入門(2) 表の作成			
第 4 回: ワープロソフト入門(3) 図の挿入			
第 5 回: ワープロソフト入門(4) レポート作成のサポート機能			
第 6 回: ワープロソフト入門(5) 問題演習			
第 7 回: プレゼンテーションソフト入門 スライドの作成			
第 8 回: 表計算ソフト入門(1) 表の作成			
第 9 回: 表計算ソフト入門(2) 数式と関数(1)			
第 10 回: 表計算ソフト入門(3) 数式と関数(2)			
第 11 回: 表計算ソフト入門(4) グラフ、データベース活用			
第 12 回: 表計算ソフト入門(5) 問題演習			
第 13 回: 表計算ソフト入門(6) ワープロソフトとの連携			
第 14 回: 総合演習 ワープロソフトと表計算ソフトの問題演習			
第 15 回: まとめと試験			
テキスト: 実践ドリルで学ぶ Office 活用術 noa 出版			
参考書・参考資料等: なし			

学生に対する評価:授業内課題 70% 期末試験 30%

授業科目名: 情報処理演習	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数: 1 単位	担当教員名:高取 則彦、 小杉 直美 担当形態:複数
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作 ・情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標 ・表計算ソフトを用いて、基本的なデータ処理はもちろんより複雑なデータ処理も行えるようになる。 ・現実の問題に対して、表の構成や必要な計算式を自分で考えられるようになる。			
授業の概要 ・表計算ソフトは、表の集計はもちろんさまざまなデータの処理や分析に利用することができる。この演習では、表計算ソフトを用いたデータの処理と分析の方法を学ぶ。情報処理基礎演習で学習した内容を復習した後、より複雑な関数の活用やグラフの作成などを学ぶ。さらに、基本的な統計処理や処理の自動化を学ぶ。これらを踏まえて、より高度な問題への応用を試みる。 ・毎回、演習の結果を授業の最後に提出する。 ・この演習で学ぶ表計算ソフトの活用方法は、各種実験・実習でデータを取り扱う際の基礎となる。この科目は、知識の活用能力、批判的・論理的思考力、問題解決力を身に付けることに寄与している。 ・授業全体を通して情報の利活用能力を養成する。			
授業計画 第 1 回:ガイダンス 授業のねらいと進め方、授業計画、成績評価、履修に関する注意 など 第 2 回:表計算ソフトの復習(1) データの入力、表の保存・呼出し、表の編集、書式設定 第 3 回:表計算ソフトの復習(2) 計算式、関数 第 4 回:表計算ソフトの復習(3) グラフの作成、グラフの設定の変更 第 5 回:表計算ソフトの活用(1) いろいろな関数 第 6 回:表計算ソフトの活用(2) いろいろなグラフ 第 7 回:表計算ソフトの活用(3) データベース機能 第 8 回:統計処理(1) 基本統計量、度数分布表とヒストグラム 第 9 回:統計処理(2) 散布図、相関係数 第 10 回:統計処理(3) データの集計(ピボットテーブル) 第 11 回:マクロによる自動処理 第 12 回:応用課題(1) IF 関数の応用、表の検索 第 13 回:応用課題(2) 日付・時刻の関数 第 14 回:応用課題(3) 関数のグラフ 第 15 回:まとめと試験			
テキスト:初歩から実用まで 100 題で学ぶ表計算 第 5 版 森 夏節・常見ひろこ 日経 BP			
参考書・参考資料等:実践ドリルで学ぶ Office 活用術 noa 出版			
学生に対する評価: 授業内課題 70% 期末試験 30%			

授業科目名： 教育原理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：小山 誠南 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目（中・高）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・教育関係職員として必要な教育の歴史、制度、子どもを取り巻く環境の変化についての知識を獲得する。 ・教育問題を批判的に検討し、子どもたちが直面している困難の背景にある課題を発見する。 ・講義で取り扱うそれぞれのテーマが相互につながっていることを認識する。 			
授業の概要			
<p>教育とは、どのようなことを目指し、どのような人たちを対象とした営みなのでしょうか。本講義では、教育がどのような「理念」と「仕組み」の中で、どのように機能しているのかを、様々な事例から学び、そのあり方について考えていきます。また、この科目「教育原理」は、教員免許を取得するための基礎科目であり、教員採用試験に多く出題される内容となりますので、実際に教員採用試験に出題された問題を活用するなどして求められる知識を身に付け、教育関係職員を志す際に必要とされる資質と能力を養うことを目指します。</p>			
授業計画			
<p>第1回：この授業の目標・計画・成績評価について、教育とは何か？</p> <p>第2回：教育の本質、教育の歴史と思想</p> <p>第3回：教育の理念、教育の制度</p> <p>第4回：学校経営（学校経営と組織マネジメント、学校・教職員の法的責任と保護）</p> <p>第5回：教員養成と教職</p> <p>第6回：教育課程（学習指導要領、教育の諸課題と教育課程）</p> <p>第7回：学力論（知識基盤社会の時代に求められる学力、資質・能力と習得・活用・探究）</p> <p>第8回：学習指導、生徒指導・進路指導</p> <p>第9回：学級経営と集団づくり、道徳、特別活動、探究の時間、その他</p> <p>第10回：特別支援教育</p> <p>第11回：教育に関する行政と財政</p> <p>第12回：教育に関する法規</p> <p>第13回：人間形成と教育（1）：子どもの成長・生活をめぐる諸問題</p> <p>第14回：人間形成と教育（2）：家庭教育、地域の教育、生涯教育</p> <p>第15回：まとめ・最終テスト</p>			
テキスト			
<p>新版 よくわかる教育学原論 安彦 忠彦 ほか ミネルヴァ書房 9784623089758</p> <p>生徒指導提要(令和4年12月) 文部科学省</p>			
参考書・参考資料等：なし			
学生に対する評価：授業内課題 50% 期末試験 50%			

授業科目名： 教職入門	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：飛谷 淳一、 志賀 聡、金本 吉泰 担当形態：オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目（中・高）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義を通じて、教員として採用されるまでの道筋を解説することで、教職を目指す者の進路イメージの明確化を図る。 ・教職の意義、教員の役割、教育職員の職務内容に関して必要とされる基礎的な知識の獲得を目標とする。 			
<p>授業の概要</p> <p>教員免許の取得を志望する者が、今日の学校教育の諸課題を踏まえ教職の意義、教員の役割、職務内容について考察する中で、教職に就くために必要とされる資質、適性について理解を深めるとともに、教員免許の取得に必要な知識・技能の土台を形成することを目的とする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション等（担当：志賀）</p> <p>第2回：教師の仕事－生徒指導を通して子どもとどうかかわるか（担当：飛谷）</p> <p>第3回：様々な学校と子どもの現状（担当：志賀）</p> <p>第4回：力量ある教員とはなにか－分かりやすい授業を求めて（担当：志賀）</p> <p>第5回：指導計画について（担当：志賀）</p> <p>第6回：教員になるまでの道筋と勤務形態・採用形態（担当：飛谷）</p> <p>第7回：教育公務員の特徴－研修・サービス・身分（担当：飛谷）</p> <p>第8回：自分で授業の構想を考えてみよう（担当：志賀）</p> <p>第9回：専門性に基づくチーム学校の体制を考える（担当：志賀）</p> <p>第10回：SDG'sと教育について（担当：志賀）</p> <p>第11回：教師に必要とされる心構え（担当：飛谷）</p> <p>第12回：学校と教師の意義・やりがいについて（担当：金本）</p> <p>第13回：生徒とどう向き合うか（担当：金本）</p> <p>第14回：校内の教職員や専門性を持つ人材との連携（担当：金本）</p> <p>第15回：教職と学校についてのまとめ（担当：金本）</p> <p>定期試験</p>			
テキスト：講義の中で適宜指示します			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）</p> <p>高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）</p>			
学生に対する評価：授業内課題 80% 授業への参加態度 20%			

授業科目名： 教育社会学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：神守 一志 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目（中・高）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び 学校安全への対応を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育制度の歴史や現状について、法令などを基に理解する。 ・現代社会における教育の問題について、統計資料などを基に捉えることができる。 ・社会の変容に伴う学校教育の動向について、大局的な視点を持つことができる。 ・生徒の健全な育成を図るために、地域との連携が重要である点を理解する。 ・学校指導下での生徒の安全を守ることが大きな役割であることを理解する。 			
<p>授業の概要</p> <p>教育も社会的背景により変遷を遂げている現状からは、他の分野との関連で内容や課題を考える視座の重要性が看取される。したがって、この講義では、現代の学校教育に関する社会的、制度的又は経営的事項について、基礎的な知識を確実に身に付けるとともに、それらに関連する課題について考察を深める。また、学校と地域との連携や、危機管理を含む学校安全に関する基礎的な知識に触れ、教員として持つべき資質・能力を高めたい。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：講義のガイダンスとして、講義の目的と進め方について説明する。</p> <p>第2回：多様性の尊重とこれからの学校教育、子どもたちの居場所と子ども誰もが有する権利について今日的課題まで概観する。</p> <p>第3回：子どもの生活の変化を踏まえた指導上の課題と教育施策の動向、学習指導要領変遷について学ぶ。</p> <p>第4回：公教育の原理・理念や法規の種類・性質について学ぶとともに教科用図書の使用や教職員の服務に関する教育関係法規に触れる。</p> <p>第5回：教育行政の理念・仕組み・働きについて学ぶ。</p> <p>第6回：新しい学校制度である義務教育学校の実態について、成果と課題を明らかにしていく。</p> <p>第7回：前半の学習内容に対するまとめ、振り返り。</p> <p>第8回：学校問題（いじめ、不登校、学級崩壊など）について現状と課題を概観する。</p> <p>第9回：いじめ防止対策推進法の目的といじめの定義に則り積極的にいじめの認知を進めつつ、教職員一人一人のいじめ防止のための生徒指導力の向上の重要性について学ぶ。</p> <p>第10回：児童虐待を発見する上で、児童生徒と接する教職員の役割について、また、マルチリトメント、ヤングケアラーなどについても留意し福祉や医療、司法などの関係機関と適切に連携して対応することについて学ぶ。</p> <p>第11回：中途退学対策として、キャリア教育や進路指導等の日常的な教育活動を通じて、生徒が社会的・職業的自立に向けた資質・能力を身に付けるように働きかける発達支持的生徒指導を充実について学ぶ。</p> <p>第12回：開かれた学校づくり推進の経緯や地域との連携・協働による学校教育活動の意義・方</p>			

法について学ぶ。教育活動の年間の流れや学校評価、学校運営協議会のあり方について理解する。

第13回：学校安全の具体的な取組や、発達段階に応じた学校安全の進め方について学ぶ。

第14回：危機管理の目的や学校をとりまく新たな安全上の課題と具体的な対応について事例をもとに考察する。

第15回：これまでの講義の総括と補足をする。

定期試験

テキスト：随時レジュメ・プリントを使用する

参考書・参考資料等：なし

学生に対する評価：授業内課題 30% 期末試験 70%

授業科目名： 教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：三浦 公裕 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目（中・高）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標 教育心理学の基本的知識である発達、学習、記憶、動機づけについて理解できる。			
授業の概要 教育心理学の理論を理解することからはじめます。また、その理論が教育現場、人間の心理と、どう結びついているかを理解することにより、児童、生徒の気持ちが理論的に理解できるようになることをめざします。			
授業計画 第1回 教育心理学の意義と歴史 第2回 発達①：代表的な発達理論、乳幼児から青年期における運動発達、言語発達 第3回 発達②：乳幼児から青年期における認知の発達段階（ピアジェの知能発達段階説の紹介）、社会性の発達 第4回 発達③：生涯発達（エリクソンの心理社会的発達理論の紹介） 第5回 学習①：古典的条件づけによる学習（レスポナント、パブロフ） 第6回 学習②：道具的条件づけによる学習（オペラント、スキナー）、行動分析 第7回 学習と動機づけ①：授業場面での動機づけを高める工夫、コンピテンス 第8回 学習と動機づけ②：外発的動機付け、内発的動機付け 第9回 行動の形成：観察学習の仕組みと現実場面への適用例の紹介 第10回 学びの支援①：主体的な学びの授業（発見学習、有意味受容学習、共同学習、プロジェクト学習） 第11回 学びの支援②：個に応じた学びの支援（プログラム学習、完全習得学習、習熟度別学習と小集団学習、ティーム・ティーチング、ATI） 第12回 教育評価：教育評価の意義と目的、絶対評価、相対評価 第13回 適応の理解と支援①：いじめ、不登校、非行、スクールカウンセラー 第14回 適応の理解と支援②：学力観、教師の成長、メンタルヘルスなど 第15回 適応の理解と支援③：様々な発達と支援（LD、ADHD、精神疾患、特別支援教育など）			
テキスト：なし			
参考書・参考資料等：よくわかる教育心理学 中澤 潤 ミネルヴァ書房			
学生に対する評価：授業内課題 50% レポート 50%			

授業科目名： 特別支援教育論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：須賀 朋子 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目（中・高）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・各障害についての基本的な特徴や指導方法などを理解できる。 ・特別支援教育を行う様々な場（学校・学級等）での実践的な教育方法を理解できる。 ・医療・福祉・労働などの機関との連携や家庭との連携が理解できる。 			
授業の概要			
<ul style="list-style-type: none"> ・教員を目指す学生が特別支援教育についての知識を学び、障害があるために支援を必要とする幼児、児童生徒に対応できる基本的な力を身につける。 ・障害とは何かについて学ぶ。・それぞれの障害がどのようなものかについて幅広い知識を得ると共に、障害を有する幼児、生徒等が学ぶ場（特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室）でどのような指導が行われているのかを理解する。 ・通常の学級で特別なサポートが必要な子どもに対する指導の基本的な考え方を知り、そのようなケースに対応する知識を得る。 			
授業計画			
第1回 特別支援教育の教育課程について			
第2回 障害とは何か(障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援方法を考える)			
第3回 特殊教育から特別支援教育へ			
第4回 通級による指導、自立活動について。乳幼児から大人の知能・発達検査（WISC、WAIS）。			
第5回 知的障害(1) 幼児、児童生徒の知的障害は、個人の努力で克服すべきことか			
第6回 知的障害(2) 幼児、児童生徒の知的障害児のための特別支援学校について			
第7回 子どもが持つ感覚過敏について			
第8回 自閉症(1) 発見と多くの病因論・治療理論・教育論について			
第9回 自閉症(2) 自閉症の成人記録から、自閉症のイメージをつかむ			
第10回 発達障害について（学習障害）			
第11回 発達障害について（高機能自閉症・注意欠陥多動性障害について）			
第12回 肢体不自由について			
第13回 病弱障害について			
第14回 視覚障害			
第15回 聴覚障害			
定期試験			
テキスト：随時レジュメ・プリントを使用する			
参考書・参考資料等：なし			
学生に対する評価：授業内課題 50% レポート 50%			

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：志賀 聡 神守 一志 担当形態：オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目（中・高）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育において教育課程がもつ意義や役割を理解する。 ・学習指導要領改訂の変遷と各期の主な内容・特徴と社会的背景を確認及び考察しながら、学習指導要領を基準とする教育課程の意義や機能を理解する。 ・現行の学習指導要領のもとで特色ある学校づくりや教育活動を進めている中学校、高等学校における教育課程編成と学校評価の実例を学ぶ。 ・新学習指導要領の特徴や教育内容の改善事項を現行と比較・検討して理解を深める。 			
<p>授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育活動の全体計画である教育課程について、その意義、法令上のきまり、歴史的な変遷、新しい教育課程編成の実際について、「学習指導要領解説総則編」及び配布資料を使用しながら概説する。 ・その上で、現行教育課程の編成・実施の成果や課題、工夫・改善の取組等を調査・考察・発表させる活動を進めるとともに、新学習指導要領改訂の趣旨を理解させるため、新たな教育課程の編成・実施の在り方について考察・発表させる活動も取り入れる。 ・この「教育課程論」は学校の骨組みとなる教育課程の理解と学校現場で求められる求められるカリキュラムマネージについての資質と能力を養うことを目指します。 ・教育課程のについて他の教職科目との関連が深く、教員採用試験で多く出題される内容であることから、具体的な内容を多く取り上げて授業を展開する。 			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス、学校教育の目的・目標、学習指導要領とは、教育課程とは（担当：神守）</p> <p>第2回：学習指導要領と教育課程－ 学校における教育の内容・方法（担当：神守）</p> <p>第3回：学習指導要領と教育課程－ 学校が編成する教育課程の役割・意義（担当：神守）</p> <p>第4回：教育課程に関する法制－ 教育課程の基準・法令（担当：神守）</p> <p>第5回：学習指導要領の変遷－ 現行の学習指導要領に至る経緯、戦後の学習指導要領の変遷（担当：神守）</p> <p>第6回：現行の学習指導要領の背景にあるもの（担当：神守）</p> <p>第7回：中教審答申における学習指導要領改訂の基本的な考え方（担当：神守）</p> <p>第8回：教育課程の編成・実施に当たって配慮すべき事項（担当：志賀）</p> <p>第9回：教育課程の編成例、教育課程編成の原則（担当：志賀）</p> <p>第10回：就業やボランティアにかかわる体験的な学習の指導（担当：志賀）</p> <p>第11回：教育課程の編成・実施に当たって配慮すべき事項（担当：志賀）</p> <p>第12回：教育課程編成の手順と評価－ 高等学校の教育課程編成例、特色ある学校の教育課程の比較（担当：志賀）</p>			

第13回：新しい学習指導要領に至る経緯- 中教審教育課程特別部会「論点整理」（担当：志賀）

第14回：新しい学習指導要領の特徴・改善- 社会に開かれた教育課程、カリキュラム・マネジメント（担当：志賀）

第15回：まとめ・最終テスト（担当：志賀）

テキスト

高等学校学習指導要領解説 総則編（平成30年7月 文部科学省）

高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）

中学校学習指導要領解説 総則編（平成29年7月 文部科学省）

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

参考書・参考資料等：なし

学生に対する評価：授業内課題 50% 期末試験 50%

授業科目名： 道徳教育指導論	教員の免許状取得のための 必修科目（中免のみ）	単位数： 2単位	担当教員名：高橋 さおり 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	道徳の理論及び指導法		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解することができる。 ・学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解し、多様な視点から指導計画を作成することができる。 ・道徳教育の評価について、その狙いとする内容項目を踏まえ、生徒の成長を促す評価方法について理解し、評価表を作成することができる。 ・学校現場において、道徳教育を実施することができる。特に、1単位時間の道徳科の授業を実践することができる。 ・積極的に授業に取り組み、他者の意見を取り入れながら自己の考えを確立し、発表することができる。 			
授業の概要			
<p>道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神を踏まえ、自己の生き方や人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動です。道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を体系的に理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、批判的・論理的思考力のもと、実践的な指導力を身に付けます。</p> <p>授業は、中学校での特別の教科「道徳」を中心に上げ、読み物教材や視聴覚教材、郷土の歴史等地域の資料を活用するとともに、ディスカッションやグループワーク等を組み入れながら実施します。道徳教育は、青少年期の発達段階における人格形成のための核となる教科です。そのため、中学校教員免許取得のための必須教科となっています。</p>			
授業計画			
<p>第1回：ガイダンス</p> <p style="padding-left: 2em;">グループワークについて</p> <p style="padding-left: 4em;">①班分け ②アイスブレイク</p> <p>授業の前の学習</p> <p style="padding-left: 2em;">①教育法規 ②学習指導要領</p> <p style="padding-left: 2em;">道徳教育の概要（定義、目標、内容等）</p> <p>第2回：道徳教育の概要（定義、目標、内容等。道徳教育の歴史、道徳の基礎的理論 道徳教育の課題（いじめ、情報モラル等）。子供の心の成長と道徳性の発達・子供の 実態把握の方法の理解。</p> <p>第3回：特別の教科「道徳」（道徳科）の導入背景・目標・内容 特別の教科「道徳」（道徳科）の授業例1</p>			

第4回：特別の教科「道徳」（道徳科）の授業の実際1～生徒の立場から
第5回：道徳教育の全体計画、指導計画の作成と内容の取扱い <ul style="list-style-type: none"> ・特別の教科「道徳」（道徳科）の年間指導計画（意義、内容、作成上の留意点、指導方針等） ・道徳教育の全体計画の別葉（各教科科目、特別活動、総合的な学習（探究）の時間における道徳教育の計画）
第6回：特別の教科「道徳」（道徳科）の授業の展開 <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の定義と使用義務 ・多様な学習指導 ・教材開発 ・家庭・地域との連携 ・基本的な展開例と指導案の作成 <p>特別の教科「道徳」（道徳科）の授業例2</p>
第7回：特別の教科「道徳」（道徳科）の1単位時間の授業の組み立てと指導案の作成① ねらいの検討、学習指導過程の構想
第8回：特別の教科「道徳」（道徳科）の1単位時間の授業の組み立てと指導案の作成② 評価の進め方、板書計画
第9回：特別の教科「道徳」（道徳科）の授業の実際2～教諭の立場から <ul style="list-style-type: none"> ・読み物教材等による1単位時間の授業の組み立てと指導案作成、模擬授業の実施と振り返り
第10回：特別の教科「道徳」（道徳科）の授業の実際3～教諭の立場から <ul style="list-style-type: none"> ・体験活動等を活かした1単位時間の授業の組み立てと指導案作成、模擬授業の実施と振り返り
第11回：特別の教科「道徳」（道徳科）の授業の実際4～教諭の立場から <ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚・新聞教材等による1単位時間の授業の組み立てと指導案作成、模擬授業の実施と振り返り
第12回：高等学校における道徳教育の展開 <ul style="list-style-type: none"> ①目標、内容、指導体制、全体計画 ②特別活動と道徳教育 ③総合的な探究の時間と道徳教育 ④各教科・科目と道徳教育 ⑤実践事例
第13回：道徳教育の評価 <ul style="list-style-type: none"> ・中学校での評価～特別の教科「道徳」（道徳科）と道徳科以外の教育課程での評価 ・高等学校での評価
第14回：教員採用試験における道徳教育分野の演習
第15回：道徳教育のまとめと展望、課題レポート作成 定期試験
テキスト：なし
参考書・参考資料等 中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編（平成29年3月告示 文部科学省）
学生に対する評価 レポート 30% 授業内課題 60% 授業への参加態度 10% PC、スマートフォン等の使用等授業規律、グループワーク等への積極的な参加

授業科目名： 総合的な学習の時間の 指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：飛谷 淳一、 金本 吉泰 担当形態：オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導及び生徒指導、教育相談等に関する科目（中・高）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	総合的な学習の時間の指導法		
授業のテーマ及び到達目標 教科の横断的・総合的な学習や探究的な学習を理解するとともに、学び方やものの考え方を身に付ける。また、教科横断的な事例として、地域の課題を取り上げ模擬授業や指導法に関する基本的な知識・技術を習得する。			
授業の概要 「総合的な学習の時間」における目標及び内容、指導計画の作成と内容の取扱いについて概説する。その際、意義や年間指導計画の作成、評価や学習指導の基本的な考え方については、持続可能な社会の視点や社会との関わりを踏まえ考察する。なお、講義とあわせて実習・演習形式の授業を実施するとともに、模擬授業や課題設定等に向けてグループワークを取り入れ、検討結果の発表を行い共有する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、自己紹介、総合的な学習の時間の指導法の概説、授業の計画・進め方、成績・評価などの説明（担当：飛谷） 第2回：科目「総合的な学習の時間」における目標及び内容、指導計画の作成と内容の取扱い（担当：金本） 第3回：指導計画の作成と内容の取扱い、総則関連事項、教育課程や各教科との関連（担当：金本） 第4回：年間指導計画の作成、学習指導の基本的な考え方（主体的・対話的で深い学びを実現する指導計画の作成）（担当：金本） 第5回：「防災」をテーマとした模擬授業の学習指導案作成（担当：飛谷） ・各教科との関連性を図った事例をもとに作成 第6回：「防災」をテーマとした模擬授業および合評会①（地震）（担当：飛谷） 第7回：「防災」をテーマとした模擬授業および合評会②（大雨・台風）（担当：飛谷） 第8回：目標を実現するにふさわしい探究課題①（担当：飛谷） （国際理解、情報、環境などの現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題） 第9回：目標を実現するにふさわしい探究課題②（地域や学校の特色に応じた課題）（担当：飛谷） 第10回：目標を実現するにふさわしい探究課題③（生徒の興味・関心に基づく課題）（担当：飛谷） 第11回：目標を実現するにふさわしい探究課題④（職業や自己の進路に関する課題）（担当：飛谷） 第12回：「地域環境」をテーマとした模擬授業の学習指導案作成（担当：飛谷） ・各教科との関連性を図った事例をもとに作成			

第13回：「地域環境」をテーマとした模擬授業および合評会①（再生可能エネルギー）（担当：飛谷）
第14回：「地域環境」をテーマとした模擬授業および合評会②（地域資源の活用）（担当：飛谷）
第15回：「総合的な学習の時間」における指導のポイントや評価およびまとめ（担当：飛谷）
定期試験
テキスト：なし
参考書・参考資料等 中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編（平成29年3月告示 文部科学省） 高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編（平成30年3月告示 文部科学省）
学生に対する評価 レポート 50% プレゼンテーション 20% 授業への参加態度 30%

授業科目名： 特別活動論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：廣瀬 之彦 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導及び生徒指導、教育相談等に関する科目（中・高）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別活動の指導法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領(教育課程)における特別活動の位置づけや重要性を理解することができる。2 特別活動の指導の教育的・現代的意義や役割について理解し、説明することができる。 ・学級・ホームルーム活動の指導案や特色ある学校行事の年間指導計画を作成する基礎的力を身に付ける。 ・学級・ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事の機能を理解し、学校現場において生徒に指導を実践する基礎的力を身に付ける。 ・積極的に授業に取り組み、他者の意見を取り入れながら自己の考えを確立し、発表することができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>今日、各学校には、特色ある教育活動や開かれた学校づくりが求められています。「特別活動」は創意工夫の余地の広い活動領域であることから、特色ある学校づくりに大きな役割を果たしています。また、特別活動は、道徳教育を実践する中核となる等、学校教育目標の具現化に重要な役割を担っています。</p> <p>この講義では、望ましい集団活動を通して展開される特別活動の目標、内容、教育的意義及び学級・ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事についての指導計画、実践・評価の一連の流れを、実践事例によるケーススタディやグループワークによる意見交換をとおして学びます。学びを通して、特別活動の特性や重要性、指導の在り方について体系的に理解するとともに、学校現場で特別指導を効果的に実践し、生徒の生きる力を育む教育に寄与できる態度を養います。</p> <p>本授業では、高等学校の特別活動を主として取り上げます。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス</p> <p>①15回の授業の予定②特別活動論の到達目標③学びのポイント④成績評価基準</p> <p>授業に入る前に</p> <p>①教育の法体系②社会の変化と子供の教育をめぐる現状と課題③身に付けさせたい資質・能力（学習指導要領）④教育課程</p> <p>グループワークについて</p> <p>①グループ分け②アイスブレイク</p> <p>特別活動の概要-特別活動とは-</p> <p>第2回：特別活動の概要</p> <p>①特別活動とは②特別活動の目標・視点等</p> <p>③特別活動の構成と各々の特別活動のねらい</p> <p>第3回：特別活動の教育活動全体における意義</p>			

①生徒・進路指導と特別活動②教育課程（各教科・科目、道徳教育、総合的な探究の時間）と特別活動

特別活動の変遷

第4回：特別活動特別活動の全体計画と年間指導計画

- ①全体計画の作成②各活動・学校行事の年間指導計画
- ③家庭・地域住民や関係機関との連携について

第5回：ホームルーム活動のすすめ方と指導のポイント

- ①目標②内容③授業時数等の取扱い④指導計画

第6回：ホームルーム活動の実践①

- ・1単位時間のホームルーム活動を考える

第7回：ホームルーム活動の実践②

- ・1単位時間のホームルーム活動を考える

第8回：学校行事の進め方と指導のポイント

- ①目標②内容③授業時数等の取扱い④指導計画⑤各学校行事の具体例

第9回：学校行事の進め方と指導のポイント

教科・科目、総合的な学習の時間、道徳教育と連動した学校行事を考える

第10回：生徒会活動の進め方と指導のポイント

- ①目標②内容③授業時数等の取扱い④指導計画

第11回：生徒会活動の進め方と指導のポイント

- ・生徒会顧問として、生徒会運営・執行部生徒への指導の在り方を考える

第12回：特別活動の評価・指導体制

第13回：部活動指導と学校農業クラブ活動について～進め方と指導のポイント～

- ・家庭・地域住民や関係機関との連携

第14回：学校現場（高等学校）における特別活動の実際

- ・特色ある取組を実践している学校の具体例
- ・家庭・地域住民や関係機関との連携について

第15回：まとめ、反省、試験

- ・試験はレポート形式で行います。第15回当日詳細を提示します。

テキスト

中学校学習指導要領解説 特別活動編（平成29年3月告示 文部科学省）

高等学校学習指導要領解説 特別活動編（平成30年3月告示 文部科学省）

参考書・参考資料等：なし

学生に対する評価

レポート 30% 授業内課題 60% 授業への参加態度 10% PC、スマートフォン等の使用等授業規律、グループワーク等への積極的な参加

授業科目名： 教育方法・ICT活用論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：金本 吉泰 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導及び生徒指導、教育相談等に関する科目（中・高）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の方法及び技術 ・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法 		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>1. 第7回までの授業では、学習と教育に関する基礎的な理論および実践例を理解し、資質・能力を育成するための基本的な指導法を身に付けるとともに、学習指導要領で示されている「主体的、対話的で深い学び」を実現するための学習指導案の作成能力を身に付ける。</p> <p>2. 第8回以降は、以下を目標とする。①情報通信技術の活用の意義と理論を理解する。②情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方について理解する。③生徒に情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための基礎的な指導法を身に付ける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>1. 第1回から第7回までは教育の方法に関する理論や実践、学習指導要領に関する内容を中心に理解を深める。</p> <p>2. 第8回以降はICTを活用して「主体的、対話的で深い学び」を促すための理論と方法を、演習に取り組みながら理解し身につける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：教育の方法と資質・能力（情報活用能力を含む）の育成</p> <p>第2回：学習指導要領と指導方法の変遷、目的に応じた学習指導案の作成</p> <p>第3回：学習指導要領と求められる指導方法</p> <p>第4回：授業を組み立てるための基礎知識（教授法、板書について）</p> <p>第5回：主体的・対話的な深い学びの実現（そのための授業技術）</p> <p>第6回：学習評価と教育の効果</p> <p>第7回：第1回～第6回を振り返り、学習指導案を作成</p> <p>第8回：ICTを活用した学習・教育の意義と理論 （社会的背景の変化と技術の発展、個別最適な学びと協働的な学びの実現、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善、特別の支援を必要とする生徒に対するICTを活用の意義と課題、学校における組織体制と整備の在り方、情報活用能力および情報モラルなど）</p> <p>第9回：遠隔授業におけるグループワーク実施と指導法</p> <p>第10回：動画編集とLMSの基礎と活用方法</p> <p>第11回：プレゼン動画の作成と活用方法</p> <p>第12回：プレゼン動画の編集と指導法</p> <p>第13回：LMSにおける情報提供型教材の作成と活用方法</p> <p>第14回：LMSにおける学生が能動的に関わる教材の活用（生徒との対話）と指導法</p> <p>第15回：LMSにおけるスタディ・ログの活用方法（学習管理・成績評価・校務への利用）と</p>			

教育情報セキュリティの重要性、最終レポート提出
テキスト：なし
参考書・参考資料等 中学校学習指導要領解説 総則編（平成 29 年 3 月告示 文部科学省） 高等学校学習指導要領解説 総則編（平成 30 年 3 月告示 文部科学省） ルポ MOOC 革命 金成隆一 岩波書店 400002230X ソーシャルメディア炎上事件簿 小林直樹 日経 BP 社 9784822227210
学生に対する評価 授業内課題 90% 授業への参加態度 10% e ラーニングへの取り組み

授業科目名： 生徒・進路指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 山田 潮 武井 昭也 担当形態：オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導及び生徒指導、教育相談等に関する科目（中・高）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法 		
授業のテーマ及び到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・教師力の根幹である生徒指導についての理解を深め、現在の学校教育課題を多面的・多角的に捉え、その解決について、その知識を応用することができる。 ・生徒理解の方法（カウンセリングマインド、エンカウンター、特別支援教育方法）と意義を理解し、教育相談に対応できる基礎的な力を身に付ける。 ・危機管理についての理解を深め、生徒自ら主体的に危機を回避できる力の育成について自らの考えを構築することができる。 ・キャリア教育について理解するとともに、生徒に寄り添い生徒の生きる力を育むキャリア教育を実践できる基礎的な力を身に付ける。 ・積極的に授業に取り組み、他者の意見を取り入れながら自己の考えを確立し、発表することができる。 			
授業の概要 <p>生徒・進路指導は学習指導とともに学校教育の両輪です。本授業は、全教職関係科目の基礎的な力を身に付けるための科目です。</p> <p>生徒指導とは、児童生徒が社会の中で自分らしく生きることができる存在へと自発的・主体的に成長や発達する過程を支える教育活動です。学校現場では、いじめ、不登校など、生徒指導上の課題も抱えており、教師には生徒指導力の向上が強く求められています。また、進路指導においては、生徒、ひとりひとりを尊重した進路指導を体系的に行うキャリア教育の概念を理解し、実践できる力が強く求められています。</p> <p>学校現場において適切な生徒・進路指導ができるよう、生徒・進路指導の在り方や方法について体系的に理解します。そして、実践事例をとおして、生徒・進路指導に関する現在の学校が抱える課題について、ディスカッション・グループワーク等で検討、教員としての役割と責任を理解し、生徒の生きる力を育む教育に寄与できる態度を養います。</p>			
授業計画 <ul style="list-style-type: none"> ・授業は令和4年改訂「生徒指導提要」を参考に進めます。 ・授業の進行状況等により、各回の内容が変更になる場合があります。適宜、お知らせします。 <p>第1回：授業のガイダンス、事前学習、グループワークの説明・アイスブレイク、生徒指導・進路指導の概念と内容（山田）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス（①15回の授業の予定 ②生徒・進路指導論の到達目標 ③学びのポイント ④成績評価基準） 2. 授業前の確認事項学習（①教育の法体系 ②社会の変化と子供の教育をめぐる現 			

状と課題③学校教育とは ④身に付けさせたい資質・能力（学習指導要領）

3. グループワークについて（①グループ分け ②アイスブレイク）

4. 生徒指導提要について

第2回：生徒指導の基本的な進め方～生徒指導の基礎①（山田）

1. 生徒指導の意義、2. 生徒指導の構造、3. 生徒指導の方法

第3回：生徒指導の基本的な進め方～生徒指導の基礎②（山田）

1. 生徒指導の基盤、2. 生徒指導の取組上の留意点

生徒指導の基本的な進め方～生徒指導と教育課程

1. 児童生徒の発達を支える教育課程、2. 教科の指導と生徒指導、3. 道徳科を要とした道徳教育における生徒指導、4. 総合的な学習（探究）の時間における生徒指導、5. 特別活動における生徒指導

第4回：生徒指導の基本的な進め方～チーム学校による生徒指導体制①（山田）

1. チーム学校における学校組織、家庭・関係機関等との連携・協働、2. 生徒指導体制、3. 教育相談体制、4. 生徒指導と教育相談が一体となったチーム支援、5. 危機管理体制

第5回：生徒指導の基本的な進め方～チーム学校による生徒指導体制②（山田）

生徒指導に関する法制度等の運用体制

1. 校則 2. 懲戒、体罰、不適切な指導 3. 出席停止制度 4. 停学、退学

第6回：個別の課題に対する生徒指導～いじめ（山田）

1. いじめ防止対策推進法等、2. いじめの防止等の対策のための組織と計画、3. いじめに関する生徒指導の重層的支援構造、4. 関係機関等との連携体制

第7回：個別の課題に対する生徒指導～暴力行為（山田）

1. 暴力行為に対する対応指針等、2. 学校の組織体制と計画、3. 暴力行為に関する生徒指導の重層的支援構造、4. 関係機関等との連携体制

個別の課題に対する生徒指導～少年非行

1. 少年法・児童福祉法等、2. 少年非行への視点、3. 少年非行への対応の基本、4. 関係機関等との連携体制、5. 喫煙・飲酒・薬物乱用

第8回：個別の課題に対する生徒指導～不登校不登校（山田）

1. 不登校に関する関連法規・基本指針、2. 不登校対応に求められる学校の組織体制と計画、3. 不登校に関する生徒指導の重層的支援構造、4. 関係機関等との連携体制
個別の課題に対する生徒指導～暴力行為、少年非行

個別の課題に対する生徒指導～中途退学

1. 中途退学の関連法規と基本方針、2. 中途退学の理解、3. 中途退学の未然防止と組織体制、4. 中途退学に至る予兆の早期発見・対応、5. 中途退学者の指導と関係機関との連携体制

第9回：個別の課題に対する生徒指導～インターネット・携帯電話に関わる問題（山田）

1. 関連法規・基本方針等、2. インターネット問題への組織的取組、3. インターネットをめぐる問題に対する重層的支援構造、4. 関係機関等との連携体制

第10回：個別の課題に対する生徒指導～性に関する課題（山田）

1. 性犯罪・性暴力対策の強化の方針、2. 性に関する課題の早期発見・対応、3. 性

犯罪・性暴力に関する生徒指導の重層的支援構造、4. 「性的マイノリティ」に関する課題と対応

個別の課題に対する生徒指導～多様な背景を持つ児童生徒への生徒指導

1. 発達障害に関する理解と対応、2. 精神疾患に関する理解と対応、3. 健康課題に関する理解と対応、4. 支援を要する家庭状況

第11回：個別の課題に対する生徒指導～自殺（山田）

1. 自殺対策基本法等、2. 自殺予防のための学校の組織体制と計画、3. 自殺予防に関する生徒指導の重層的支援構造、4. 関係機関等との連携に基づく自殺予防の体制

個別の課題に対する生徒指導～児童虐待

1. 児童福祉法・児童虐待の防止等に関する法律等、2. 学校の体制、3. 児童虐待の課題予防的生徒指導、4. 児童虐待の発見、5. 児童虐待の通告、6. 関係機関との連携体制個別の課題に対する生徒指導～安全教育

第12回：進路指導とキャリア教育（武井）

1. 進路指導・キャリア教育の意義、2. 今後の学校における進路指導・キャリア教育の在り方、3. 学校における進路指導・キャリア教育の展開、4. 高大接続改革、5. 職業教育の展開

第13回：進路指導とキャリア教育（武井）

1. 学校における進路指導・キャリア教育の展開、2. 高大接続改革、3. 職業教育の展開

第14回：進路指導・キャリア教育（武井）

- ・学校における進路指導・キャリア教育の実際
- ・特色ある取組を実践している学校の具体例～農業高校における実践事例

第15回：まとめ、反省、試験（山田）

試験はレポート形式で行います。第15回当日に詳細を提示します。

テキスト：なし

参考書・参考資料等：生徒指導提要（令和4年12月 文部科学省）

学生に対する評価

レポート 30% 授業内課題 60% 授業への参加態度 10% PC、スマートフォン等の使用等授業規律、グループワーク等への積極的な参加

授業科目名： 教育相談論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：三浦 公裕 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導及び生徒指導、教育相談等に関する科目（中・高）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標 教育相談における、マナーを身に着ける。教育相談で必要とされる、理論を身に着ける。教育相談の方法を身に着ける。心理・発達検査の読み取りができるようになる。			
授業の概要 学校における適切な「教育相談」の指導のための資質と能力を身につける。特に学校現場で実際に会うであろう、様々な「教育病理」について、その問題の理解のために、必要な臨床心理学やカウンセリングの知識・理論を身につけるとともに、教師としてどのように実践的な対応・支援ができるかを、実際の事例検討や、実践的な教育相談の技法を通して考え、学んでいく。			
授業計画 第1回 オリエンテーション。思春期の発達課題と教師の「教育相談」 第2回 教育心理学から考える教育相談 第3回 自傷行為とは何か 第4回 自殺を予防するために 第5回 発達検査を用いた教育相談 第6回 心理検査を用いた教育相談 第7回 保護者対応 第8回 少年犯罪。問題の理解と実践的な対応。 第9回 「いじめ」の世界。問題の理解と実践的な対応。 第10回 「不登校」という選択。問題の理解と実践的な対応。 第11回 カウンセリングマインドとは何か。カウンセリングの基本的姿勢や技法。 第12回 教師の燃え尽き 第13回 スクールカウンセラーと教師の「教育相談」。学校内及び地域の専門機関との協働的な相談活動の実際。 第14回 愛着と暴力の関係 第15回 情動とは何か～メンタルヘルスの観点から～			
テキスト：なし			
参考書・参考資料等：生徒指導提要（令和4年12月 文部科学省）			
学生に対する評価：授業への参加態度 50% 授業内課題 50%			

シラバス：教職実践演習

シラバス：教職実践演習 (中・高1免)		単位数：2単位		担当教員名 教職担当：志賀 聡、飛谷 淳一 金本 吉泰	
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	○
受講者数	20人程度(3コースで実施)				
教員の連携・協力体制 ・担当教員3名での打ち合わせ・情報共有等を授業前後に実施 ・第3回～第13回は各グループの進捗状況を担当者間で共有し、連携を図る					
授業のテーマ及び到達目標 ・これまでの教職課程での学習を振り返り自身の成果と課題を分析することで、課題克服のための実践的な知識と技能を身に付ける。 ・教育職として職務を遂行する上で必要とされる使命感や責任感、教育的な愛情表現、社会性や対人関係能力、生徒理解や学級経営に関する力量、教科等の指導力、プレゼンテーション資料の作成及び報告に関する能力と態度を身に付ける。					
授業の概要 「教職実践演習」はこれまで学んだ全ての教職科目の総復習で、4年間で教員としての最小限必要な資質能力が備わったかどうかを確認し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、教職生活を円滑にスタートさせることを目指しています。各授業の中で受講生による相互ディスカッションや教科指導に必要とされる授業計画と生徒指導力及び各種研究力を向上するとともに、教育現場で必要とされる知識と技能、コミュニケーション能力の育成を目指します。また、各コースの活動を通じて、教師としての使命と子どもの実態についての理解を深め、教育職としての実践的な力量の向上を目指した総合的なプログラムを展開します。					
授業計画 第1回：授業オリエンテーション(コース内容紹介、希望調査) 第2回：コース別打ち合わせ及び授業の進め方について 第3回：これまでの振り返りとコースごとの課題設定(グループ編成及び演習課題の設定) 第4回：各グループでの課題設定及び活動計画作成(グループ討論) 第5回：活動計画に基づくフィールド研究、調査研究等の実施 第6回：各課題を踏まえた活動の実施 第7回：各グループの活動の進捗状況確認及び交流 第8回：進捗状況報告での議論を踏まえた、今後の計画の修正 第9回：修正計画に基づく活動の実施 第10回：調査結果、研究結果のまとめと考察 第11回：報告会に向けたプレゼンテーション資料の作成 第12回：各コースの研究活動報告会①(教育課程に関わる報告) 第13回：各コースの研究活動報告会②(教科指導に関わる報告) 第14回：各コースの研究活動報告会③(指導方法とICTの活用に関わる報告) 第15回：教職課程の振り返り・履修カルテの完成					
テキスト 使用しない					
参考書・参考資料等 適宜参考資料を配布する、履修カルテ					
学生に対する評価 授業内課題(40%)、レポート(30%)、プレゼンテーション(30%)					

※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。

※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。